

日本教育心理学会 第56回総会 プログラム

Program of the 56th Annual Meeting of
The Japanese Association of Educational Psychology



2014年11月7日(金)～9日(日)
神戸国際会議場(担当校：神戸大学)

日本教育心理学会 第56回総会 プログラム

Program of the 56th Annual Meeting of
The Japanese Association of Educational Psychology

2014年11月7日(金)～9日(日)

神戸国際会議場(担当校：神戸大学)

総会準備委員長挨拶

この度、わが国の心理学諸学会のなかでとりわけ伝統のある日本教育心理学会第56回総会を、神戸にお迎えする運びとなりました。

第56回総会テーマは「学びの場を共に創る」です。学びは学校や家庭を含むあらゆる環境において、多様なレベルで進んでいきます。発達と学習を切り離すことなく、社会的な活動としてとらえ直してみると、発達＝学習は多様な心身のプロセスを生み出します。学びと人々の相互理解の道筋を共に創ることができればと願っております。

準備委員会では、基調講演を2本企画しました。ニューヨークのEast Side Instituteを主催するLois Holzman博士を招聘講師として迎え、パフォーマンスを基盤とする新しい心理学の方向性を共に探りたいと思います。また、認知科学の立場からつねに知のフロンティアを形成されている佐伯 胖先生（東京大学・青山学院大学名誉教授、公益社団法人信濃教育会教育研究所所長）に、「学びの場が生まれるとは」というテーマで、基調講演をいただきます。その他、「わかるとは」というテーマをはじめとして、神戸大学ならではのシンポジウムやチュートリアルセミナーなどを企画しました。

人間発達環境学研究科を中心に神戸大学の心理学スタッフが力を合わせて開催の準備をしました。会場は神戸三宮からポートライナーで10分、神戸国際会議場です。秋の夕暮れ、海と山の景色はとりわけ映えわたります。第56回総会準備委員会一同、多くの会員の皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

第56回総会準備委員会（神戸大学）

委員長 森 岡 正 芳

目 次

会場のご案内	6
参加者へのご案内	13
研究発表のご案内	16
総会日程	18
授賞式・会務報告会	21
準備委員会企画基調講演	22
準備委員会企画シンポジウム	26
準備委員会企画チュートリアルセミナー	30
準備委員会企画公開パネルディスカッション	32
研究委員会企画シンポジウム	33
研究委員会企画チュートリアルセミナー	36
ハラスメント防止委員会企画講演	38
自主企画シンポジウム	40
ポスター発表	60
発表者索引	115

会場のご案内

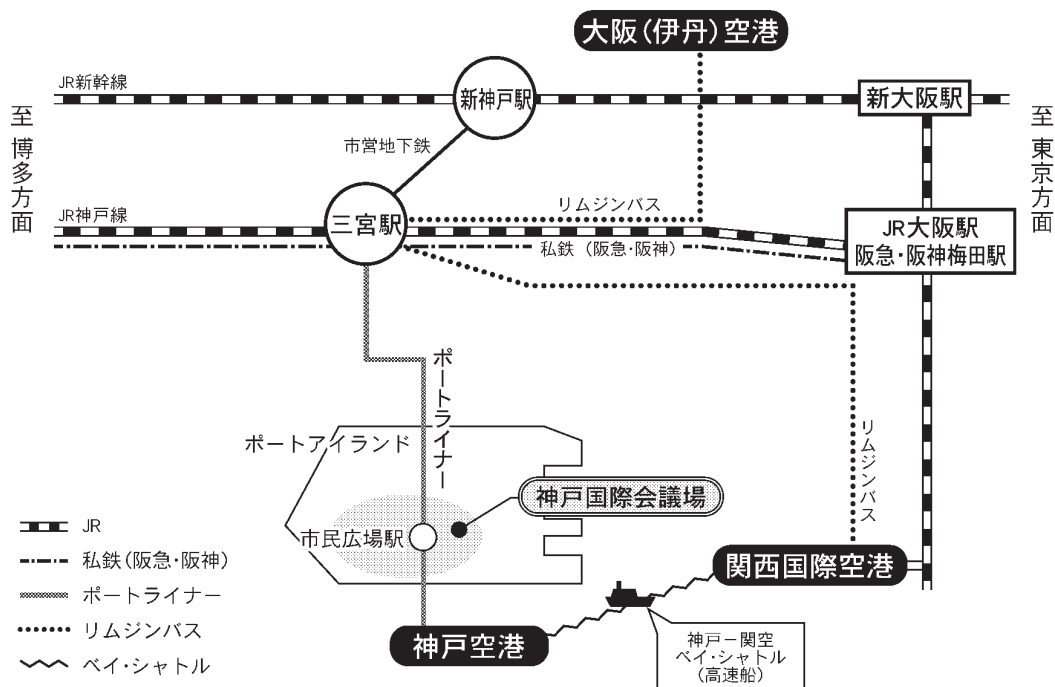
神戸国際会議場

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-9-1

電話：078-302-5200 <http://www.kobe-cc.jp/>

■ 最寄り駅はポートライナー「市民広場駅」

「市民広場駅」から徒歩2分



主要駅からのアクセス

■ JR三ノ宮・阪急神戸三宮・阪神神戸三宮・神戸市営地下鉄三宮の各駅から

→ 徒歩でポートライナー三宮駅まで約3分

→ ポートライナーで市民広場駅まで約10分

■ 新幹線新神戸駅から

神戸市営地下鉄で三宮駅まで約3分

→ 徒歩でポートライナー三宮駅まで約3分

→ ポートライナーで市民広場駅まで約10分

■ 新幹線新大阪駅から

JR神戸線でJR三ノ宮駅まで約30分

→ 徒歩でポートライナー三宮駅まで約3分

→ ポートライナーで市民広場駅まで約10分

空港からのアクセス

■ 神戸空港から

ポートライナーで神戸空港駅から市民広場駅まで約8分

■ 大阪（伊丹）空港から

リムジンバスで神戸（三宮）まで約40分

→ ポートライナーで市民広場駅まで約10分

■ 関西国際空港から

リムジンバスで神戸（三宮）まで約70分

→ ポートライナーで市民広場駅まで約10分

または

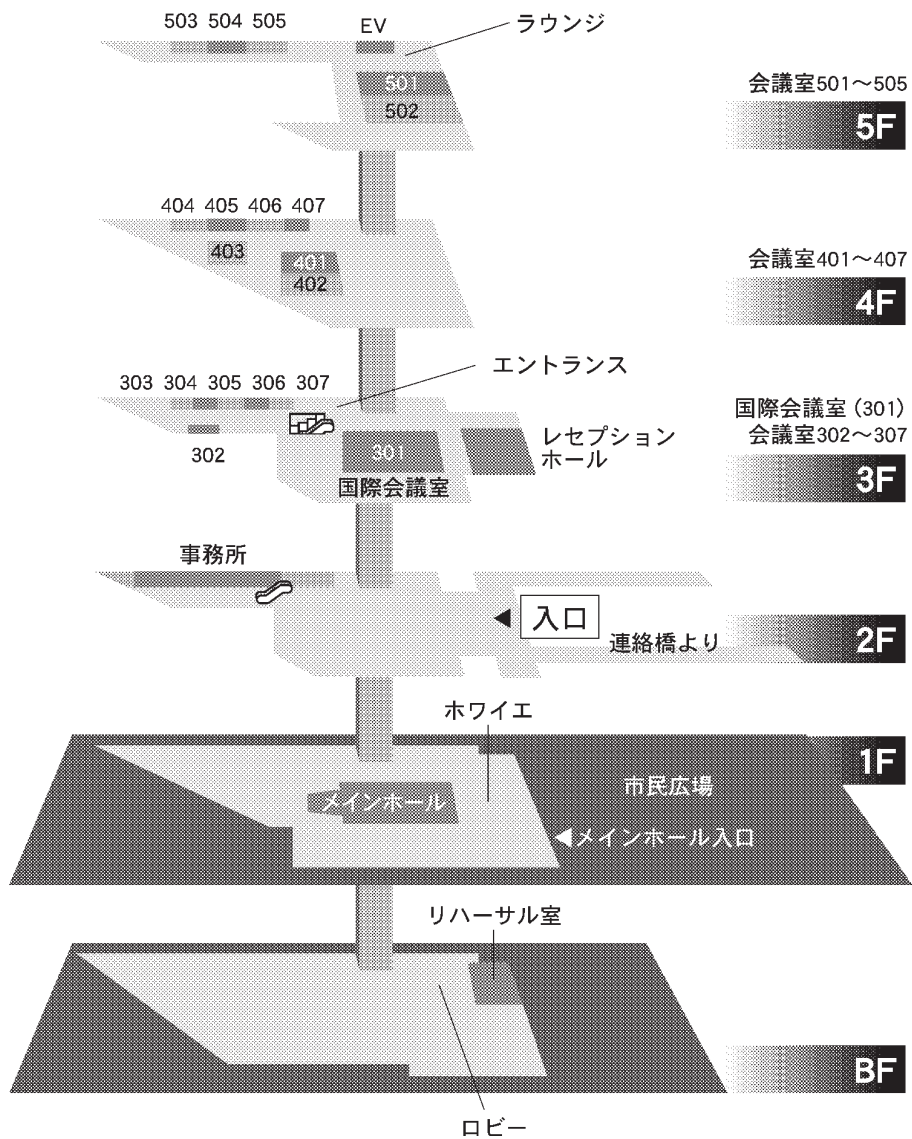
高速艇 神戸－関空ベイシャトルで神戸空港まで約30分

→ ポートライナーで神戸空港駅から市民広場駅まで約8分

会場周辺案内図



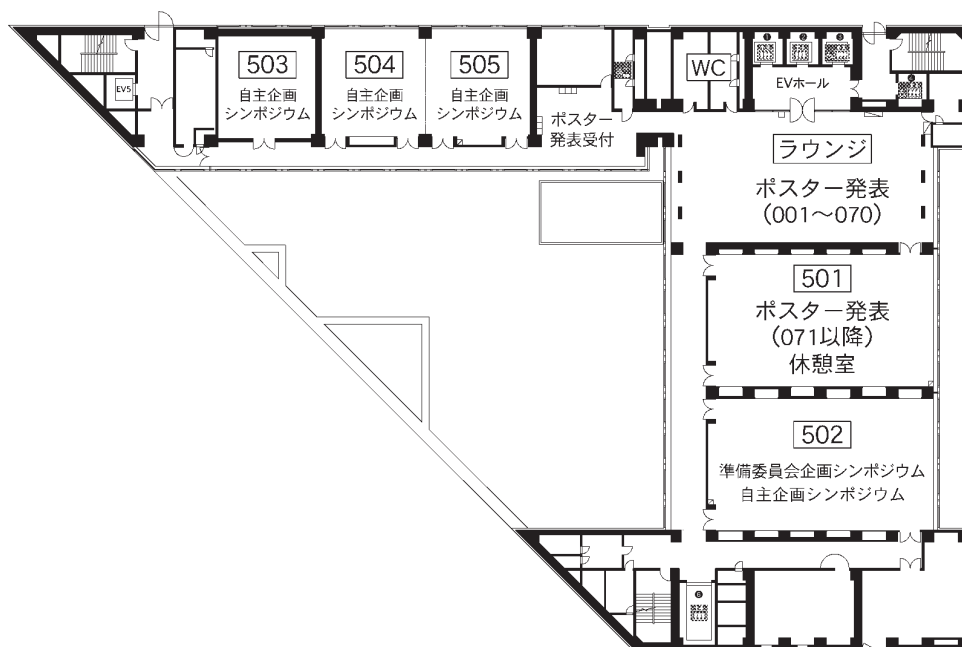
会場フロア案内図



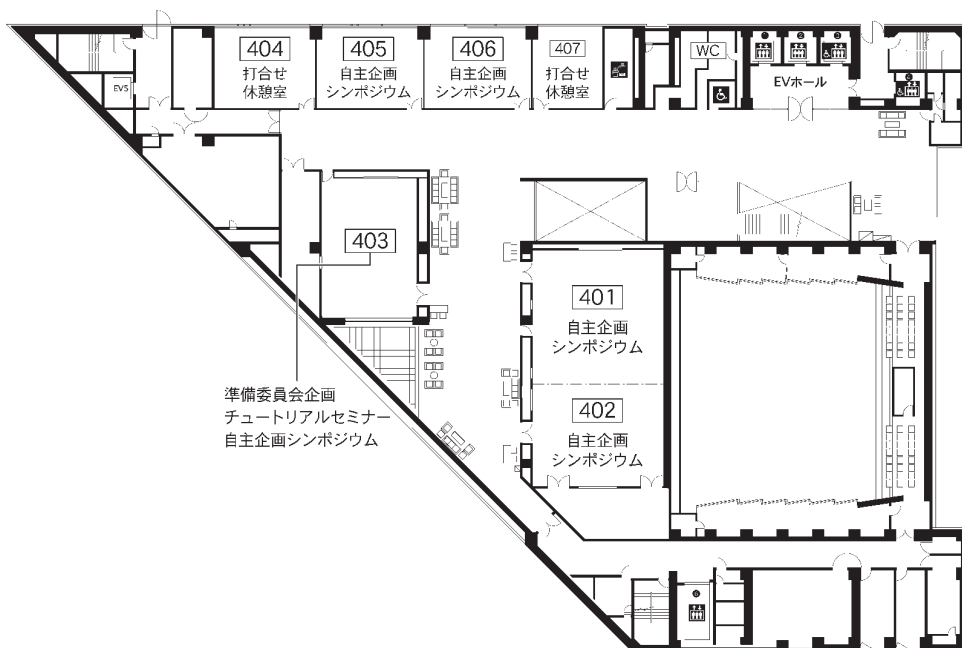
5階	ラウンジ	ポスター発表
	501	ポスター発表・休憩室
	502	準備委員会企画シンポジウム
		自主企画シンポジウム
	503・504・505	自主企画シンポジウム
4階	401・402・405・406	自主企画シンポジウム
	403	準備委員会企画チュートリアルセミナー
		自主企画シンポジウム
	404・407	打合せ・休憩室
3階	エントランス	<u>総合受付</u>
		シンポジスト・名誉会員・終身会員受付
		発表変更
		各種問合せ
	レセプションホール	書籍販売・機器展示
	301国際会議室	授賞式・会務報告会
		研究委員会企画シンポジウム
		研究委員会企画チュートリアルセミナー
		ハラスメント防止委員会企画講演
		自主企画シンポジウム
	307	総会本部
2階	入口	<u>事前参加申込みをされている方の入口</u>
1階	メインホール	準備委員会企画基調講演
		準備委員会企画シンポジウム
		準備委員会企画公開パネルディスカッション
	ホワイエ	<u>当日参加申込みの方および参加章を忘れた 方の受付</u>
B1階	リハーサル室	クローク
	ロビー	休憩室

総会会場フロアマップ

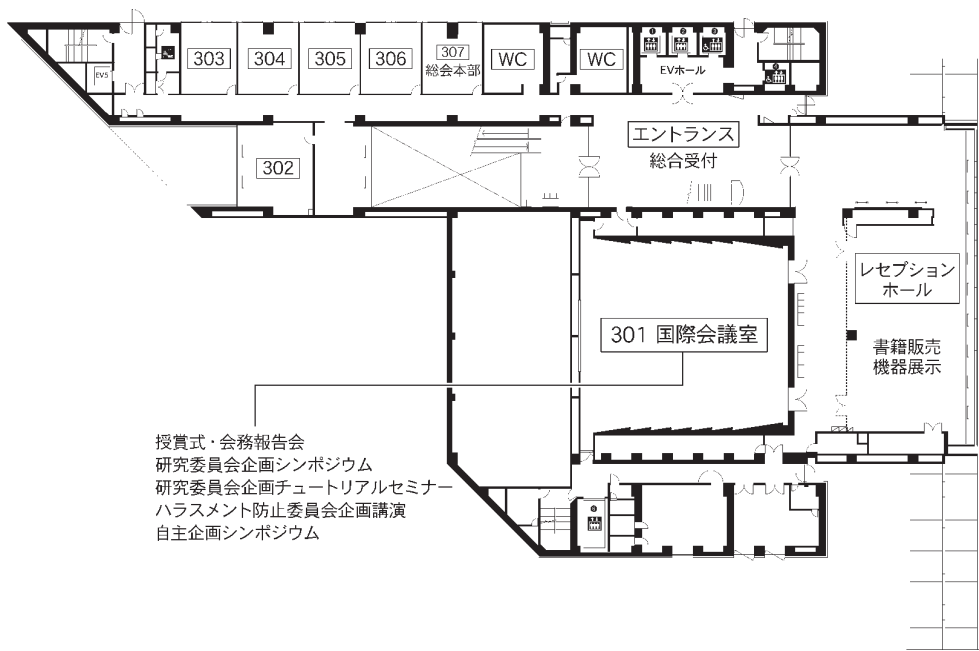
5階



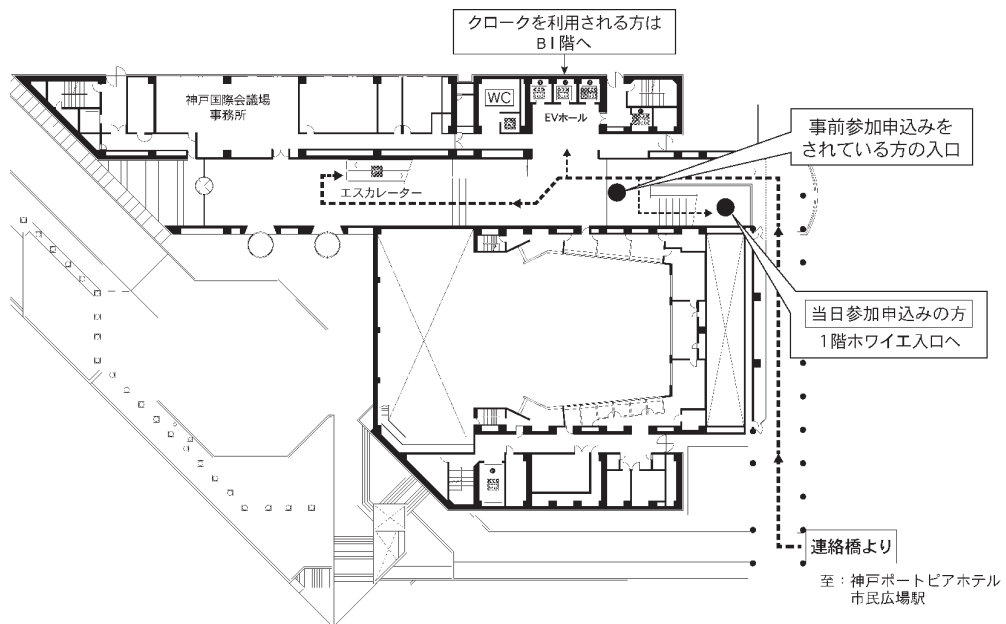
4階



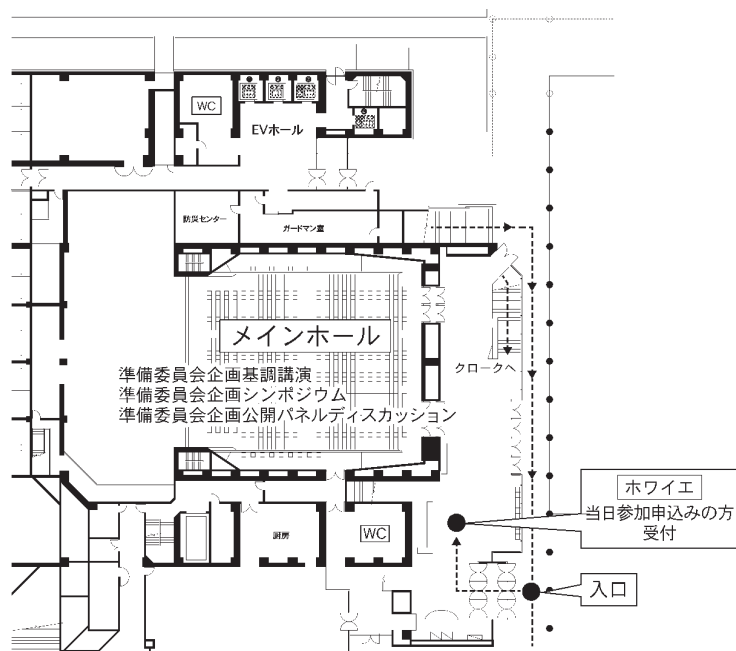
3階



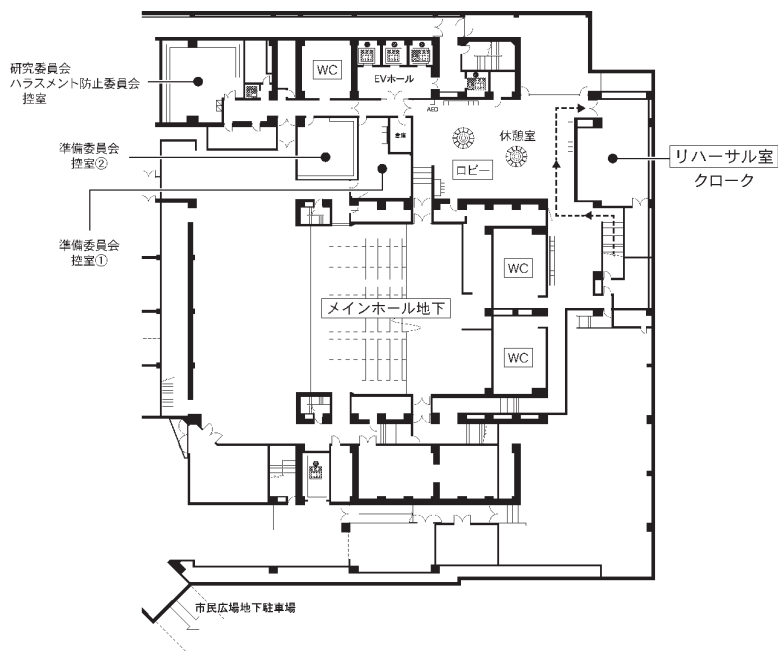
2階



1階



B1階



参加者へのご案内

1. 参加章

総会期間中は必ず参加章をお付けください。

2. 事前参加申込みをされている方の受付

事前にお送りした参加章を持っている方は受付の手続きは要りません。ポートライナー市民広場駅より連絡橋を通り、神戸国際会議場の2階入口より会場へお入りください。会務報告会資料や手提げ袋を3階の総合受付付近に用意してありますので、適宜お取りください。

参加章を忘れた方は、1階のメインホール前ホワイエの受付にて、再発行申込み用紙に必要事項を記入して、手続きをしてください。

3. 当日参加申込みの方の受付

当日参加申込みの方は、1階のメインホール前ホワイエの受付にて、参加申込み用紙に必要事項を記入して、総会参加費を添えてお申込みください。

<受付時間>

第1日 9:00～16:00

第2日 8:30～17:00

第3日 9:00～13:30

<総会参加費>

	3日間参加	1日のみ参加
会員の方	11,000円	
会員でない方	12,000円	5,000円
学部学生の方	5,000円	2,000円

<懇親会参加費>

一般の方	6,000円
院生・学部学生の方	4,000円

ポスター連名発表者が総会に参加される場合は、別途、参加費が必要です。なお、会員でない自主企画シンポジウム登壇者が会期を通して参加する場合は、7,000円(お振込み済みの登壇者参加費との差額)で参加できます。

4. 名誉会員・終身会員・招待シンポジスト等の方の受付

3階の総合受付までお越しください。参加章をお渡しします。

5. フローフ

B1階「リハーサル室」にて、荷物をお預かりいたします。預ける荷物には、貴重品を含めないようお願いいたします。利用時間は以下の通りです。

第1日 9:00～18:50

第2日 8:30～18:50(懇親会に参加される方は、その前に荷物をお受取りください)

第3日 9:00～16:20

6. 昼食

当日、3階の総合受付に周辺マップを用意しますが、周辺には飲食店が少ないので、予め昼食を用意されることをおすすめします。

2日目の授賞式・会務報告会の会場には、軽食を用意します。

7. 打ち合わせ・休憩室

会期中、以下の部屋をご利用ください。

4階404 第1日 9:30～18:00 第2日 13:30～18:00 第3日 9:30～15:00

4階407 第1日・第2日 9:30～18:00 第3日 9:30～15:00

5階501の一部 第1日・第2日 9:30～18:00 第3日 9:30～15:00

4階およびB1階のロビーもご利用ください。

8. 懇親会

総会第2日の19:00から、会場に隣接している神戸ポートピアホテル南館B1階「トパーズ」にて行います。

参加者数に余裕がある場合には当日の受付もいたします。

9. インターネットの利用

会場では無線LANでインターネットに接続できます(メインホールを除く)。パソコンは各自ご用意ください。

SSID: jaep56

PW: y2014

10. 託児室サービス

会期中、託児室を設けますので、どうぞご利用ください。利用時間は以下の通りです。

第1日 9:00～18:50

第2日 9:00～18:50

第3日 9:00～16:20

委託先は小学館集英社プロダクション総合保育サービスHASです。ご利用希望の方は、10月31日（金）までに学会事務局（office@edupsych.jp）へご連絡ください。

11. シンポジウム等の録音・録画

シンポジウム等の録音・録画については、著作権および肖像権の保護のため、企画者（司会者）より録音・録画を許可する旨のアナウンスがある場合を除き、お控えください。

12. コピー機・プリンタの利用

2階の神戸国際会議場事務所にて、各自、有料で利用できます。

13. 連絡先

<会期前>

日本教育心理学会事務局

E-mail：office@edupsych.jp

TEL：03-3818-1534

<会期中>

総会本部（3階307）

TEL：090-5201-0234（総会期間中のみ使用できます）

研究発表のご案内

ポスター発表

1. ポスター発表は、5階のラウンジ（発表番号001から070まで）と501（発表番号071以降）で行います。
2. 「発達」、「教授・学習・認知」、「社会」、「人格」、「臨床」、「特別支援」、「学校心理学」、「測定・評価・研究法」の8部門で行います。
3. 割り当てられたセッション中（2時間）ポスターを掲示し、かつ、プログラムで指定された在席責任時間（ポスター番号が奇数の方は前半1時間、偶数の方は後半1時間）の間、質疑に応じることにより正式発表とみなします。在席責任時間以外の時間でもできるだけ在席してください。なお、それぞれの在席責任時間中に、発表者の在・不在の確認をします。
4. 責任発表者は、セッション開始10分前までに、5階ラウンジ奥のポスター発表受付にお越しください。責任発表者を示すりボンをお渡しします。リボンはセッション終了後にポスター発表受付にご返却ください。
5. セッション開始5分前までに発表会場の指定された番号のパネルにポスターを貼ってください。ポスター番号は、プログラムに記載してあります。
6. パネルの大きさは、縦210cm、横90cmです。ポスター最上部には発表題目、発表者の氏名、所属を大きく記載してください。
7. 文字の大きさに特に指定はありませんが、ポスターから離れた位置（約2m）からでも読める大きさにしてください。
8. 責任発表者が欠席した場合、および在席責任時間中に在席の確認ができなかった場合は原則「発表取消」となります。ただし、連名発表者がいる場合は、申請のうえ、連名発表者の1人を責任発表者に変更することができます。なお、責任発表者になるのは1人1回に限りますので、他の発表の責任発表者になっている方に変更することはできません。責任発表者の欠席、変更などについては、会期前はメールで学会事務局に、会期中は当該発表の30分前までに3階の総合受付にお申し出ください。
9. 配付資料がある場合は、必要部数を各自で事前にご用意ください。また、配付も各自でお願いします。
10. 掲示したポスターは、セッション終了後10分以内に外してください。次の発表予定者の準備時間を確保するために、終了後10分を経過しても掲示したままのポスターは取り外し、処分しますのでご了承ください。

自主企画シンポジウム

1. 各会場に、プロジェクターを用意しています。パソコンは各自でご用意いただき、備え付けのプロジェクターに接続してください。
お持込みが可能な機種は、WindowsXP以降が動作するもの、またはMacでモニター出力端子がミニD-sub15ピンが装備されているものに限りです。パソコンによって出力端子の規格が異なる場合がありますので、映像出力の専用アダプターを必ずご持参ください。
2. 登壇者の欠席等については、会期前はメールで学会事務局に、会期中は当該シンポジウムの開始30分前までに3階の総合受付にお申し出ください。
3. 配付資料がある場合は、必要部数を各自で事前にご用意ください。また、配付も各自でお願いいたします。会場ごとには係員を配置しません。

準備委員会ならびに研究委員会企画シンポジウム等

1. 各会場に、プロジェクターを用意しています。パソコンは各自でご用意いただき、備え付けのプロジェクターに接続してください。
お持込みが可能な機種は、WindowsXP以降が動作するもの、またはMacでモニター出力端子がミニD-sub15ピンが装備されているものに限りです。パソコンによって出力端子の規格が異なる場合がありますので、映像出力の専用アダプターを必ずご持参ください。
2. 会場には、係員を配置します。配付資料がある場合は、開始10分前までに会場係員にお渡しください。

総会日程 第1日 11月7日(金)

		9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
部屋名 (人数)											
5階	ラウンジ			ポスター発表 PA001～070			ポスター発表 PB001～070			ポスター発表 PC001～070	
	501			ポスター発表 PA071～099			ポスター発表 PB071～098			ポスター発表 PC071～098	
5階	502 (190)			(自主)JA02 生徒指導における「精神的充足・社会的適応力」評価尺度(KJQ)の発展的活用			(自主)JB02 予防的心理教育プログラムの導入と展開			(自主)JC01 道徳授業における談話と学習過程へのアプローチ	
	503 (50)			(自主)JA08 生きがい研究から見えてくるもの(2)			(自主)JB08 保育に生かす巡回相談Ⅲ			(自主)JC07 地域・社会との関係から捉える児童・青年の学校適応	
	504 (50)			(自主)JA06 学校現場のくチーム援助>をどのように促進するのか			(自主)JB06 学習のつまずきと学校適応に関するアセスメント・支援方法			(自主)JC05 教師・学校との協働による予防教育への実践研究を拓く	
	505 (50)			(自主)JA07 偶発的・即興的に生起する学びの探究			(自主)JB07 居場所で過ごす青少年たち			(自主)JC06 発達障害児の認知特性と学校適応の評価・支援	
4階	401 (90)			(自主)JA03 教育に資するための行動遺伝学研究			(自主)JB03 越境の説明をはぐくむ大学教育のための心理学			(自主)JC02 なぜ子どもへの学習支援が役立たなくなるのか	
	402 (70)			(自主)JA05 自閉症スペクトラム障害における言語コミュニケーション機能の評価と支援			(自主)JB05 認知行動療法に関する生徒指導・教育相談研修会のあり方			(自主)JC04 ネットいじめと匿名性信念	
	403 (80)			(自主)JA04 折り紙(origami)研究の可能性(3)			(自主)JB04 改めて幼児教育と小学校教育の学びの連続性を問う			(自主)JC03 学校教育と自己の発達	
	406 (40)						(自主)JB09 青年期におけるアイデンティティとコミュニケーション			(自主)JC08 対人援助職の現状と実践力育成について考える	
3階	301 国際会議室 (230)			(自主)JA01 感情的実践			(自主)JB01 認知心理学からみた教授学習過程研究の現状と今後の展開			(研)チュートリアルセミナー1 教育・臨床実践のための介入効果の解析と評価	
1階	メインホール (680)									(準)基調講演1 学びと発達をパフォーマンスする	

(準)=準備委員会企画, (研)=研究委員会企画, (自主)=自主企画シンポジウム

※紙面の都合上, 副題は省略しています。

総会日程 第2日 11月8日(土)

		9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
部屋名 (人数)											
5階	ラウンジ			ポスター発表 PD001～070			ポスター発表 PE001～070		ポスター発表 PF001～070		
	501			ポスター発表 PD071～099			ポスター発表 PE071～099		ポスター発表 PF071～099		
5階	502 (190)			(自主)JD01 授業デザインの最前線			(自主)JE01 認知カウンセリングの 講習・研修のあり方		(準)シンポジウム 2 わかるとは		
	503 (50)			(自主)JD07 巡回相談における効果 的な連携を考える			(自主)JE06 児童の学習を支える力 の育成・支援		(自主)JF06 学校で行うエビデンス ベースの心理プログ ラム		
	504 (50)			(自主)JD05 岡山県総社市における 「だれもが行きたくな る学校づくり」			(自主)JE04 心理学を活かした教員 養成 (3)		(自主)JF04 様々な授業に応用可能 な批判的思考スキルの 教育法		
	505 (50)			(自主)JD06 いじめ防止法施行後の 学校現場から			(自主)JE05 学校におけるいじめ問 題への予防的な関わり		(自主)JF05 中等教育における授業 づくりの課題と支援		
4階	401 (90)			(自主)JD02 小学校における法教育 の可能性を探る			(自主)JE02 質の高い学習を支援す る教育評価のありかた		(自主)JF01 高等教育におけるリテ ラシー (コンピテン シー) の開発		
	402 (70)			(自主)JD04 発達障害児を対象とし た感情の理解と調整の 教育支援の可能性			(自主)JE03 媒介分析とマルチレベ ルSEMとメタ分析に ついてじっくり聞く		(自主)JF03 学校教育における読解 力と幼児教育のイン ターアクション		
	403 (80)			(自主)JD03 罪に問われた障害のある青年に 対するネットワーク型支援シ ステムの構築と予防的アプローチ			(準)チュートリアルセミナー 教育心理学の未来		(自主)JF02 数学教育における言語 活動の意味		
	405 (40)						(自主)JE08 特別支援教育における 学校内パニックの対応		(自主)JF08 異動プロブレム		
	406 (40)			(自主)JD08 悩みを抱えながら相談 にこない学生への多様 な資源を生かした支援			(自主)JE07 教職大学院における特 別支援教育に関する資 質向上の取組		(自主)JF07 児童生徒支援において 学校内外のチーム力を どう生かすか		
3階	301 国際会議室 (230)			(研)シンポジウム 1 ワーキングメモリ理論と発達 障害		12:15～ 13:15 授賞式・ 会務報告会	ハラスメント防止講演 ハラスメントに関わる リスクマネジメントの あり方		(研)シンポジウム 2 性のあり方を個人差として扱 うことの可能性		
1階	メイン ホール (680)			(準)基調講演 2 学びの場が生まれるとは			(準)シンポジウム 1 ヒューマン・コミュニティ (HC) 創成マインドにもとづく地域と の協同実践研究の課題と展望		(準)公開パネルディスカッション 大災害に対して心理学はこれ まで何をしてきたのか?これ から何をすべきなのか?		

(準)=準備委員会企画, (研)=研究委員会企画, (自主)=自主企画シンポジウム

※紙面の都合上, 副題は省略しています。

総会日程 第3日 11月9日(日)

		9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
部屋名 (人数)											
5階	ラウンジ			ポスター発表 PG001～070			ポスター発表 PH001～070				
	501			ポスター発表 PG071～097			ポスター発表 PH071～101				
5階	502 (190)			(自主)JG01 21世紀型スキルと キー・コンピテンシー			(自主)JH01 文系学生に対する心理 統計教育				
	503 (50)			(自主)JG07 我が子の発達障害傾向 を受容できない保護者 の支援			(自主)JH07 保育士・教員養成の現 状と課題				
	504 (50)			(自主)JG05 学力向上を支える学級 集団の育成			(自主)JH05 アドラー心理学とクラ ス会議で子どもの市民 性を育てる				
	505 (50)			(自主)JG06 中等教育での学びと高 等教育での学び			(自主)JH06 学校における文化研究 の新たな可能性				
4階	401 (90)			(自主)JG02 子どもたち自身による、 ネット・スマホ問題対策 の可能性と評価について			(自主)JH02 青年期の食				
	402 (70)			(自主)JG04 自己調整学習のできる 子どもを育てる			(自主)JH04 言語/文化的に多様な 子ども達が「演じる」 ことの意味				
	403 (80)			(自主)JG03 再考、学校教育相談の 固有性・独自性(その 1)			(自主)JH03 教育現場における「い のちの授業」の取り組 み				
	405 (40)						(自主)JH09 障害の重い子どもが取 り組む学習とは(続)				
	406 (40)			(自主)JG08 21世紀の日本にワロン の発達教育思想をどう 生かすか(3)			(自主)JH08 子どものキャリア形成 に寄与する学校外要因 の心理学				
3階	301 国際会議室 (230)			(研)シンポジウム3 教科教育に心理学はどこまで 迫れるか(4)			(研)チュートリアルセミナー2 発達障害のある大学生への 「合理的配慮」とは何か				
1階	メイン ホール (680)			(準)シンポジウム3 特別支援教育の展望：インク ルーション教育の目指すべきも の			(準)シンポジウム4 青年期研究のこれまで とこれから				

(準)=準備委員会企画, (研)=研究委員会企画, (自主)=自主企画シンポジウム

※紙面の都合上, 副題は省略しています。

授賞式・会務報告会

第2日 11月8日(土) 12:15～13:15

3階 国際会議室

城戸奨励賞・優秀論文賞の授賞式ならびに受賞者のスピーチ，そして学会の活動報告と意見交換の会を開催します。

お昼の時間ですので，会場に軽食をご用意します。また，お弁当をご持参いただいてもかまいません。どうぞ気軽にご参加ください。

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. 総会準備委員長のあいさつ | 森岡正芳 総会準備委員長 |
| 2. 城戸奨励賞選考経過と講評 | 本郷一夫 選考委員長 |
| 3. 城戸奨励賞授与と受賞者のことば | 各受賞者 |
| 4. 優秀論文賞選考経過と講評 | 服部 環 選考委員長 |
| 5. 優秀論文賞授与と受賞者のことば | 各受賞者 |
| 6. 学会の活動報告と意見交換 | 南風原朝和 理事長 |
| 7. 第57回(2015年)総会の案内 | 大浦容子 次期総会準備委員長 |

準備委員会企画基調講演

準備委員会企画基調講演 1

第1日 11月7日(金) 16:00~18:30

1階 メインホール

学びと発達をパフォーマンスする —成長のための学校— Let's Perform, Learn, and Develop !

講師 Lois Holzman# (East Side Institute for Group and
Short Term Psychotherapy: 集団・短期心理療法イ
ーストサイド研究所)

司会 森岡正芳 (神戸大学)

通訳 當眞千賀子 (九州大学)



【企画趣旨】

ロイス・ホルツマンは、現在ニューヨークで、集団・短期心理療法イーストサイド研究所を主宰し、即興パフォーマンスを中核とする独自の社会療法を実践し、心理社会支援に関わる多くの臨床実践者を育成している。一昨年初来日し、その講演とワークショップは心理学の実践領域に多大な反響を巻き起こした。この講演では、学習はそのまま発達であるというホルツマン独自の観点を紹介し、心理教育実践の未来の方向性を示す『パフォーマンス心理学』の形成について、共に探っていききたい。

【講師紹介】

1977年言語発達心理学で学位を取得し (Columbia University), 言語発達・学習の生態学的研究から研究を始めたホルツマンは、マイケル・コールらとともに、ヴィゴツキー理論を生態学的言語発達研究と融合させる形で研究を進め、LD児に関する一連の生態学的研究を発表している。以上の研究を基盤に、ニューヨークハーレム地区にBarbara Taylor Schoolという実験学校を創設し、貧困、人種差別、エイズ等の様々な問題を抱える子どもたちを対象に、地域コミュニティのリーダー育成を目指して実践的研究が行われた。さまざまな心の問題を社会的な状況と関連づけ、コミュニティの構築を目指す社会療法と名づ

けられる独特の社会的臨床活動を積極的に行っている。2001年より毎年行われている「世界をパフォーマンスする」(Performing the World)は、市民参加型の多文化、多領域の学問と実践交流協働の場となり、国際的に大きな影響を与えつつある。

【主な著書】

- Holzman, L. (2009). *Vygotsky at work and play*. London and New York: Routledge.
- Holzman, L. and Mendez, R. (Eds.), (2003). *Psychological investigations: A clinician's guide to social therapy*. New York: Brunner-Routledge.
- Holzman, L. and Morss, J. (Eds.), (2000). *Postmodern psychologies, societal practice and political life*. New York: Routledge.
- Holzman, L. (Ed.), (1999). *Performing psychology: A postmodern culture of the mind*. New York: Routledge.
- Holzman, L. (1997). *Schools for growth: Radical alternatives to current educational models*. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum.

学びの場が生まれるとは

講師 佐伯 胖[#] (東京大学・青山学院大学名誉教授,
公益社団法人信濃教育会 教育研究所)
司会 城 仁士 (神戸大学)



【講演趣旨】

従来、「学習」とよばれていたことが、最近では「学び」と言い換えられることが多い。しかし、拙著『「学び」の構造』(東洋館)が刊行された当時(1975年)、「学び方」とか「学ぶ」ということばは日常語(非・専門用語)としてつかわれていたが、名詞形としての「学び」ということばは世間的にはほとんど見かけなかった。実は、同書の書名は、慶應義塾大学の村井実教授(当時)に付けていただいたものである。原稿を書き上げた後、村井教授に原稿を読んでいただき、どういう書名にしましょうかとご意見をうかがったところ、しばらくお考えになって、「九鬼周造という人が書いた『「いき」の構造』という本がある。内容はちがうが、それにちなんで『「学び」の構造』というのはどうかね。」と言われて、即座に「そうしましょう。」と決めたのである。

拙著『「学び」の構造』の底流には、「行動主義心理学の学習論」への批判がある。それは米国で、はっきりと反・行動主義の旗印の下で、「認知心理学」という新しい心理学の誕生を目の当たりにしてきたことによる。そこから、心理学用語としての「学習」ではなく、人間の根源的な営みとしての「学び」を問おうとしたのである。(「認知心理学」自体、それまでの心理学が扱ってきた「知ること」にかかわる研究を、人間の「知る」営みの原点から総ざらえ的に問い直そうという「運動」から生まれた。)

『「学び」の構造』刊行から40年近くたった今日、行動主義心理学の学習論はかなり「下火」になってきている。しかし、「学習」を「学び」と言い換えているだけで、底流には行動主義的な学習観がぬぐい切れていない面があるのではないだろうか。

このことは、「教育心理学」を「心理学」の応用と見るのか、それとも、「教育」ということ自体を、人間の「こころ」にかかわる営みとして問い直すか—当然、これまでの「心理学」の問い直しと、これまでの「教育」観の問い直しの両方を含む—にかかっている。さて、本講演の題名「学びの場が生まれるとは」だが、この「学びの場」をどう考えるかを問題にしたい。ここでいう「学びの場」というのは、当然、「教育の場」の中でのものだ

と考える人が多いだろう。その場合、「教育」というのを、「教え (instruction)」と考えてしまうと、そのなかの「学びの場」ということが、「教えによって生まれる」学習ということになれば、いつのまにか、行動主義的学習論の呪縛にはまってしまう。

そうではなく、まず「学び」そのものを、「学ばないではおられない」人間の根源的な営みとみなし、それが生まれ育つ場、つまり「学びの場」を中心に据えて、そこから「教育の場」を再定義していくこと—これは、「教育心理学」の根本的な見直しだ—を、ここで提言したい。

さて、そこで、「学ばないではおられない」人間が、なぜ、「学ばないではおられない」のか。その「答え」をここで明言し、その内容は講演を聴いていただくことにする。その「答え」とは、「人間は他者と関わり合う存在であり、他者と関わり合うことなくしてはいられない存在だから」というものである。

【講師のプロフィール】

<略歴>

慶應義塾大学工学部管理工学科卒業，同大学院管理工学専攻修士課程修了後，米国ワシントン大学大学院心理学専攻に入学，昭和45年同博士課程修了 (Ph. D.)，昭和46年4月より東京理科大学理工学部助教授，東京大学教育学部助教授，同教授，大学院教育学研究科長・教育学部長を経て平成12年3月東京大学を停年退職し，東京大学名誉教授となる。同年4月より青山学院大学文学部教育学科教授，平成20年4月より，移籍により同社会情報学部教授。平成25年3月に青山学院大学を退職し，青山学院大学名誉教授となる。平成23年4月より公益社団法人信濃教育会教育研究所所長。平成25年4月より，多摩美術大学情報デザイン学科客員教授となる。

<主な著書>

『「学び」の構造』 東洋館 1975年

『イメージ化による知識と学習』 東洋館 1978年

『認知科学の方法』（認知科学選書10） 東京大学出版会 1986年

『「学ぶ」ということの意味』 岩波書店 1995年

『「わかる」ということの意味 [新版]』 岩波書店 1995年

『新・コンピュータと教育』 岩波書店 1997年5月

『マルチメディアと教育—知識と情報，学びと教え—』 太郎次郎社 1999年

『「学び」を問いつづけて—授業改革の原点—』 小学館 2003年

『「わかり方」の探求—思索と行動の原点—』 小学館 2004年

『幼児教育へのいざない—円熟した保育者のなるために—[増補改訂版]』 東京大学出版会 2014年

編著『共感—育ち合う保育のなかで—』 ミネルヴァ書房 2007年

共著『子どもを「人間としてみる」ということ』 ミネルヴァ書房 2013年

<翻訳>

R・ド・シャーム著佐伯胖訳 『やる気を育てる教室』 金子書房 1980年

J・レイブ&E・ウェンガー著佐伯胖訳 『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加—』 産業図書 1993年

準備委員会企画シンポジウム

準備委員会企画シンポジウム1

第2日 11月8日(土) 13:30~15:30

1階 メインホール

ヒューマン・コミュニティ(HC)創成マインドにもとづく 地域との協同実践研究の課題と展望

企画・司会・話題提供 城 仁士 (神戸大学)

話題提供 岡田修一# (神戸大学)

話題提供 伊藤 篤 (神戸大学)

【企画趣旨】

人間発達やその形成研究にとって、高度な専門的力量を実際の現場や学際的研究フィールドにおいて、それらに携わる人々と協働しながら発揮していくことは非常に重要なことである。このように他の大学や研究領域の研究者だけでなく非専門家とも協力し合いながら、地域・NPO・企業・行政と協働するために欠かすことのできない重要な資質または能力を「ヒューマン・コミュニティ創成マインド (Human and Community Development Mindset)」と定義する。すなわち神戸大学人間発達環境学研究科・発達科学部は創設以来、人間の発達とそれを支える活動を行っている地域組織、NPO、NGO、企業、行政、学校等の人々と連携しながら、研究・実践を深め、人間らしさにあふれたコミュニティの創成を目指して研究活動を行っている。本研究科・学部で取り組んでいる数多くのプロジェクトのうちタイプの異なる3つのプロジェクト(基幹、サテライト型、地域出張型)を今回取り上げ、教育心理学が貢献できる地域協同実践研究の現状や生じた問題に対する対処及び今後の課題について討議を深めたい。

わかるとは

企画・司会	森岡正芳	(神戸大学)
話題提供	田島充士	(東京外国語大学)
話題提供	宮崎清孝	(早稲田大学)
話題提供	溝上慎一	(京都大学)
話題提供	野村晴夫	(大阪大学)
指定討論	佐伯 胖#	(公益社団法人信濃教育会 教育研究所)
指定討論	中村和夫	(京都橘大学)

【企画趣旨】

「わかるとは」教育の現場では、もっとも重要な課題である。子育て保育や学校教育の場で学習と発達に関わる教師、保育士、養育者たちは、子どもたちが取り組んでいる教科内容の理解が進む、技能が上達することへの手ごたえに喜びを感じる。子どもたちはどこがわからないのかをまず把握し、冷静な現状の分析と適切な教材研究と教授法の開発が求められることはいうまでもない。

また、学校、養護施設、自立支援施設で働く心理士が多くなった。現場でどのような知識と技能が求められるのだろう。たとえば社会的養護の現場で、子どもたちがどのような困難をかかえているかの見立ては、多職種協働という場で、誰にもわかるように伝えられ、共有されることが必要である。他方で、子どもたちの行動を客観的な測定にもとづく把握だけではなく、生活の場で実践者が関わりいっしょに動いているさなかで、子どもたちの姿がどのように立ち現れるかを把握し、共有する。このような知のあり方が模索されている。

教育や対人援助の場では、対象を見きわめ特定し、分類する知 (aboutness knowing) だけでなく、対象がどうあるのかをいっしょに探る知 (withness knowing) の両者が必要である。この二つの知をどのようにつなぐか。現代の教育心理学研究の大きな課題として浮上する。

わかることには複数の次元がある。熟達化のプロセスは知的理解の次元だけでなく、身体レベルで場になじみこむことが欠かせない。学習は反復が基本である。そのときはよくわからぬこともまずは繰り返し身につける。身体からわかること (embodiment) の大切さはよく指摘されるが、知的理解の次元とどのような質の違いがあるのだろうか。

わかることは、対象を自分の世界にひきつけるという側面がある。そうすると対象は固定され限局される。教育の場でも臨床の場でも、子どもたちの能力に対する専門家による分類の言葉は有力で、固定した実体として扱われやすい。実践場面でもっとも警戒すべきことは、言葉の習慣的な使用による意味の平板化、固定化である。「自分がすでに知っていることだけが明らかになるように言語を用いるならば、生はきわめて単純なものになる」(Stern, D.B.1997)。「わかったつもり」が世界を卑小化してしまう。

「解るということはそれによって自分が変わるということでしょう。」(上原専祿)

本当にわかるという体験は、関わる方の私に自分がわかっていなかった、知らなかったという驚きが伴う。この驚きは実践者、研究者の側に内省 (reflection) を引き起こすのである。自身の思い込みを反省しつつ、さらに相手に関わり問いかけてみたくなる。

よくわからないこと、未確定のことはむしろ発達成長の可能性を暗に示してもいい。一人一人の子どもに応じた発達の近接領域をともに作り、いっしょに歩む。このような態度は学校家庭での教育や、対人援助の場でさらに活かせるのではないか。学校や家庭の生活文脈の中で、自己と他者相互理解の成り立ちを明らかにしていくことは、教育心理学の実践的課題として重要である。

以上のような課題をめぐって、このシンポジウムでは、学校教育や対人支援の最前線の研究者に話題提供をいただく。そして、わかることの研究に長年打ち込んでこられた二人の代表的研究者に討論をいただき、多面的で、創造的な対話の場が生まれることを期待したい。

特別支援教育の展望：インクルーシブ教育の目指すべきもの ーユニバーサルデザインと専門性ー

企画・指定討論	鳥居深雪	(神戸大学)
企画・司会	河崎佳子	(神戸大学)
話題提供	海津亜希子	((独) 国立特別支援教育総合研究所)
話題提供	佐藤克敏	(京都教育大学)
話題提供	鳥越隆士	(兵庫教育大学)
話題提供	井上雅彦	# (鳥取大学)

【企画趣旨】

「障害」のとりえ方は、国際生活機能分類（ICF）以降、個人の身体機能・精神機能に、背景因子（環境因子と個人因子）を加味した包括的な考え方に変化してきている。2013年に改訂されたDSM-5においても、この考え方が反映され、適応状態を加味した連続的なものとして、障害の状態を診断するように変化している。

一方、2013年にはあらゆる障害者の尊厳と権利を保障する「障害者権利条約」が批准された。この条約の理念に基づき、教育においても、共生社会の実現に向けて、インクルーシブ教育システムが求められている。2012年7月、文部科学省中教審初等中等教育部会「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」が発表された。報告では、インクルーシブ教育システム構築のためには、(1)医療、保健、福祉、労働等との連携強化、(2)障害のある子どもが、地域での生活基盤を形成するために、可能な限り共に学ぶことができるよう配慮すること、(3)障害者理解を推進することにより、公平性を確保しつつ社会の構成員としての基礎を作っていく、といった考え方に基づいて、特別支援教育を発展させていくことが必要である、としている。

障害のある子どもが十分な教育を受けるためには、「合理的配慮」が重要である。インクルーシブ教育は、通常の教育との連続性を持ちながらも、障害のある子どもの教育を受ける権利を保障するために「多様な学びの場」を提供するものでなければならない。

通常の教育と特別なニーズを持つ子どもへの教育とのモデルとして、アメリカのResponse to Intervention：RTIモデルがある。これは、子どもの理解の状態に合わせて、通常の学級内での効果的な指導（レベル1）、配慮を加えた補足的な指導（レベル2）、補足的・集中的・柔軟な形態による最も手厚い教育（レベル3）、という3階層で教育を行うモデルである。レベル1の通常の学級内での教育を効果的にするために、特別支援教育との連続性を加味した通常の教育として、ユニバーサルデザインの教育が検討されている。さらに、RTIのレベル2、3に該当する特別な教育ニーズを持つ子どもたちのためには、さまざまな障害特性に応じた専門的な教育も重要である。

障害特性や環境との関係で、子どもの状態像は個々に異なる。それぞれのニーズに応じた「多様な学びの場」が必要であらう。

本シンポジウムでは、このような背景のもと、インクルーシブ教育の目指すべき方向について検討するために、4名の話題提供者に登壇いただく。海津氏には、RTIモデルに基づいて開発された多層指導モデルMIM（Multilayer Instruction Model）の実践と展望について報告いただく。佐藤氏には、「教育のユニバーサルデザイン」の二つのタイプについて報告いただく。鳥越氏には、co-enrollment programの取り組みから、聴覚障害児にとっての授業のユニバーサルデザインを検討いただく。井上氏には、米国のスクールワイドPBS（Positive Behavioral Support System）など、自閉症のある人に対するインクルーシブ教育環境を実現するための環境設定のあり方について提案いただく。

話題提供者の報告をもとに、特別支援教育の専門性を生かしたインクルーシブ教育のあり方について、議論を深めたい。

青年期研究のこれまでとこれから —神戸大学の青年期心理学を中心に—

企画・司会	相澤直樹（神戸大学）
企画・話題提供	谷 冬彦（神戸大学）
話題提供	森岡正芳（神戸大学）
話題提供	原田 新（徳島大学）
指定討論	白井利明（大阪教育大学）
指定討論	大野 久（立教大学）

【企画趣旨】

G.S.ホールに始まる青年研究は、100年を超える歴史をもつ。他の学問分野にくらべるといまだ歴史は浅いとはいえ、今日心理学の中では最も伝統的な一分野となった。戦後多くの先達の研究者により青年期研究の礎が築かれ、その尽力は1993年の日本青年心理学会発足に結実している（秋葉，2008，西平，2008）。このような順風満帆にみえる歩みの中、今日においても青年期に関わる心理学的研究にはいまなお多くの謎が残されている。青年期は、近代社会以降に誕生した社会歴史的概念でもあり、身体的、心理的、社会的諸要因が絡み合った複雑さをもつ。これまで青年期の定義や時期について繰り返し議論されてきた（都筑，2013）。さらに、かつて“疾風怒濤”と表現されていた青年期心性も、実際的な多様性や時代による変質が言及されるようになった。以上のような複雑さにもかかわらず、あるいは、複雑さゆえに魅力的な研究分野であり続けている。

我々は、日本発達心理学会第16回大会のシンポジウム「青年期研究の最前線—さまよえる青少年の心」において、以上の問題への取組みを報告した（谷，岡田，相澤，山口，佐藤，2005）。その後、青年を取り巻く社会的歴史的状况が大きく変化しただけでなく、心理学そのものが大きく変容しつつあるように思われる。幸いにして、我々の所属する神戸大学には歴代にわたる青年期研究の伝統がある。このような時期に、あらためて神戸大学における青年期研究を中心に、これまでの歴史を振り返るとともに、その現在をとらえ、さらに、これからの展望を論じることにも一定の意義があるものと思われる。

準備委員会企画チュートリアルセミナー

第2日 11月8日(土) 13:30~15:30

4階 403

教育心理学の未来 ー学習研究の新しいパラダイムー

話題提供

Clark Chinn# (Rutgers University)

企画・司会・講師紹介・指定討論

大島 純 (静岡大学)

企画

坂本美紀 (神戸大学)



【企画趣旨】

現実社会が期待する人間の賢さの定義は、21世紀型スキルが示すように、従来の教育心理学での定義よりも複雑かつプラグマティックなものとなりました。現在の教育心理学研究のパラダイムは、こういった人間の賢さを探究できるものとなっているのかを問い直すよい機会です。本企画では、*Educational Psychologist*誌のChief Editorを務めたClark Chinn教授 (Rutgers University) を迎え、教育心理学のグローバルな研究動向を把握するとともに、学習研究の最先端で議論されているリサーチクエスションと方法論について、国内の学習科学研究者との対話を展開し、日本の教育心理学における学習研究の次のステップを見定めることを目指します。

※使用言語は英語を主とし、グループワークを含みます。

〈申し込み方法〉

10月30日までにjaep2014seminar@gmail.com宛てにお申し込み下さい。申し込みメールには、氏名と所属をご記入下さい。会員でない総会参加者も申し込みます。定員は40名で、定員に達し次第締め切ります。参加の可否は準備委員会よりメールでお知らせします。定員に余裕がある場合は当日も受付をいたします。

Dr. Clark Chinn is a Professor in the Graduate School of Education at Rutgers, the State University of New Jersey. His research focuses on reasoning and argumentation, epistemic practices and epistemic cognition, conceptual change, and collaborative learning. In one line of current research, he is working with Ravit Golan Duncan on a grant from the National Science Foundation to investigate methods of scaffolding the growth of scientific reasoning and content understanding among

middle-school science students during model-based inquiry. In a second, closely related line of research, he is exploring new ways of conceptualizing epistemic cognition, drawing on philosophical work to suggest new avenues for empirical research.

Dr. Chinn earned a Ph.D. at the University of Illinois at Urbana-Champaign, working with Richard Anderson and William Brewer. He has over \$3.2 million in grant funding, primarily for work examining. He has won the Richard E. Snow Award for Early Career Contributions from Division 15 (Educational Psychology) of American Psychological Association. He recently organized an AERA-funded conference on interdisciplinary approaches to epistemic cognition.

Dr. Chinn has worked both within educational psychology and the learning sciences. He is the current Editor of the journal *Educational Psychologist* and a member of the Editorial Board of *Journal of Educational Psychology*. He is also an Editorial Board member of *The Journal of the Learning Sciences* and was a presenter in series of NAPLeS webinars conducted over the past year by the International Society of the Learning Sciences.

Publications

- Chinn, C. A., Rinehart, R. W., & Buckland, L. A. (in press). Epistemic cognition and evaluating information: Applying the AIR model of epistemic cognition. In D. Rapp and J. Braasch (Eds.), *Processing inaccurate information*. Cambridge, MA: MIT Press.
- Rinehart, R. W., Duncan, R. G., & Chinn, C. A. (in press). *A scaffolding suite to support evidence-based modeling and argumentation*. Science Scope.
- Rogat, T. K., Witham, S., A., & Chinn, C. A. (in press). *Teachers' autonomy-relevant practices within an inquiry-based science curricular context: Extending the range of academically significant autonomy-supportive practices*. Teachers College Record.
- Chinn, C. A., Duncan, R. G., Dianovsky, M., & Rinehart, R. (2013). Promoting conceptual change through inquiry. In S. Vosniadou (Ed.) *International Handbook of Conceptual Change* (2nd ed.) (pp. 539-559). New York: Routledge.
- Chinn, C. A., & Clark, D. B. (2013). Learning through collaborative argumentation. In C. E. Hmelo-Silver, C. A. Chinn, C. K. K. Chan, & A. M. O'Donnell (Eds.) *International Handbook of Collaborative Learning* (pp. 314-332). New York: Taylor & Francis.
- Chinn, C. A., & Buckland, L. A. (2012). Model-based instruction: Fostering change in evolutionary conceptions and in epistemic practices. In K. S. Rosengren, S. K. Brem, E. M. Evans, & G. M. Sinatra (Eds.). *Evolution challenges: Integrating research and practice in teaching and learning about evolution* (pp. 211-232). Oxford: Oxford University Press.
- Chinn, C. A., Buckland, L. A., & Samarapungavan, A. (2011). Expanding the dimensions of epistemic cognition: Arguments from philosophy and psychology. *Educational Psychologist*, 46, 141-167. DOI: 10.1080/00461520.2011.587722
- Pluta, W. J., Chinn, C. A., & Duncan, R. G. (2011). Learners' epistemic criteria for good scientific models. *Journal of Research in Science Teaching*, 48, 486-511. DOI: 10.1002/tea.20415
- Chinn, C. A., & Samarapungavan, A. (2009). Conceptual change—multiple routes, multiple mechanisms: A commentary on Ohlsson (2009). *Educational Psychologist*, 44, 47-57.
- Hmelo-Silver, C. E., Duncan, R. G., Chinn, C. A. (2007). Scaffolding and achievement in problem-based and inquiry learning: A response to Kirschner, Sweller, and Clark (2006). *Educational Psychologist*, 42, 99-107.
- Chinn, C. A., & Malhotra, B. A. (2002). Children's responses to anomalous scientific data: How is conceptual change impeded? *Journal of Educational Psychology*, 19, 327-343.

準備委員会企画公開/パネルディスカッション

第2日 11月8日(土) 16:00~18:30

1階 メインホール

大災害に対して心理学はこれまで何をしてきたのか？ これから何をすべきなのか？

企画・司会	齊藤誠一	(神戸大学)
企画	吉田圭吾	(神戸大学)
企画	伊藤俊樹	(神戸大学)
パネリスト	矢守克也#	(京都大学)
パネリスト	宅 香菜子#	(オークランド大学)
パネリスト	氏家達夫	(名古屋大学)
パネリスト	坂野雄二#	(北海道医療大学)

【企画趣旨】

神戸市などに大きな被害をもたらした阪神・淡路大震災が発生して、まもなく20年が経過する。これ以降いくつもの大災害が日本を襲い、大きな被害を受けてきた。その中でも、東日本大震災は地震、津波に加え、放射線被害という二次的災害ももたらし、被災地は今なお復興の途上にある。

神戸大学では被災地大学として阪神・淡路大震災に関わり多分野からの全学的研究を行い、現在は東日本大震災に関わり同様の研究を進めている。

こうした災害研究において工学や経営学といった心理学以外の分野でも心理学的検討の必要性が示され、災害に関わり心理学が果たしている役割は大きいといえるが、その総括と今後のあり方については必ずしも議論されていない。本パネルディスカッションでは、大災害に対して心理学がこれまで行ってきたことを整理し、今後発生が予想される南海トラフ地震など大災害に対してどのような貢献をしていくべきなのかについて、大災害を経験した人たちと関わった、あるいは現在関わっているパネリストから話題を提供していただき、議論していきたい。

研究委員会企画シンポジウム

研究委員会企画シンポジウム1

第2日 11月8日(土) 9:30~12:00

3階 国際会議室

ワーキングメモリ理論と発達障害 ー環境設定から学習・就業支援へー

企画・司会・話題提供	湯澤正通（広島大学）
話題提供	齊藤 智（京都大学）
話題提供	河村 暁（発達ルームそら）
話題提供	湯澤美紀（ノートルダム清心女子大学）
指定討論	無藤 隆（白梅学園大学）

【企画趣旨】

2012年、文部科学省が示した調査資料(『通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について』)によると、普通学級において「学習面で著しい困難」を示す児童生徒の割合は4.5%、つまり、クラスの1名から2名が学習障害を抱え、普通学級で教育を受けている。ここ数年、発達障害に対する支援方法の研究も進み、クラスにいる1～2名の発達障害児への対応に振り回され、授業が成り立たないという状況はおさまりつつある。つまり、発達障害を抱える児童生徒が落ち着いて授業を受けるための環境が整いつつある。それとともに、次に問題になるのが、発達障害を抱える児童生徒の学力をどのように伸ばし、また、将来の就労につなげるかである。この問題に対して、我が国でもワーキングメモリ理論の観点からの研究が進みつつある。本シンポジウムでは、ワーキングメモリ理論の最近の研究動向を踏まえつつ、発達障害を抱える児童生徒に対する学習・就業支援のアプローチを報告し、議論する。

性のあり方を個人差として扱うことの可能性 ー教育・発達の視点からー

企画・司会	高橋恵子	(聖心女子大学)
企画・話題提供	湯川隆子	(三重大学)
話題提供	吉本敏子#	(三重大学)
話題提供	松並知子	(武庫川女子大学)
指定討論	東 優子#	(大阪府立大学)

【企画趣旨】

これは日本教育心理学会・研究委員会が企画するジェンダー問題に特化したシンポジウムの3回目である。現在、性には、生物学的性(sex)、社会・文化・心理的性(gender)、性的指向性(sexuality)の3つが区別されているが、これらは現実には複雑に絡み合い多様な性の現象を生じさせている。

これら性の多様なあり方を教育や発達研究においてどう扱えばよいか。教育現場において男女の区別(性別二元性)そのものをなくすという発想は可能か。性別二元的枠組は有効か。性別二元的枠組でよりも個人差として扱うのが妥当ではないか。

性のとらえ方には種々の可能性が考えられるが、教育への示唆を念頭に、3つの話題提供をもとに議論したい。話題提供1では、家庭科教育における性別二元性の限界と性の個人差という視点の有効性と課題を提案していただく。話題提供2では、結婚や就職、人生設計などのキャリア形成の問題を理解する上で、どのような性の視点が必要かを論じていただく。話題提供3では、乳幼児期の性の発達における理論的・実証的研究をもとに、性を個人差として研究する必要性について提案する。指定討論として、性科学・ジェンダー研究の立場から東優子氏に、性を個人差としてとらえる可能性と妥当性、そして、教育と発達研究における課題について論じていただく。

教科教育に心理学はどこまで迫れるか（4） ー教育目標をどう扱うべきかー

企画・話題提供	工藤与志文（東北大学）
企画・話題提供	藤村宣之（東京大学）
話題提供	田島充士（東京外国語大学）
司会・指定討論	宮崎清孝（早稲田大学）

【企画主旨】

本シンポジウムは2011年から始まった同名のシンポジウムの4回目である。また、企画者として、その締めくくりとしての意味合いを持たせたいとも考えている。今回のテーマは「教育目標をどう扱うべきか」である。そもそもこれら一連のシンポジウムは、学習すべき知識の内容や質を等閑視し、コンテンツフリーな研究課題しか扱わない教育心理学研究のあり方に対する批判からスタートしたものと理解している。そのような問題意識の行き着く先は「教育目標の扱い」ではないか。これまでのシンポジウムで度々指摘されてきた教育心理学の「教育方法への傾斜」は、自ら教育目標の善し悪しを検討することが少ないという教育心理学研究者の研究姿勢と関連している。

教育目標がどうあるべきかという問題は教育学や教科教育学の専門家が取り扱うべきであり、教育心理学はその実現方法を考えていればよいという「分業的姿勢」の是非が問われるべきではないだろうか。本シンポジウムでは、上記の問題意識をふまえ、教育心理学研究は教育目標そのものをどのように俎上にのせうるか、その可能性について議論したい。

研究委員会企画チュートリアルセミナー

研究委員会企画チュートリアルセミナー 1

第1日 11月7日(金) 16:00~18:30

3階 国際会議室

教育・臨床実践のための介入効果の解析と評価

企画・司会・話題提供 星野崇宏(東京大学)

話題提供 安田節之(西武文理大学)

【企画趣旨】

知覚心理学や生理心理学などの基礎心理学分野はもちろんのこと、教育心理学研究においても研究協力者をランダムに各条件に割り当て、条件間の比較を行う「無作為割り当てを伴う実験研究」を行った研究の方が、実験を伴わない調査研究や観察研究、あるいは介入研究よりも“高度”であり“より正確な結果を与える”という一種の思い込みが存在するようである。実験状況で生じえるホーソン効果などの生態学的妥当性の問題はもちろんのこと、実験研究は往々にして本来研究の対象となる人々とは異なる人々(例えば大学生)をターゲットとしたものになりがちであり、アナログ研究としての問題点(対象者が異なることによって生じる外的妥当性の問題点)を有している。また、そもそも教育実践や臨床実践を志向する研究や実践の現場で行う研究では、対象者に特定の治療条件を強制することは倫理的な理由から難しく、対象者がどの条件を受け入れるかを選択するという場合が多い。教育心理学研究において多く生じる、実験ができない調査観察研究から介入効果を評価するために、様々な準実験デザインとそこでの分析方法やデータ取得の注意点などについて企画者が紹介する。

話題提供者からはより広い意味でのプログラム評価の考え方と方法論について、ロジックモデルの重要性を中心に、コミュニティ介入研究などの実例を交えながらご講演頂く。

発達障害のある大学生への「合理的配慮」とは何か —エビデンスに基づいた配慮を実現するために—

企画・講師 高橋知音（信州大学）

司会 高橋美保（東京大学）

【企画趣旨】

独立行政法人日本学生支援機構(2014)の調査によると発達障害のある学生数は、年々増加を続けており、2013年度の調査では、診断がある学生数は2,393人となっている。発達障害のある学生への支援は1990年代後半から報告があり、おもに大学の保健管理センターや学生相談の領域で対応がなされてきた（須田・高橋・森光・上村，2011）。

2006年に国連総会で採択された「障害者の権利に関する条約」の批准とそれに向けた法整備という文脈の中で、文部科学省も高等教育機関における障がいのある学生への支援の充実に向けて、積極的な取り組みを行ってきた。

2012年には「障がいのある学生の修学支援に関する検討会」が設置され12月にはその報告（一次まとめ）が示された。その中で大学に求められている支援の中心となる概念は「合理的配慮」である。

合理的配慮という概念は、これまで高等教育における学生支援の文脈で耳にすることがあまりなかった概念である。そのため、高等教育関係者がこの概念を理解することが不可欠である。さらに、合理的配慮の実現にあたっては、教育心理学の貢献も期待されている。本チュートリアルでは、まず、合理的配慮という概念について発達障害のある学生への支援も例にあげながら説明する。そして、教育心理学に期待されている役割について、内外の研究動向などもまじえながら説明する。

ハラスメント防止委員会企画講演

第2日 11月8日(土) 13:30~15:30

3階 国際会議室

ハラスメントに関わるリスクマネジメントのあり方

講演 御興久美子# (NPOアカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク)
指定討論 金子雅臣# (職場のハラスメント研究所)
司会 大塚雄作 (大学入試センター)

【企画趣旨】

日本教育心理学会では、2010年に、ハラスメント防止ガイドライン等を作成し (<http://www.edupsych.jp/noharassment/>)、相談窓口を設置するなど、学会としてハラスメント対策を講じてきました。また、研修機会としてのハラスメント防止委員会企画の講演会も、今回第4回目を迎えます。しかしその間も、大学や研究の場も含めた社会一般において、さまざまなハラスメントに関わる事件が頻繁に起こっていることが見聞されます。そういう中、単にハラスメント防止に関わる体制・機会を準備すればよいのではなく、それらを実際に機能させていくことが強く求められるようになってきているように思われます。

教育心理学会の会員は、その専門性から、それぞれの職場等でハラスメント防止に関わる担当者に任命されることも少なくないのではないかと思います。しかし、そうした役割にどう対応していったらよいのか、経験も少なく、戸惑われている方も少なくないのではないのでしょうか。ハラスメントに関わるリスクは、被害を受けた当事者のリスクをはじめ、そのような問題が起きた大学や学会などの組織・制度・財政上のリスクなど、さまざまな形で表れます。そうしたさまざまなリスクを想定しつつ、もしそれが現実には起こったかどうか対応していけばよいかというリスクマネジメントのあり方を共有しておくことが、ハラスメントの予防にもつながります。

ハラスメント防止委員会では、こうした多様なリスクに対するマネジメントのあり方について問題を共有するために、本講演会を「ハラスメント防止に関わるさまざまな立場の方々の経験や課題を相互に共有し、情報交換できる場」として位置づけてみてはどうかと考えました。2時間の講演会ではもちろん不十分ですが、まずは情報共有を通して、本学会員内でハラスメントのリスクマネジメントに関わる人のネットワークが、ボトムアップにできあがっていくきっかけにならないものかと考え、今年の講演会の場をそうした機会としてご提案してみたいと思います。

ご講演をお願いした御輿久美子先生は、奈良県立医科大学に38年間勤められ、その間に2001年「NPOアカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク（NAAH）」を設立、その代表理事として、ハラスメント防止に関わる調査研究やネットワーク形成に尽力されてきました。また、奈良県立医科大学に2011年3月に設置された女性研究者支援センター「まほろば」（<http://www.narmed-u.ac.jp/~josei/index.html>）において、特任教授として、大学のハラスメント防止に関わる体制作りを推進された経験もおもちです。

今回のご講演では、御輿先生に、まず、ハラスメントに関わる現状と課題、その対策や体制作りのポイントやネットワーク形成の意義についてお話しいただき、それを受けて、各大学や本学会でハラスメント防止に関わっておられる方々、またこうした問題に関心をお持ちの方々を交えて、質疑応答、情報交換の時間を持ちたいと思います。

ハラスメントに関わる問題は、一人で解決できる問題ではありません。是非、多くの方にご参加いただき、みなさんと共に、この課題に取り組んでいければと思います。

【講演者紹介】

2014年3月に奈良県立医科大学女性研究者支援センター特任教授を定年退任。2001年に立ち上げた特定非営利活動法人アカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク（NAAH：Network for the Action against Academic Harassment）代表理事。NAAHでは、大学等のハラスメント防止のための啓発・研修、加害者の意識・行動変革のための研修、被害者の相談などを行ってきている。関連する著作に、『アカデミック・ハラスメントの防止対策』（現代のエスプリ，2010），『アカデミック・ハラスメントのない大学に向けて―誰にとっても快適な学習・教育・研究・労働環境づくり』（大学評価学会編「アカデミック・ハラスメントと大学評価―より開かれた大学をめざして」，2007年）などがある。

〈#印は会員以外の登壇者を示します〉

自主企画シンポジウム

第1日 11月7日(金) 10:00~12:00 301 国際会議室

JA01 感情的実践

—溢れ出す感情と教育はどのように向き合うべきか—

企画・話題提供	東京学芸大学	上 淵 寿
企画・話題提供	東京大学大学院・日本学術振興会	利根川 明 子
話題提供	福岡教育大学	松 尾 剛
話題提供	鹿沼市教育委員会	角 藤 翔太郎#
指定討論	白梅学園大学	無 藤 隆
指定討論	東京大学	遠 藤 利 彦

第1日 11月7日(金) 10:00~12:00 502

JA02 生徒指導における「精神的充足・社会的適応力」評価尺度(KJQ)の発展的活用

企画・司会	十文字学園女子大学	綿 井 雅 康
企画・話題提供	早稲田大学	菅 野 純
話題提供	藤枝市立藤枝中学校	増 田 みちよ
話題提供	早稲田大学	藤 井 靖
話題提供	早稲田大学大学院	山 田 達 人
指定討論	十文字学園女子大学	加 藤 陽 子
指定討論	岡山大学	桂 川 泰 典

第1日 11月7日(金) 10:00~12:00 401

JA03 教育に資するための行動遺伝学研究

話題提供	慶應義塾大学	中 室 牧 子#
話題提供	帝京大学	敷 島 千 鶴#
話題提供	東京大学	川 本 哲 也#
指定討論	京都大学	高 橋 雄 介
企画・司会・話題提供	慶應義塾大学	藤 澤 啓 子

第1日 11月7日(金) 10:00~12:00 403

JA04 折り紙 (origami) 研究の可能性 (3)

—「立体イメージ形成」モデル構築の試み—

企画・司会・話題提供	至学館大学	丸 山 真名美
話題提供	北海道大学	菱 谷 晋 介#
話題提供	立命館大学	竹 内 謙 彰
指定討論	広島大学大学院	杉 村 伸一郎
指定討論		梶 田 正 巳

第1日 11月7日(金) 10:00~12:00 402

JA05 自閉症スペクトラム障害における言語コミュニケーション機能の評価と支援

—神経心理学的、音声学的、学校臨床的立場から—

企画・司会	東京学芸大学	林 安紀子
話題提供	早稲田大学	坂 爪 一 幸#
話題提供	東京学芸大学大学院	近 藤 綾 子
話題提供	東京学芸大学	橋 本 創 一
指定討論	群馬大学	霜 田 浩 信

第1日 11月7日(金) 10:00~12:00 504

JA06 学校現場の<チーム援助>をどのように促進するのか

—学校現場にどのように関われば良いのか—

企画・司会	大阪教育大学	水 野 治 久
企画・話題提供	北海道教育大学	本 田 真 大
話題提供	北大通こころのクリニック	朝 日 真 奈
話題提供	兵庫教育大学連合大学院	荊 木 まき子
話題提供	堺市立神石小学校	梅 川 康 治#
指定討論	早稲田大学	河 村 茂 雄

第1日 11月7日(金) 10:00~12:00 505

JA07 偶発的・即興的に生起する学びの探究

—明日の教育をパフォームする実験的発表—

企画・司会	八幡市立美濃山小学校	藤原 由香里
話題提供	関西大学	今井 裕之#
指定討論	兵庫教育大学大学院	宮元 博章
話題提供	神戸市外国語大学	三野宮 春子#
話題提供	神戸女子大学	長谷川 和代#
話題提供	三田市志手原小学校	岡本 恵太
ファシリテーション	兵庫教育大学大学院	大島 秀子#

第1日 11月7日(金) 10:00~12:00 503

JA08 生きがい研究から見えてくるもの(2)

—生きがい形成への支援に向けて—

企画・話題提供	帝京科学大学	濱野 佐代子
企画・司会・話題提供	京都大学	浦田 悠
話題提供	白百合女子大学	大山 智子
指定討論	大阪大谷大学	熊野 道子

— ◇ — ◇ — ◇ —

第1日 11月7日(金) 13:30~15:30 301 国際会議室

JB01 認知心理学からみた教授学習過程研究の現状と今後の展開

企画・司会	滋賀大学	井上 毅
企画・指定討論	東京大学	市川 伸一
企画・話題提供	群馬大学	佐藤 浩一
話題提供	広島大学	森 敏昭
話題提供	東京大学	植阪 友理

JB02 予防的心理教育プログラムの導入と展開

—学校間や学校・関係機関間の連携での“壁”を乗り越えるには?—

企画・話題提供	福岡教育大学	小 泉 令 三
企画	福岡教育大学	高 松 勝 也
司会	梅光学院大学	山 田 洋 平
話題提供	福岡教育大学大学院	三 瀬 剛
話題提供	九州大学	松 本 亜 紀#
話題提供	都城市立川東小学校	柴 原 通 裕#
指定討論	名古屋大学	窪 田 由 紀

JB03 越境の説明をはぐくむ大学教育のための心理学

企画・話題提供	愛媛大学	富 田 英 司
企画・話題提供	東京外国語大学	田 島 充 士
話題提供	青山学院大学	鈴 木 宏 昭
話題提供	名古屋大学	清 河 幸 子
話題提供	大正大学	犬 塚 美 輪
指定討論	京都大学	溝 上 慎 一

JB04 改めて幼児教育と小学校教育の学びの連続性を問う

企画・司会	金沢大学	滝 口 圭 子
話題提供	北海道大学	伊 藤 崇
話題提供	京都教育大学	田 爪 宏 二
話題提供	富山大学	若 山 育 代
指定討論	広島大学大学院	杉 村 伸一郎

JB05 認知行動療法に関する生徒指導・教育相談研修会のあり方

企画・司会・指定討論	早稲田大学	嶋 田 洋 徳
企画・話題提供	桜美林大学	小 関 俊 祐
話題提供	桜美林大学	楠 見 潔#
話題提供	川越市立名細中学校	中 條 信 裕
話題提供	駿河台大学	蓑 崎 浩 史
話題提供	愛知教育大学	小 関 真 実
指定討論	早稲田大学	菅 野 純

第1日 11月7日(金) 13:30~15:30 504

JB06 学習のつまずきと学校適応に関するアセスメント・支援方法
—学習支援と学校不適応へのサポートを考える—

企画・司会・話題提供	東京学芸大学	橋本創一
話題提供	広島大学大学院	岡直樹
話題提供	佐賀大学	中島範子#
話題提供	山梨大学	磯貝順子

第1日 11月7日(金) 13:30~15:30 505

JB07 居場所で過ごす青少年たち

企画・司会・話題提供	岡山大学	枝廣和憲
指定討論	広島大学	栗原慎二
話題提供	西日本短期大学	山下智也
話題提供	広島大学大学院	中村孝
話題提供	作新学院大学	日高茂暢

第1日 11月7日(金) 13:30~15:30 503

JB08 保育に生かす巡回相談Ⅲ
—保護者支援につなげる巡回相談—

企画・司会・話題提供	浦和大学	藤井和枝
話題提供	聖学院大学	金谷京子
話題提供	玉川大学	宮崎豊#
指定討論	植竹幼稚園	福島豊#

第1日 11月7日(金) 13:30~15:30 406

JB09 青年期におけるアイデンティティとコミュニケーション
—青年心理学の新展開(5)—

企画・司会・話題提供	和光大学	高坂康雅
話題提供	日本学術振興会	畑野快
話題提供	愛知学院大学	高橋彩#
指定討論	関西学院大学	藤井恭子

— ◇ — ◇ — ◇ —

JC01 道徳授業における談話と学習過程へのアプローチ

—道徳における思考過程の検討—

企画・司会	東京大学	秋 田 喜代美
話題提供	東京大学大学院・日本学術振興会	小野田 亮 介
話題提供	東京大学大学院	三 輪 聡 子
話題提供	新潟大学	一 柳 智 紀
指定討論	京都大学	楠 見 孝 始
指定討論	国立教育政策研究所	白 水 始

JC02 なぜ子どもへの学習支援が役立たなくなるのか

—介在するメカニズムと本当の支援のあり方—

企画・司会・話題提供	立命館大学	山 本 博 樹
企画・司会	立命館大学	吉 田 甫
企画	明治大学	伊 藤 貴 昭
企画	立命館大学	川那部 隆 司
話題提供	東北大学	深 谷 優 子
話題提供	中部学院大学	宮 本 正 一
話題提供	東京大学	藤 村 宣 之
指定討論	久留米大学	安 永 悟

JC03 学校教育と自己の発達

—新たな自己研究へ(3)—

企画	早稲田大学	浅 田 匡
司会	新潟医療福祉大学	遠 山 孝 司
話題提供	奈良学園大学	梶 田 叡 一
話題提供	広島市精神保健福祉センター	皆 川 英 明#

第1日 11月7日(金) 16:00~18:00 402

JC04 ネットいじめと匿名性信念

企画・司会・話題提供	甲子園大学	金 綱 知 征
企画・話題提供	大阪教育大学	戸 田 有 一
話題提供	高知県立迫手前高校	足 達 昇 #
話題提供	高知県立高知東高校	山 崎 澄 夫 #
話題提供	岐阜聖徳学園大学	石 原 一 彦 #
話題提供	文溪堂	大 橋 正 人 #
指定討論	山形大学	加 納 寛 子

第1日 11月7日(金) 16:00~18:00 504

JC05 教師・学校との協働による予防教育への実践研究を拓く

企画・司会・話題提供	中部大学	今 川 峰 子
話題提供	跡見学園女子大学	山 口 豊 一
話題提供	聖徳大学	家 近 早 苗
話題提供	大阪産業大学	西 口 利 文
指定討論		梶 田 正 巳

第1日 11月7日(金) 16:00~18:00 505

**JC06 発達障害児の認知特性と学校適応の評価・支援
ー学習活動や学校生活のサポートを考えるー**

企画・司会・話題提供	東京学芸大学	熊 谷 亮
話題提供	國學院大學	渡 邊 雅 俊
話題提供	兵庫教育大学	宇 野 宏 幸 #
話題提供	姫路市総合教育センター	藤 野 光 裕 #
指定討論	岐阜大学	小 島 道 生

第1日 11月7日(金) 16:00~18:00 503

JC07 地域・社会との関係から捉える児童・青年の学校適応

企画・司会	北海道教育大学	半 澤 礼 之
企画・話題提供	香川大学	大久保 智 生
話題提供	高千穂大学	岡 田 有 司
話題提供	愛知教育大学	中 井 大 介
指定討論	山梨大学	東海林 麗 香
指定討論	埼玉大学	馬 場 久 志

JC08 対人援助職の現状と実践力育成について考える

—教師, 臨床心理士, 保育士に注目して—

企画・指定討論	九州大学	増田 健太郎
企画・司会・話題提供	福岡教育大学	生田 淳一
話題提供	福岡教育大学	友清 由希子
話題提供	香蘭女子短期大学	濱田 尚志
話題提供	富山大学	黒川 光流

— ◇ — ◇ — ◇ —

JD01 授業デザインの最前線

—教育心理学第3世代のアプローチ—

企画・司会	津田塾大学	高垣 マユミ
話題提供	京都教育大学	伊藤 崇達
話題提供	立命館大学	山本 博樹
話題提供	関西大学	田中 俊也
指定討論	慶應義塾大学	鹿毛 雅治
指定討論	聖徳大学	小野瀬 雅人

JD02 小学校における法教育の可能性を探る

—法学・教育学・心理学の研究者の協同—

企画・話題提供	岡山県立大学	樟本 千里
企画・司会	福井大学	橋本 康弘#
企画	岡山大学	桑原 敏典#
企画・話題提供	川崎医療短期大学	中原 朋生#
司会	静岡大学	磯山 恭子#
話題提供	京都大学	土井 真一#
話題提供	筑波大学	根本 信義#
話題提供	岐阜大学	須本 良夫#
話題提供	東京学芸大学	渡部 竜也#
企画	広島文化学園大学	二階堂 年恵#
指定討論	愛知学院大学	二宮 克美

JD03 罪に問われた障害のある青年に対するネットワーク型支援システムの構築と予防的アプローチ
—トラブルシューター活動における教育と司法の予防と更生支援アプローチを中心に—

企画・司会・話題提供	白梅学園大学	堀 江 まゆみ
話題提供	鳴門教育大学	小 倉 正義
話題提供	PandA法律事務所	浦 崎 寛 泰#
話題提供	NPO法人東京ソテリア	及 川 博文#

JD04 発達障害児を対象とした感情の理解と調整の教育支援の可能性

企画・司会・話題提供	香川大学	武 蔵 博文
話題提供	中京大学	明 翫 光 宜#
話題提供	金沢工業大学	石 川 健 介
話題提供	金沢市立南小立野小学校	多 村 真由美#
話題提供	こどもサポート教室きらり	倉 橋 徒 夢#
話題提供	こどもサポート教室きらり	澳 塩 渚#
指定討論	鳴門教育大学	内 田 香奈子

JD05 岡山県総社市における「だれもが行きたくなる学校づくり」
—小学校・中学校の“連続性”を考える—

企画	中部大学	三 島 浩 路
企画・司会	岡山県立岡山東商業高等学校	赤 澤 大 史#
話題提供	広島大学	栗 原 慎 二
話題提供	総社市立総社西中学校	藤 井 和 郎#
話題提供	総社市立総社西中学校	三 宅 理抄子#
話題提供	総社市立総社小学校	合 澤 菜穂子#
指定討論	兵庫教育大学	新 井 肇

JD06 いじめ防止法施行後の学校現場から

—効果的な対応と予防システムの構築にむけて—

企画・司会	京都教育大学大学院	石 川 美智子
話題提供	なごや子ども応援委員会SC	小 林 由美子
話題提供	愛知県西尾市立佐久島中学校	長 谷 守 紘
話題提供	公立高校	田 中 輝 彦#
話題提供	大阪府チーフSC	木 邨 真 美#
話題提供	埼玉県警察	芹 田 卓 身#
指定討論	名古屋大学	窪 田 由 紀

JD07 巡回相談における効果的な連携を考える

—多職種協働および他機関、他制度との連携—

企画・司会	立命館大学	石 本 雄 真
話題提供	伊丹市立総合教育センター	島 並 友 香#
話題提供	奈良女子大学	山 根 隆 宏
話題提供	伊丹市教育委員会	杉 本 浩 美#
指定討論	神戸大学	鳥 居 深 雪

JD08 悩みを抱えながら相談に来ない学生への多様な資源を生かした支援

—学内の友人や学生コミュニティおよびインターネットの活用に焦点をあてて—

企画・司会・話題提供	大阪国際大学	木 村 真 人
企画・話題提供	奈良女子大学	梅 垣 佑 介
話題提供	東京大学大学院	河 合 輝 久
話題提供	大阪国際大学	前 田 由貴子#
話題提供	明治大学	伊 藤 直 樹
指定討論	大阪教育大学	水 野 治 久

— ◇ — ◇ — ◇ —

JE01 認知カウンセリングの講習・研修のあり方

企画・司会	東京大学	市川伸一
企画・話題提供	跡見学園女子大学	藤澤伸介
話題提供	群馬大学	深谷達史
話題提供	日本大学	篠ヶ谷圭太
指定討論	東京大学	和田果樹

**JE02 質の高い学習を支援する教育評価のありかた
—学習環境のデザインという観点から—**

企画・司会	東京大学大学院	藤江康彦
企画・話題提供	東京学芸大学	梶井芳明
話題提供	國學院大學	寺本貴啓
話題提供	富山大学	若山育代
指定討論	広島大学	森敏昭

JE03 媒介分析とマルチレベルSEMとメタ分析についてじっくり聞く

企画	大学入試センター	荘島宏二郎
司会	京都大学	鈴川由美
話題提供	京都大学・日本学術振興会	野崎優樹
話題提供	浜松医科大学	浅野良輔
話題提供	香川大学	岡田涼
指定討論	筑波大学	宇佐美慧

**JE04 心理学を活かした教員養成(3)
—日本教育大学協会教育心理部門企画—**

企画・司会	東京学芸大学	糸井尚子
話題提供	滋賀大学	若松養亮
話題提供	京都教育大学	藤岡秀樹
話題提供	東京学芸大学	佐野秀樹
指定討論	広島大学大学院	岡直樹
指定討論	愛媛大学	富田英司

JE05 学校におけるいじめ問題への予防的な関わり

—心理教育を活用して—

企画	神田外語大学	武田明典
司会	名護市教育委員会	村瀬公胤
話題提供	神田外語大学	小柴孝子
話題提供	名護市教育委員会	岸本琴恵
話題提供	都留文科大学	藤原和政
指定討論	目白大学	沢崎達夫
指定討論	神田外語大学	嶋崎政男 [#]

JE06 児童の学習を支える力の育成・支援

企画・司会	いわき短期大学	常深浩平
企画・話題提供	愛知県心身障害者コロニー 発達障害研究所	田村綾菜
話題提供	京都大学	小川詩乃 [#]
話題提供	電気通信大学	猪原敬介
指定討論	法政大学	福田由紀

JE07 教職大学院における特別支援教育に関する資質向上の取組

—学校心理士が得るべき通常学級の教育的ニーズへの対応力とは—

企画・話題提供	福岡教育大学	西山久子
話題提供	福岡教育大学大学院	納富恵子
司会・話題提供	福岡教育大学	高松勝也
話題提供	福岡教育大学大学院	江頭雄一郎
話題提供	糸島市立怡土小学校	重富紀子
指定討論	奈良教育大学	池島徳大

**JE08 特別支援教育における学校内パニックの対応
ー予防システムとパニック中の対応スキルー**

企画	千里金蘭大学	斎 藤 富由起
企画・指定討論	東京都スクールカウンセラー	吉 森 丹衣子
司会	東京学芸大学大学院	吉 田 梨 乃
基調報告	千里金蘭大学	斎 藤 富由起
話題提供	ロングライフ 医療福祉専門学院	廣 木 道 心#
話題提供	北星学園大学	田 実 潔#
指定討論	淑徳大学	守 谷 賢 二

— ◇ — ◇ — ◇ —

JF01 高等教育におけるリテラシー（コンピテンシー）の開発

企画・司会	帝塚山大学	清 水 益 治
司会・話題提供	山口大学	沖 林 洋 平
話題提供	長崎大学	森 野 美 央
話題提供	岡山大学	三 島 知 剛
指定討論	愛知教育大学	藤 木 大 介#

JF02 数学教育における言語活動の意味

企画・司会・話題提供	大正大学	犬 塚 美 輪
話題提供	東京未来大学	小 林 寛 子
話題提供	東京大学	小田切 歩
指定討論	大阪府立大学	岡 本 真 彦
指定討論	青山学院大学	寺 尾 敦

JF03 学校教育における読解力と幼児教育のインターラクショ
ー読解力を育む「学びのしかけ」とはー

企画・司会	宮城教育大学	伊 藤 順 子
企画・話題提供	ノートルダム清心女子大学	湯 澤 美 紀
話題提供	金沢大学	滝 口 圭 子
話題提供	鈴峯女子短期大学	倉 盛 美穂子
指定討論	明治学院大学	山 崎 晃
指定討論	日本女子大学	岩 立 志津夫

JF04 様々な授業に応用可能な批判的思考スキルの教育法

企画・司会・話題提供	早稲田大学	木 下 直 子
話題提供	早稲田大学	マナロ エマニュエル
話題提供	早稲田大学	シェパード クリス#
話題提供	ラットガーズ大学	チン クラーク#

JF05 中等教育における授業づくりの課題と支援
ー公立中学校における授業改革へのコンサルテーションを通してー

企画・司会・話題提供	東京大学大学院	藤 江 康 彦
企画・話題提供	丹波市立市島中学校	高 松 昭 彦
話題提供	星城大学	坂 本 篤 史
指定討論	丹波市立市島中学校	奥 野 隆 之#

JF06 学校で行うエビデンスベーストの心理プログラム
ーオーストラリアのベストプラクティスを日本の学校にー

企画・話題提供	千葉大学	松 本 有 貴
企画・司会・話題提供	立命館大学	石 本 雄 真
話題提供	田辺市立田辺東部小学校	西 田 千寿子#
話題提供	The University of Queensland	Kenardy Justin#
話題提供	The University of Queensland	Le Brocque Robyne#
指定討論	福岡教育大学	小 泉 令 三

第2日 11月8日(土) 16:00~18:00 406

JF07 児童生徒支援において学校内外のチーム力をどう生かすか

企画・指定討論	京都連合教職大学院	角 田 豊
企画・司会	三田学校臨床心理研究会	中 山 俊 昭
話題提供	宝塚市立安倉小学校	石 川 勝 規
話題提供	兵庫県立清水が丘学園	塩 見 守 #
話題提供	姫路市立大津小学校	照 本 寿 和 #
話題提供	元三田市立学園小学校	塚 田 良 子 #

第2日 11月8日(土) 16:00~18:00 405

JF08 異動プロブレム

—なぜ、中堅・ベテラン教師が異動先で困難な状況に陥るのか—

企画・司会・話題提供	明治学院大学	松 村 茂 治
話題提供	杉並区立桃井第三小学校	浦 野 裕 司
指定討論	福岡教育大学大学院	納 富 恵 子
指定討論	加古川市立東神吉小学校	川 元 佳 子

— ◇ — ◇ — ◇ —

第3日 11月9日(日) 10:00~12:00 502

JG01 21世紀型スキルとキー・コンピテンシー

—いかに文脈的アプローチを実現するか—

企画・司会・話題提供	国立教育政策研究所	白 水 始
話題提供	福井大学	遠 藤 貴 広 #
企画・話題提供	静岡大学大学院	益 川 弘 如
指定討論	京都大学	松 下 佳 代 #
話題提供	国立教育政策研究所	西 野 真由美 #
話題提供	国立教育政策研究所	後 藤 顕 一 #
話題提供	国立教育政策研究所	松 原 憲 治 #
話題提供	国立教育政策研究所	福 本 徹 #

JG02 子どもたち自身による、ネット・スマホ問題対策の可能性と評価について
—関西スマートフォン・サミット—

企画・司会	兵庫県立大学	竹内和雄
企画・指定討論	大阪教育大学	戸田有一
話題提供	猪名川町	太田はるよ#
話題提供	県立姫路別所高校	若畑将彦#
話題提供	神戸市教育委員会	柳田竜一#
話題提供	兵庫県警察	本田英理#
話題提供	和歌山県教育委員会	宮田里枝#
話題提供	大阪府青少年課	柚木さおり#

JG03 再考、学校教育相談の固有性・独自性(その1)
—隣接領域(生徒指導とキャリア教育)との異同の検討を通して—

企画	兵庫教育大学	藤原忠雄
企画		小林幹子
企画・指定討論	日本教育大学院大学	大野精一
指定討論	東洋大学	中原美恵
司会	福岡教育大学	西山久子
司会	聖徳大学	都丸けい子
話題提供	兵庫教育大学	新井肇
話題提供	追手門学院大学	三川俊樹
話題提供	県立広島大学	金山健一
話題提供	高知県心の教育センター	今西一仁

JG04 自己調整学習のできる子どもを育てる
—小学校における取り組みの最前線—

企画・司会・話題提供	日本女子大学	瀬尾美紀子
企画	立正大学	塚野州一
企画	京都教育大学	伊藤崇達
話題提供	東京大学	植阪友理
話題提供	倉敷市立大高小学校	藤澤信義#

第3日 11月9日(日) 10:00~12:00 504

JG05 学力向上を支える学級集団の育成

企画・司会・話題提供	盛岡大学	武 蔵 由 佳
企画・指定討論	早稲田大学	河 村 茂 雄
司会	都留文科大学	藤 原 和 政
話題提供	甲州市立塩山中学校	藤 原 祐 喜
話題提供	三重県立四日市高等学校	水 谷 明 弘
話題提供	高知大学	鹿 嶋 真 弓

第3日 11月9日(日) 10:00~12:00 505

JG06 中等教育での学びと高等教育での学び

企画・司会・話題提供	日本工業大学	たなか よしこ
企画・話題提供	千葉大学	小 山 義 徳
企画・話題提供	日本工業大学	河 住 有希子
話題提供	開智学園	山 口 幸 太#
企画・話題提供	愛知教育大学	野 崎 浩 成

第3日 11月9日(日) 10:00~12:00 503

JG07 我が子の発達障害傾向を受容できない保護者の支援

企画・話題提供	筑波大学	水 野 智 美
企画・話題提供	筑波大学	徳 田 克 己
司会	富山大学	西 館 有 沙
話題提供	子ども支援研究所	大 越 和 美
話題提供	東京未来大学	西 村 実 穂

第3日 11月9日(日) 10:00~12:00 406

JG08 21世紀の日本にワロンの発達教育思想をどう生かすか(3)
—ワロンの表象発生論・自我形成論と発達教育臨床の課題—

企画・話題提供	北海道大学	間 宮 正 幸
企画・話題提供	名古屋芸術大学	加 藤 義 信
話題提供	琉球大学	吉 葉 研 司#
司会・指定討論	日本福祉大学	亀 谷 和 史#

— ◇ — ◇ — ◇ —

**JH01 文系学生に対する心理統計教育
—分散分析の理論と実践について—**

企画・司会	岡山大学	山田剛史
企画	文京学院大学	村井潤一郎
企画	新潟大学	杉澤武俊
企画・話題提供	青山学院大学	寺尾敦
話題提供	東京大学	星野崇宏
話題提供	理化学研究所	井関龍太
指定討論	愛知学院大学	千野直仁

**JH02 青年期の食
—写真法から見える日常—**

企画・話題提供	早稲田大学	外山紀子
企画・話題提供	大正大学	長谷川智子
司会	新潟大学	中島伸子
話題提供	専修大学	佐藤康一郎#
指定討論	金沢大学	岡田努
指定討論	広島修道大学	今田純雄#

JH03 教育現場における「いのちの授業」の取り組み

企画・司会・話題提供	奈良女子大学	伊藤美奈子
話題提供	武蔵村山市立第一中学校	青木由美子#
話題提供	奈良少年刑務所	乾井智彦#
指定討論	東京家政大学	相馬誠一#

JH04 言語/文化的に多様な子ども達が「演じる」ことの意味

—海外にルーツを持つ子どもたちの発達再媒介活動としての演劇—

企画・話題提供	立教大学	石 黒 広 昭
司会	早稲田大学大学院	館 岡 洋 子
話題提供	文学座	森 さゆ里#
話題提供	The City University of New York	石 川 純 子#
指定討論	早稲田大学	宮 崎 清 孝
指定討論	医療法人 山口こどもクリニック	土 屋 由 美#

JH05 アドラー心理学とクラス会議で子どもの市民性を育てる

企画	早稲田大学	向 後 千 春
司会	早稲田大学大学院	堂 坂 更夜香
話題提供	広島大学大学院	青 木 多寿子
話題提供	上越教育大学大学院	赤 坂 真 二
話題提供	神戸常磐大学	古 庄 高#

JH06 学校における文化研究の新たな可能性

—学校行事と部活動に焦点化したフィールドワークから—

企画・話題提供	山梨大学	東海林 麗 香
企画・話題提供	山梨大学	尾 見 康 博
司会	滋賀県立大学	松 嶋 秀 明
話題提供	昭和町立押原小学校	杉 山 ひとみ
指定討論	立正大学	西 田 公 昭#

JH07 保育士・教員養成の現状と課題

—教育実習生を受け入れる園・学校からの声—

企画・司会	大手前大学	石 上 浩 美
企画	城星学園小学校	矢 野 正
話題提供	吹田市立豊津第二小学校	宮 前 桂 子
話題提供	大阪キリスト教短期大学	山 本 淳 子#
話題提供	兵庫大学	澤 田 真 弓#

JH08 子どものキャリア形成に寄与する学校外要因の心理学

企画・司会	川村学園女子大学	生 駒 忍
企画・話題提供	川村学園女子大学	佐 藤 哲 康
話題提供	東京成徳大学	渡 部 雪 子
話題提供	静岡大学	伊 田 勝 憲
話題提供	東海大学	佐 藤 典 子
指定討論	関東学院大学	鈴 木 公 基

JH09 障害の重い子どもが取り組む学習とは(続)

—その多面性について—

企画・話題提供	上越教育大学	土 谷 良 巳
司会・指定討論	群馬大学	中 村 保 和
話題提供	宮城教育大学	菅 井 裕 行
話題提供	宇都宮大学	岡 澤 慎 一
指定討論	福井大学	笹 原 未 来

〈○印は責任発表者、#印は会員以外の連名発表者を示します〉

ポスター発表

ポスター発表A

11月7日(金) ポスター掲示時間 10:00~12:00
在席責任時間 奇数番号10:00~11:00 偶数番号11:00~12:00

学校心理学

5階ラウンジ

- | | | | |
|-------|---|--|--|
| PA001 | 教師の「いじめ」認識と学校現場における「いじめ」の言葉の用いられ方
—教師を対象としたインタビュー調査から— | 文教大学 | 中 野 真 也 |
| PA002 | 職員室はいかに意味づけられているか
—現役教員の語りからの検討— | 北海道大学大学院 | 佐 藤 昭 宏 |
| PA003 | ストレス軽減に向けた動物の癒し効果に関する研究II
—高校生を対象とした動物に関する意識調査からの検討— | 兵庫教育大学
兵庫教育大学大学院 | ○生 嶋 英 明
小 林 小夜子 |
| PA004 | ピア・メディエーション(PMTP)を活用した仲裁的思考を育むプログラムの開発 | 大阪教育大学大学院
奈良教育大学 | ○松 山 康 成
池 島 徳 大 |
| PA005 | ポストモダンにおける大学生の成長モデルと時間的展望獲得に関する探索的研究(1) | 大阪樟蔭女子大学
大阪樟蔭女子大学
大阪樟蔭女子大学
大阪樟蔭女子大学 | ○川 上 正 浩
坂 田 浩 之#
佐久田 祐 子#
奥 田 亮 亮# |
| PA006 | モラルジレンマ授業の勧め(5)
—モラルジレンマ授業が自尊感情の発達に及ぼす効果：中学生の「道徳授業」を通して— | 姫路獨協大学
神戸市教育委員会
神戸大学 | ○平 岡 清 志
竹 田 レイ子#
藤 田 裕 一# |
| PA007 | 過去の教師との関わり経験と教師関係への動機づけの関連 | 愛知教育大学 | 中 井 大 介 |
| PA008 | 過去の否定的経験と大学・大学院専攻志望動機との関連についての研究(3)-2
—専攻志望動機及び専攻に対する期待に関する量的データの予備的検討— | 甲子園大学
聖泉大学 | ○金 綱 知 征
藤本(谷口) 麻起子# |
| PA009 | 教員養成系大学生の子どもの問題行動への対応と問題対応効力感 | 東京学芸大学
東京学芸大学 | ○福 田 圭帆理
糸 井 尚 子 |
| PA010 | 教師の指導文化尺度作成の試み
—信頼性・妥当性の検討— | 大阪教育大学大学院
大阪教育大学 | ○井 原 啓 裕
牧 郁 子 |
| PA011 | 高校生の充実感の感じ方に関する検討 | 中央大学大学院 | 菅 沼 彩 桃 |
| PA012 | 小学校における学級の社会的目標に関する研究
—学級の社会的目標構造尺度の開発— | 大阪大学大学院
香川大学
名古屋大学大学院
京都教育大学 | ○大 谷 和 大
岡 田 涼 之
中 谷 素 達
伊 藤 崇 達 |
| PA013 | 小学校の統廃合による環境移行下の学校適応に関する研究VI
—中学校移行後1年間における対人関係の認識に対する小学校時点での統廃合経験による差異— | 兵庫教育大学大学院 | 小 林 小夜子 |

PA014	小学生の適応を高める要因の検討 —居場所感の観点から—	神戸大学大学院 立命館大学	○西石	中本	華雄	子真
PA015	心理的支援活動を通した大学院生の気づき（１） —生徒理解，支援方法の変化に着目して—	筑波大学大学院 筑波大学大学院 筑波大学大学院 筑波大学大学院 筑波大学 筑波大学	○江新 新井 鈴木 長庄 石隈	角井 悠介 志津 一利	周雅 介津 恵子 紀	
PA016	心理的支援活動を通した大学院生の気づき（２） —教師像の変容に着目して—	筑波大学大学院 筑波大学大学院 筑波大学大学院 筑波大学大学院 筑波大学 筑波大学	○鈴木 長江 新井 庄石	木谷 悠志 周津 一利	介津 恵子 雅子 紀	
PA017	総合的な学習と関連づけた心理教育プログラムの 教育効果 —中学校でのSEL-8Sプログラムの活用—	梅光学院大学 新宮町立新宮中学校 福岡教育大学	○山升 小	田野 泉	洋邦 令	平江 三
PA018	非専門家（大学生）による学校支援ボランティア に関する研究（４） —支援を受けている子どもの特徴および子どもの 担任教師による活動の評価—	福井大学 福井大学 福井大学	○大笹 松	西原 木	将未 健	史来 一
PA019	保護者による子どもの学級担任に対する評価の関 連要因	現在なし 兵庫教育大学	○中秋	村光	容恵	子
PA020	大学生生活充実感を規定する要因の検討	近畿大学	大	対	香奈子	
PA021	不登校経験者が再登校を通して直面した葛藤と克 服のプロセス —全日制単位制高校3年生へのインタビューから —	立命館大学	神	崎	真実	
PA022	Application of Triage in School Counseling	岡山大学	枝	廣	和憲	
PA023	自尊感情と学校享受感に関する日中比較 —東京都版自尊感情尺度を使って—	奈良女子大学 現在なし	○伊ザ	藤イ	美奈子 宇華	
PA024	中国の中高生の自尊感情が学校享受感に与える影 響に関する調査 —東京都版自尊感情尺度を使って—	現在なし 奈良女子大学	○ザ伊	イ藤	宇華 美奈子	
PA025	児童の社会的能力自己評定の個人差と教師評定と の関係	福岡教育大学大学院 福岡教育大学 福岡教育大学	○三米 小	淵山 泉	祥令	剛平 三

教授・学習・認知

PA026	画像の提示次元が教材の探索行動に与える影響 —スライドショー画像の観察行動からの検討—	鳥取短期大学 神戸大学大学院	○河村 嶋田	壮一郎 博行	
PA027	論理的な文章の作成過程における重要な学習活動 の検討 —小中接続に対応するメタ認知方略尺度の作成—	比治山大学	井口	あずさ	
PA028	グループメンバーとの握手は協同問題解決を促進 するか	奈良教育大学 奈良教育大学	○山中	田陽 留美子	平

PA029	「主体」を意識すると子どもへの対応はどう変化するのか？	京都ノートルダム女子大学	畠 山 寛
PA030	カテゴリールール教示条件下の授業で構成された知識 —p-prims理論によるアプローチ—	兵庫教育大学大学院	植 原 俊 晴
PA031	課題の取り組みに及ぼす難易度情報提示の影響 —学習動機づけの個人差からの検討—	京都大学 京都大学	○市 村 賢士郎 楠 見 孝
PA032	学級風土と担任教師のリーダーシップに対する子どもと教師の認知のズレ	関西大学 関西大学	○金 明ブン 田 中 俊 也
PA033	高校「倫理」教科書からの思想形成過程の学習と支援 (1) —いかに支援の効果を受給しているか？—	立命館大学 立命館大学	○山 本 博 樹 織 田 涼
PA034	高校「倫理」教科書からの思想形成過程の学習と支援 (2) —受給した有効性は引き継がれるか？—	立命館大学 立命館大学	○織 田 涼 山 本 博 樹
PA035	リスク認知にリスクリテラシー・批判的思考が及ぼす影響 —遺伝子組み換え食品と再生医療のアナロジーの効果—	京都大学大学院 京都大学	○伊 川 美 保 楠 見 孝
PA036	穏やかな達成を目指す目標としての習得回避目標 —2つの達成目標尺度の比較—	広島大学 岡山商科大学	○徳 岡 大 前 田 健 一
PA037	ふきだし法を用いてメタ認知をオンラインで捉える試み —小学校算数科における検討—	大阪大学大学院 大阪大学大学院 関西大学初等部 京都文教大学	○久 坂 哲 也 谷 本 大 古 温 久 亀 岡 正 睦
PA038	学習時の自己テストが子どもの記憶保持と正確さに及ぼす効果 —行為を伴う場所の記憶課題を用いた検討—	関西福祉科学大学 神戸親和女子大学	○堀 田 千 絵 多 鹿 秀 継
PA039	教員養成学部生の課題価値プロフィールと学習成果の関連 —教職必修科目受講者の教職志望度に注目して—	滋賀大学	大 谷 宗 啓
PA040	国際理解教育の実践を通じた児童の能力の変容 —質問紙調査及び行動観察による検討—	東京学芸大学 東京学芸大学	○塙 万 里 奈 梶 井 芳 明
PA041	就職活動における自己PR文産出に必要な事項の検討 (1)	阪南大学	崎 濱 秀 行
PA042	重度・重複障害児の音刺激に対する快・不快の感情と表情との関わりに関する研究II —脈波から捉えた自律神経活動の変化—	兵庫教育大学大学院 兵庫教育大学大学院	○宇田川 順 子 小 林 小 夜 子
PA043	大学における反転授業の実証的研究 —アクティブラーニングの観点から—	関西大学 島根大学 島根大学 京都大学	○森 朋 子 宗 村 広 昭 # 本 田 周 二 溝 上 慎 一
PA044	大学生における創造観とアイデア生成の関連性	大阪大学大学院 大阪大学大学院	○山 口 洋 介 三 宮 真 智 子
PA045	女子大学生間の言葉かけに対する意図認知 —アドバイス場面に着目して—	京都文教短期大学 大阪大学大学院	○真 下 知 子 三 宮 真 智 子

PA046	女子短大生に対するグループワークプログラム実践の試み（２）	関西学院大学 みどりトータルヘルス研究所 京都光華女子大学短期大学部 近畿大学 近畿大学 みどりトータルヘルス研究所 みどりトータルヘルス研究所 みどりトータルヘルス研究所	○高岡し の 猪澤孝 歩 森際 孝 司 本岡寛 子 大対香 奈子 藤田昌 也 三田村 仰 林 敬 子
PA047	小学校の事後検討会における語りの変化 —Round Study の導入—	京都大学大学院	黒 田 真由美
PA048	身体論を用いた看護基礎技術習得のための自己学習支援教育ツールの開発	京都光華女子大学 京都光華女子大学短期大学部	○鮫島輝 美 井 川 啓
PA049	成員交代を伴うゼミ共同体における先輩後輩関係に言及する語りの機能 —状況的学習論の視点から—	関西大学	山 田 嘉 徳
PA050	生徒の怠学行動に関する研究（１） —怠学行動尺度の作成—	香川大学大学院 香川大学	○湯浅英 幸 大久保 智 生
PA051	動機づけにおける自律性支援と構造の実態 —生徒の認知に基づいて—	大阪教育大学大学院	近 藤 美紗子
PA052	日常生活における論理性に対する価値観の日米比較	大阪大学大学院 大阪大学大学院	○中野瑠美子 三 宮 真智子

発達

PA053	幼児期の協同性の発達過程と支援（１） —３歳児の発達過程に注目して—	武庫川女子大学	藤 谷 智 子
PA054	共同画制作過程における幼児同士の相互交渉 —同年齢ペアと異年齢ペアの比較—	神戸大学大学院	若 松 多 恵
PA055	大学生活で身につけた力とその要因について（１） —学年と重視活動による差異—	京都ノートルダム女子大学 京都ノートルダム女子大学	○松島る み 尾 崎 仁 美
PA056	大学生活で身につけた力とその要因について（２） —学年と重視活動による差異—	京都ノートルダム女子大学 京都ノートルダム女子大学	○尾崎仁 美 松 島 る み
PA057	夫婦のワーク・ライフ・バランスと家族 —ライフステージごとの変化—	愛知教育大学 埼玉大学 東洋学園大学 文京学院大学	○尾形和 男 坂西友 秀 福田佳 織 森 下 葉 子
PA058	専業主婦家庭の父親のワーク・ライフ・バランスと家族 —ライフステージごとの変化—	文京学院大学 埼玉大学 東洋学園大学 愛知教育大学	○森下葉 子 坂西友 秀 福田佳 織 尾 形 和 男
PA059	人が生きる上で重視すること（３） —青年期を対象として—	大阪行岡医療大学	高 井 範 子
PA060	性別による友人関係満足に影響を及ぼす要因についての検討 —信頼感および個人志向性・社会志向性を中心に—	兵庫教育大学大学院 富山大学	○南 朱 里 姜 信 善
PA061	中・高生の音楽聴取行動とストレス・コーピングとの関係Ⅱ	梅花女子大学 聖徳大学	○岩井佳 子 沢 崎 真 史

PA062	乳幼児期のけんかやいざこざへの対応に関する意識調査 —乳幼児期の子どもを持つ保護者へのアンケート調査を通して—	東大阪大学短期大学部	竹 中 美 香
PA063	母親の育児ストレスを規定する要因に関する日中韓蒙比較研究 —母親の育児ストレスと成育歴、愛着、ソーシャルサポートとの関連—	神戸松蔭女子学院大学	寺 見 陽 子
PA064	明示的な指示が幼児期のスクリプトの変更に及ぼす影響 —プランニングおよび実行機能との関連の検討—	京都大学大学院	柳 岡 開 地
PA065	生活習慣チェックリストの活用の試みⅢ —幼児の排泄習慣における実態把握—	文教大学 聖学院大学	○白 石 京 子 金 谷 京 子
PA066	生活習慣チェックリストの活用の試みⅣ —排泄習慣における保護者と保育者の認識—	聖学院大学 文教大学	○金 谷 京 子 白 石 京 子
PA067	鳥取県におけるメンタルヘルスリテラシー教育に関する調査研究	鳥取環境大学	藤 田 恵津子
PA068	保育における4歳児の育ち（3） —子どもの視点から捉える幼稚園2年保育4歳児の1年間—	奈良教育大学	横 山 真貴子
PA069	子育て生活における母親の幸福感の構造	早稲田大学大学院 早稲田大学	○堂 坂 更夜香 向 後 千 春
PA070	児童における社会認識の発達のプロセスの検討（2） —産業立地についての因果的説明と発問との関連—	東京大学大学院	石 橋 優 美
501			
PA071	児童の関係性攻撃の認識と社会的情報処理の関連（4） —敵意帰属バイアスとの関連の検討—	筑波大学大学院 筑波大学	○関 口 雄 一 濱 口 佳 和
PA072	児童期の母親の養育態度と誘導方略が女子大学生の自己制御機能に与える影響	京都女子大学	森 下 正 康
PA073	小学生におけるワーキングメモリ訓練教材の効果の検証 —触覚版ジャンケンメモリ—	神戸松蔭女子学院大学 大阪教育大学 頌栄短期大学 甲南女子大学	○藤 本 浩 一 山 本 利 和 竹 内 伸 宜 林 照 子
PA074	小学生における数の推定の発達	金沢工業大学 北陸学院大学 金沢大学	○石 川 健 介 井 口 彰 子 [#] 原 田 克 己
PA075	小学生における学校での怒りと社会的スキルの因果関係 —交差遅れ効果モデルによる検討—	現在なし 富山大学	○寺 坂 明 子 下 田 芳 幸
PA076	心的数直線の形成と空間認知能力との関連	広島大学大学院 広島大学大学院	○浦 上 萌 杉 村 伸一郎
PA077	障害特性を有した青年の適応を支える母親の認識 —強みの重視と弱みの受容—	中央大学大学院	佐 野 江里子

PA078	親性準備性の発達に影響を及ぼす要因の検討	広島大学大学院 信州大学	○清 水 寿 代 清 水 健 司
PA079	前言語期乳児のネガティブ情動表出に対する調律的応答と母親が抱く子ども表象との関連	東京大学大学院	蒲 谷 慎 介
PA080	青年の見せかけの自己行動における発達的变化に関する研究	兵庫教育大学大学院 兵庫教育大学 兵庫教育大学 兵庫教育大学 兵庫教育大学 宝塚市立光が丘中学校	○村 上 めぐみ 松 浦 葵 # 浅 川 潔 司 宮 本 知 子 山 本 ミ カ 南 雅 則
PA081	適応的自我同一性地位面接の信頼性を検討する試み —自我同一性地位とその移行経路の再検査法による検討—	京都教育大学大学院	眞 鍋 一 水
PA082	心的状態語の使用量から心の理論を予測できるか？ —日本人母子における言語的相互交渉からの検討—	大阪国際大学短期大学部	東 山 薫

臨床

PA083	高校生のインターネット利用実態とメンタルヘルス	明治大学	岡 安 孝 弘
PA084	虐待的な養育環境と完全主義、自己愛と抑うつとの関連 —クラスタ分析によるサブ・タイプの抽出—	甲南大学	福 井 義 一
PA085	スクールカウンセラーは校種の違いをどのように実感しているか —教師との協働関係に焦点を当てて—	東京大学	山 本 涉
PA086	パチンコ・パチスロ嗜癖傾向と大学生活充実感の関連	香川大学大学院	西 邑 翼
PA087	援助要請行動頻度とその結果としての情動反応 —対処努力と本来感との関連—	三重大学 三重大学	○後 藤 綾 文 川 島 一 晃
PA089	児童青年期のインターネットおよびゲーム依存に対する心理的介入の効果	早稲田大学大学院 駿河台大学 早稲田大学大学院 早稲田大学	○宇田川 詩 帆 蓑 崎 浩 史 川 越 杏 梨 嶋 田 洋 徳
PA090	小学生における無気力感メカニズムの探索的検討 —自動思考における検討—	大阪教育大学	牧 郁 子
PA091	震災による喪失感尺度の作成	奈良女子大学 神戸大学 和歌山大学 神戸大学大学院	○岡 本 英 生 齊 藤 誠 一 則 定 百合子 松 木 太 郎
PA092	青年期の精神的回復力に及ぼす親子関係と性差の影響 —親との同一視欲求に関する検討—	鳴門教育大学	田 村 隆 宏
PA093	大学生の学業に対する学業外の活動の影響認知とバーンアウト —MBI-SSを用いた検討—	名古屋商科大学 中部大学	○椿 田 貴 史 嶋 崎 和 代 #

PA094	中学生の不注意および多動性・衝動性と内在化問題 —学校ライフイベント、自尊感情との関連—	お茶の水女子大学大学院	齊 藤 彩
PA095	中高生の社交不安に対するビデオフィードバックの介入効果の差異の検討	早稲田大学大学院 駿河台大学 早稲田大学大学院 早稲田大学	○川 越 杏 梨 蓑 崎 浩 史 宇田川 詩 帆 嶋 田 洋 徳
PA096	特別支援学校教員等のバーンアウトと精神健康状態の検討IV —教員のコーピングの因子構造に関する検討—	岐阜大学 九州ルーテル学院大学	○坂 本 裕 一 門 恵 子
PA097	反社会的問題行動をあらわす生徒へのレジリエンスの視点 —ある「荒れ」た中学校でのフィールドワークから—	滋賀県立大学	松 嶋 秀 明
PA098	抑うつ要因とされるネガティブな認知特性の適応的側面2 —対人領域におけるネガティブな認知スタイルに関する検討—	福井県立大学	黒 田 祐 二

特別支援

PA099	「気になる」子どもを発見した時の保育者への支援及び体制づくりに関する研究（2） —T市における連携支援体制への考察—	ほーぷ株式会社	亀 山 洋 光
-------	---	---------	---------

ポスター発表日

11月7日（金） ポスター掲示時間 13：30～15：30
在席責任時間 奇数番号13：30～14：30 偶数番号14：30～15：30

学校心理学

5階ラウンジ

PB001	音楽における心理的効果（2） —合唱活動に着目して—	武蔵野短期大学	芳 野 道 子
PB002	PBIS(ポジティブ行動介入および支援)が学級全体の学習規律に及ぼす効果の検討	福岡教育大学大学院 福岡教育大学	○古 市 貴 弘 西 山 久 子
PB003	いじめの被害者と傍観者の被援助志向性 —学級での適応および学校生活に対する意欲との関連—	創価大学	田 村 修 一
PB004	スクールカウンセラーと教師のアセスメントの共有方略が協働的援助に及ぼす影響 —学校における打ち合わせ状況別の検討—	筑波大学大学院 筑波大学	○新 井 雅 子 庄 司 一
PB005	学校危機に遭遇した教師の体験に関する実証的研究（5） —校長の自殺に遭遇した支援加配の教師の語りから—	名古屋大学 名古屋大学 愛知学院大学 名古屋大学 名古屋大学	○山 中 大 貴 窪 田 由 紀 石 川 雅 健 林 亜希恵 成 田 絵 吏
PB006	学校危機に遭遇した教師の体験に関する実証的研究（6） —前担任生徒の学校管理外事故死に遭遇した学年主任の事例から—	名古屋大学 名古屋大学 愛知学院大学 名古屋大学 名古屋大学	○林 亜希恵 窪 田 由 紀 石 川 雅 健 山 中 大 貴 成 田 絵 吏
PB007	学校危機に遭遇した教師の体験に関する実証的研究（7） —学校管理外事故に遭遇した教務主任の事例から—	愛知学院大学 名古屋大学 名古屋大学 名古屋大学 名古屋大学	○石 川 雅 健 窪 田 由 紀 成 田 絵 吏 山 中 大 貴 林 亜希恵
PB008	スピリチュアリティが進路選択行動に及ぼす影響	鳴門教育大学	村 上 祐 介
PB009	高等学校の特性と友人・学習意欲との関連についての検討	都留文科大学 早稲田大学	○藤 原 和 政 河 村 茂 雄
PB010	学校予防教育「感情の理解と対処の育成」の教育効果 —中学1年生を対象に—	鳴門教育大学 鳴門教育大学 鳴門教育大学	○横 嶋 敬 行 内 田 香奈子 山 崎 勝 之
PB011	学校予防教育プログラム「自己信頼心（自信）の育成」 —小学校5年生での実施と効果—	鳴門教育大学 鳴門教育大学	○賀 屋 育 子 山 崎 勝 之
PB012	児童の「仲間外れ」を規定する要因についての検討	広島修道大学	西 野 泰 代
PB013	児童の学校適応感について —自尊感情・自己効力感との関連に着目して—	創価大学	富 岡 比呂子

PB014	児童の時間管理 ー冬休み中における宿題の取り組みー	岡山大学 宇部フロンティア大学 精華女子短期大学 広島大学	○岡崎善弘 徳永智哉# 井邑智哉# 高村真広#
PB015	小学生が認知する教師の潜在的影響力 ー回想法による調査ー	神戸大学大学院 神戸大学	○森下詩織 坂本美紀
PB016	小学生を対象とした対人関係ゲーム・プログラムの効果の検討 ー引っ込み思案・攻撃性の高い児童への効果の検討ー	愛知県スクールカウンセラー 名古屋大学	○山窪陽平 田田由紀
PB017	高校における総合的な学習の時間・特別活動をつなぐ包括的SST	東京情報大学 法政大学	○原田恵理子 渡辺弥生
PB018	工科系大学生の物理に対する学習意欲 ー入学に伴う物理に対する興味の変化とその規定因の探索的分析ー	千葉工業大学 千葉工業大学	○市川洋子 轟木義一
PB019	大学生の抑うつ傾向に対する介入効果の検討(1) ーLAC法を用いてー	愛知教育大学 名古屋大学大学院	○中島奈保子 松本麻友子
PB020	大学生の抑うつ傾向に対する介入効果の検討(2) ーLAC表の内容検討ー	名古屋大学大学院 愛知教育大学	○松本麻友子 中島奈保子
PB021	大学生は教員からどのような社会的影響を受けるのか ー成人愛着スタイルにもとづく検討ー	豊橋創造大学	加藤知佳子

測定・評価・研究法

PB022	コミュニケーションティーチング(演劇ワークショップ)と自己効力感に関する検討	大阪大学	蓮行
PB023	日本版KABC-IIの尺度構成と標準化	法政大学 九州保健福祉大学 筑波大学 北海道教育大学 筑波大学 法政大学	○服部環 藤田和弘# 石隈利紀 青山真二# 熊谷恵子 小野純平
PB024	児童の放課後生活状況把握と影響要因の検討 ーQOL, シャイネス, 学校適応及びサポート環境との関連ー	川村学園女子大学 川村学園女子大学 川村学園女子大学 東海学院大学 川村学園女子大学	○北原靖子 佐藤哲康 生駒忍 川嶋健太郎 蓮見元子
PB025	TCT創造性検査とMSC創造性構え検査のパッケージとしての機能	日本福祉教育専門学校 明星大学 明星大学 文化学園大学 適合性評価研究所 松本短期大学 山口県立大学 適合性評価研究所	○寺澤美彦 黒岩誠 高下梓 伊賀子 高野憲隆 内藤美智子 三島正英 久米稔
PB026	評定カテゴリー数の異なる尺度を用いると「幻の因子」がでることがある	早稲田大学 早稲田大学	○椎名乾平 久保沙織
PB027	同一筆者が書いた異なる文字の部分を組み合わせた場合の筆跡個性	科学警察研究所	関陽子

PB028	センター試験における成績未利用者の受験行動の背景 ーセンター試験成績で大学に出願しないのになぜ受験するのか？ー	大学入試センター 大学入試センター 大学入試センター	○内 田 照 久 橋 本 貴 充 鈴 木 規 夫 #
PB029	児童の絵画を表現・評価する言葉の検討 ー自由記述に基づいた語句の収集ー	埼玉大学 東京学芸大学大学院	○萩生田 伸 子 八 桁 健
PB030	近年のTIMSS調査における中学校第2学年地学領域の共通項目の統計的な特徴の変化とトピックとの関連	国立教育政策研究所 国立教育政策研究所	○萩 原 康 仁 松 原 憲 治 #
PB031	視覚的素材を用いた診断的評価の有効性の検討 I ー中学校理科の授業設計のツールとしてー	岡山大学 玉野市立八浜中学校 真庭市立落合中学校 就実短期大学	○荒 尾 真 一 奥 野 晃 司 谷 本 薫 彦 鎌 田 雅 史
PB032	モチベーション志向情報教育システム (SIEM) の継続的実践効果VIII ープログラミング教育のモチベーションの向上を目指すためにー	東京電機大学 東京電機大学 東京電機大学	○土 肥 紳 一 宮 川 治 今 野 紀 子
PB033	レジリエンス形成要因間の関係性に関する研究 (1) ー尺度の作成と信頼性・妥当性の検討ー	神戸学院大学	光 浪 睦 美
PB034	教育研究会の教育効果に関する一考察 ー研究会の教育効果の構成概念解明と教育効果検証の試みの過程ー	神戸市立中央小学校	山 田 清 輝
PB035	田中ビネー知能検査Vの4～7歳級の項目の因子分析	横須賀市療育相談センター 筑波大学	○吉 村 拓 馬 大 六 一 志
PB036	国内の心理尺度作成論文における信頼性係数の報告状況 ー2001-2012年度までに公刊された心研・教心研・社心研・実社心研・パソ研を対象にー	日本学術振興会	高 本 真 寛
PB037	児童用インプリシット感情測定尺度の開発 ー学校予防教育プログラム効果測定ツールの開発を目指してー	鳴門教育大学 鳴門教育大学	○内 田 香 奈 子 山 崎 勝 之

特別支援

PB038	教員養成大学生における子どもへの「障害の説明力」の評価	國學院大學	渡 邊 雅 俊
PB039	聴覚障害学生の音声に関する発音評価 ー単音節発音明瞭度を指標としてー	筑波大学	加 藤 靖 佳
PB040	大学生の障害者に対する意識 2	北星学園大学	豊 村 和 真
PB041	特別支援教育における教員の役割に関する研究 (5) ー職種別の勤務校の概要・特別支援教育の実施の有無とその評価などについてー	こども教育宝仙大学 帝京科学大学 鹿児島大学 NPO人間科学研究所 ほーぷ株式会社	○林 幸 範 石 橋 裕 子 今 林 俊 一 太 田 裕 生 # 亀 山 洋 光
PB042	特別支援教育における教員の役割に関する研究 (6) ー職種別の教職員との連携の有無とその評価の関係ー	帝京科学大学 こども教育宝仙大学 鹿児島大学 NPO人間科学研究所 ほーぷ株式会社	○石 橋 裕 子 林 幸 範 今 林 俊 一 太 田 裕 生 # 亀 山 洋 光

PB043	発達障害児を対象とし感情調整に焦点を当てた小集団SST ーバイオフィードバックとカードゲームの指導を通してー	香川大学	武 蔵 博 文
PB044	自閉症スペクトラム障害をもつ児童・生徒のヒト顔刺激に対する視線追跡の特徴 ーその発達過程ー	早稲田大学 東京成徳大学大学院 岡山大学 関西看護医療大学	○佐々木 和 義 柳 忠 宏 桂 川 泰 典 門 脇 千 恵
PB045	特別支援教育に関する教職キャリア別教員の課題	兵庫教育大学 兵庫教育大学	○高 畑 芳 美 小 林 祐 子 #
PB046	特別支援学校における着替えの自立に関する指導	ノートルダム清心女子大学	東 俊 一
PB047	ディスレクシア・スクリーニング検査（ELC：Easy Literacy Check）による音読・音韻評価 ー読み書き障害2事例の比較検討を通してー	お茶の水女子大学 名寄市立大学	○安 藤 壽 子 瀬戸口 裕 二 #
PB048	緘黙生徒に対する高校教員の指導意識について ー緘黙についての理解と指導意識の類型ー	神戸国際大学	成 瀬 智 仁
PB049	『気になる場面』に対する保育者の認識と省察	広島文化学園大学	若 林 紀 乃
PB050	障害児保育に対する保育士の困難感に関する研究	武庫川女子大学 武庫川女子大学 武庫川女子大学 武庫川女子大学	○寺 井 朋 子 橋 詰 啓 子 # 倉 石 哲 也 # 石 川 道 子 #
PB051	特別支援教育コーディネーターに求められる資質に関する検討 ーチーム支援におけるメンバーとの関わりに着目してー	兵庫教育大学	谷 芳 恵
PB052	「気になる」児童の学級満足度の変化 ー5年間の縦断的調査からー	京都教育大学	相 澤 雅 文
PB053	幼稚園において特別な支援を必要とする子どもの他児とのかかわり	宇都宮大学	司 城 紀代美
PB054	若手（2-5年目）教師に対するサポートニーズと支援体制のあり方 ー公立小学校教師の検討ー	大正大学 東京学芸大学 東京学芸大学 東京学芸大学 東京学芸大学	○三 浦 巧 也 林 安 紀 子 橋 本 創 子 田 口 禎 子 熊 谷 亮
PB055	不登校・不適応経験のある高校生の学校適応支援ニーズの把握に関する研究 ーASIST学校適応スキルプロフィール・自記式シートの開発ー	東京学芸大学 東京学芸大学 大正大学 東京学芸大学	○熊 谷 亮 橋 本 創 一 三 浦 巧 也 田 口 禎 子

発達

PB056	児童期の食認識が大学生の共食に対する認識に及ぼす影響	日本女子大学	櫻 井 登世子
PB057	学業の失敗に対する友人の慰めによって生じる感情 ー共感と励ましの言葉かけとそっと離れる行動の違いー	東京学芸大学大学院	小 川 翔 大

PB058	学童保育と学校教育 —放課後の生活とその理解—	埼玉学園大学	金 谷 有 子
PB059	「ひとりの時間」の過ごし方（行動）尺度の作成	昭和女子大学 昭和女子大学大学院	○増 淵 裕 子 今 城 周 造
PB060	あるプロスポーツの選手を目指す青年の自立的価値追求	上武大学	宮 野 祥 雄
PB061	いじめ観が罪悪感の予期と共感性を媒介にしていじめ加害行動に及ぼす影響	筑波大学 筑波大学大学院 筑波大学大学院 NPO法人 幼児教育従事者研究開発機構	○外 山 美 樹 湯 有 富 立 奥 園 公 教 淳 子 #
PB062	エリクソンの斉一性と連続性を現象学的方法で捉える（1） —アイデンティティ危機でも喪失されない斉一性と連続性とは—	東京工芸大学	小 沢 一 仁
PB063	キャリア・アダプタビリティ尺度の作成	中部大学	杉 本 英 晴
PB064	キャリアレジリエンス要因の構成概念の検討	広島大学	児 玉 真樹子
PB065	キャリア教育をどうすすめるか —大学生の体験回想と自己効力感との関連—	太成学院大学	杉 山 佳菜子
PB066	キャリア選択に対する自己効力が就職活動の成果に与える影響 —就職活動方針に注目して—	学習院大学大学院	小 菅 清 香
PB067	ネガティブな情動を経験した青年が重要な他者に求めるサポートについての検討	神戸大学大学院 神戸大学	○松 木 太 郎 齊 藤 誠 一
PB068	ネガティブ情動の喚起時における児童の切り替え能力の発達	静岡大学 静岡大学 静岡大学	○中 道 圭 人 村 越 真 # 藤 井 基 貴 #
PB069	ベビーサインから話し言葉へ	埼玉学園大学	赤 津 純 子
PB070	英独仏の国語教科書に描かれた親子間の葛藤処理方略	同志社大学 同志社女子大学	○沼 田 潤 塘 利 枝子
501			
PB071	韓国ソウルの公園で観察されたアタッチメント関連行動	大同大学	松 岡 陽 子
PB072	教師は生徒をどのような人に育てたいか	文教大学 文教大学 埼玉大学 白百合女子大学	○登 張 真 稲 名 尾 典 子 # 首 藤 敏 元 大 山 智 子
PB073	教師志望学生の教師効力感と特性的自己効力感との関係 —実習経験者と実習未経験者における効力感の比較—	京都教育大学大学院	増 田 優 子
PB074	劇遊びにおける物語づくり —物語を共有していく事例より—	東海学園大学	藤 塚 岳 子

PB075	女子短期大学生の心理的発達に関する縦断研究 (29) —学校満足度と時間的展望の関連—	北海学園大学 愛知江南短期大学 中部大学 東海学園大学	○五十嵐 素子 森山 雅晴 杉本 英子 谷 伊織
PB076	女子短期大学生の心理的発達に関する縦断研究 (30) —恋愛関係の良好度と時間的展望の関連—	愛知江南短期大学 中部大学 東海学園大学 北海学園大学	○森山 雅子 杉本 英子 谷 伊織 五十嵐 素子
PB077	女子大学生における大学生活と親準備性 (1)	東京家政大学 東京家政大学 鶴川女子短期大学	○井伏 澄江 森見 友里 岩 治 まとか
PB078	女子大学生における大学生活と親準備性 (2)	鶴川女子短期大学 東京家政大学 東京家政大学	○岩井 澄江 治 森友 森 治 里 伏 見 里
PB079	女子大学生における大学生活と親準備性 (3)	東京家政大学 東京家政大学 鶴川女子短期大学	○伏井 友里 見 森澄 岩 治 まとか
PB080	女子大学生における被感謝経験の検討	和洋女子大学	池田 幸恭
PB081	女子大学生の自立と将来適応感に母親及び父親との心理的距離が与える効果	安田女子大学 山口学芸大学 広島市立広島特別支援学校	○堂野 恵子 堂野 佐俊 堂野 麻衣
PB082	将来の特性を規定する要因に関する大学生の認識 —付与された情報の影響についての検討—	明星大学	布施 光代
PB083	健常大学生における自閉症スペクトラム指数とイメージ能力との関連	東北文科大学	畠山 孝男
PB084	現在指向性の持ち方が死について考えることの効果に及ぼす影響	名古屋大学	石井 僚
PB085	現代の若者の価値観と幸福度の検討	三重大学	南 学
PB086	現代青年の自立性に関する研究 (6) —交流分析における透過性調整力の高・低と自立・自律性—	現在なし	菱田 陽子
PB087	現代青年の友人関係における“キャラ”の受け止め方の発達 —学校段階による比較—	筑波大学 筑波大学	○千村 雄太 島上 達也
PB088	高校生における感動経験と学校適応感の関係	愛媛大学	橋本 巖
PB089	小学校1年生のリテラシーに及ぼす家庭の文字環境の影響 (1) —幼児期の文字環境の検討—	鎌倉女子大学 共立女子大学 白梅学園大学 関西福祉大学 大阪医科大学LDセンター	○原川 孝成 白 藤子 無 隆 金 沢 緑 奥 村 智 人
PB090	小学校1年生のリテラシーに及ぼす家庭の文字環境の影響 (2) —児童期の文字環境の検討—	共立女子大学 鎌倉女子大学 白梅学園大学 関西福祉大学 大阪医科大学	○白川 佳子 原 孝成 無 藤 隆 金 沢 緑 奥 村 智 人

PB091	小学校5年生時の遊び経験と青年期の社会性との 関連 (1) —社会的スキルの発達—	立命館大学 神戸学院大学 関西学院大学 九州産業大学 京都教育大学 立命館大学 神戸学院大学	○神 藤 貴 昭 光 浪 睦 美 王 幸 松 久木山 健 一 伊 藤 崇 達 門 田 幸 太 小 石 寛 郎 文
PB092	小学校5年生時の遊び経験と青年期の社会性との 関連 (2) —リーダーシップの形成—	立命館大学 神戸学院大学 関西学院大学 九州産業大学 立命館大学 京都教育大学 神戸学院大学	○門 田 幸 太 光 浪 睦 美 王 幸 松 久木山 健 一 神 藤 貴 昭 伊 藤 崇 達 小 石 寛 郎 文
PB093	加害児の謝罪意志による謝罪介入の効果の違い	新見公立短期大学 明治学院大学	○芝 崎 美 和 山 崎 晃
PB094	ストレス関連成長の概念的枠組みモデルの適用可 能性 —量的アプローチによる妥当性の評価—	中央大学大学院	飯 村 周 平
PB095	感情音声の理解と表出の発達過程に関する研究	東京学芸大学大学院 東京学芸大学	○近 藤 綾 子 林 安 紀 子
PB096	メンタルローテーションと自己制御との関連性 (2) —エフォートフル・コントロールについて—	江戸川大学 えどがわ森の保育園	○野 田 満 落 合 洋 子 #
PB097	違反行為をした他者を隠す嘘に対する児童の認識 —先行援助エピソードの影響の検討—	名古屋経済大学	楯 誠
PB098	成人期女性の子育て支援のかかわりにおける利他 的行動 —体験についての語りから—	山口短期大学	足 立 法 子

ポスター発表C

11月7日（金） ポスター掲示時間 16：00～18：00
 在席責任時間 奇数番号16：00～17：00 偶数番号17：00～18：00

教授・学習・認知

5階ラウンジ

PC001	私たちは、どのように折り紙を折っているのか？ （8） —立体的変形プロセスの分析—	至学館大学	丸 山 真名美
PC002	大学1年生における時間的展望の構造 —写真投影法を用いた実態把握と働きかけ—	法政大学	田 澤 実
PC003	学習環境にデザインされた属性（1） —性に関する学習における自己関与性—	東京学芸大学大学院	郡 司 菜津美
PC004	学習環境にデザインされた属性（2） —失敗の社会的構成—	横浜国立大学大学院 横浜国立大学	○會 津 律 治 有 元 典 文
PC005	学習環境にデザインされた属性（3） —公立中学校における特別な支援が必要な生徒への学習支援：横浜国立大学教育実践演習の取り組みから—	横浜国立大学大学院 横浜国立大学	○佐々木 まりあ 有 元 典 文
PC006	教育にデザインされた属性（4） —教員養成課程の学生の英語学習に対する動機づけと課題価値、学習行動の関連—	横浜国立大学大学院 横浜国立大学	○瀧 香央季 有 元 典 文
PC007	3 囚人問題はなぜ難しいのか —視点教示の効果—	青山学院大学 明星大学	○寺 尾 敦 伊 藤 朋 子
PC008	eラーニング上の学習者同士の繋がる仕組みによって学習を回避してしまう者の特徴	大阪大学大学院 大阪大学大学院 岡山大学	○澤 山 郁 夫 三 宮 真智子 寺 澤 孝 文
PC009	JFL環境下の日本語学習に関わる情意的要因の関連 —習熟度との観点から—	昭和女子大学	石 橋 玲 子
PC010	Kit-Build方式による概念マップと学習方略の関連	玉川大学 玉川大学 広島大学 広島大学	○宇 井 美代子 茅 島 路 子 # 林 雄 介 # 平 嶋 宗
PC011	キャリア授業におけるクラス風土が生徒の動機づけに及ぼす影響（3） —自己決定理論の観点からの検討—	駿河台大学 日本教育大学院大学	○大 井 はるえ 黒 石 憲 洋
PC012	ジャズピアノレッスンにおける音の協働探索過程	立教大学	蓮 見 絵 里
PC013	ストリートダンスに対する大学生の評価	東京大学大学院 東京大学	○清 水 大 地 岡 田 猛
PC014	その行為は誰がやったものなのか？ —課題の難易度が低い共同における自己への誤帰属と引用の関係—	筑波大学大学院	太 田 礼 穂
PC015	タイピング技能獲得プロセス —ローマ字とモーラの関係について—	神戸大学大学院 神戸大学大学院	○芦 高 勇 気 嶋 田 博 行

PC016	テスト形式が記憶のテスト効果に及ぼす影響 ー再生と再認を組み合わせた検討ー	法政大学大学院	長	大	介
PC017	テスト不安と自己効力感が学習行動に与える影響	広島大学大学院	森	田	愛子
PC018	ドラマ手法で学びを変える	昭和女子大学	青	木	幸子
PC019	フィードバックを得る手続きと達成目標が内発的 動機づけに及ぼす効果	香川大学大学院	綾	田	栞
PC020	プログラムの構造に関する文字認知の分析	東京電機大学 東京電機大学 東京電機大学 関東学院大学	○宮 土 今 高	川 肥 野 野	治 一 子 之#
PC021	プロジェクト型学習における役割意識の構築過程	東京大学	森	玲	奈
PC022	マニュアル制作授業受講者の読み手意識の変化	早稲田大学 早稲田大学 東京学芸大学	○富 中 岸	永 村 敦 綾	子 乃# 学
PC023	モチベーション向上のための教室環境づくり ー色彩照明による検討ー	東京電機大学 東京電機大学 東京電機大学	○今 土 宮	野 肥 川	紀 紳 子 一 治
PC024	モニタリング基準が読解の理解感に及ぼす影響 ー方向付けしたモニタリング基準と実際のモニタ リングは一致するのかー	東京学芸大学 葛飾区立花の木小学校 東京学芸大学	○上 岡 岸	村 田 友里恵 今日子 学	
PC025	ルーブリック評価による教育効果測定とその妥当 性の検討 ー保護者と先生の異なる活動に対する評価間の関 係からー	法政大学大学院 法政大学 法政大学大学院 株式会社ビリング	○加 藤 鈴 井	藤 田 木 手	みずき 哲也 洋介 茜
PC026	ルールの学習と切り替えの発達の变化 ーDCCS課題遂行時の眼球運動データの検討ー	理化学研究所 理化学研究所	○神 馬	長 塚 伸 幸 れい子#	
PC027	英語のルール学習における母語の自覚化の様相	兵庫教育大学大学院	吉	國	秀人
PC028	英語ライティング授業における学習意欲・自己効 力感・学習方略及びテストスコアの関連	埼玉医科大学	藤	森	千尋
PC029	音韻意識を高める指導による英単語分節化への影 響 ーオンセット・ライム意識と音素意識に着目して ー	東京大学	木	澤	利英子
PC030	課題期限直前における先延ばしの際の意識変化 ー短期反復測定による検討ー	神戸学院大学	小	浜	駿
PC031	過去の栽培経験の有無により米作りの体験活動で 得られる効果に違いはあるのか ー小学校5年生の米作りの体験活動に着目してー	筑波大学大学院 筑波大学	○勝 藤	野 生 美 英	江 行
PC032	絵本の集団読み聞かせにおける読後の対話活動 ー保育における言語力の育成ー	椋山女学園大学 中部学院大学	○塚 橋	本 村 恵 晴	信 美
PC033	外挿操作による課題解決の促進	山梨大学 早稲田大学	○進 麻	藤 柄 聡 啓	彦 一
PC034	外部人材を活用した伝統・文化の教育における コーディネーターの語り ー実演家と学校をつなぐ主体の位置取りー	上越教育大学	城	間	祥子

PC035	概念モデルにおける具体的情報の学習妨害効果	東北大学	工藤 与志文
PC036	概念構造生成における学習対象概念の構造の影響	早稲田大学	大津 嘉代子
PC037	概念変化を促す情報教示の影響が自己効力感によってどのように異なるか —知識の正確性／知識再構築に対する自己効力感の観点から—	三重大学 早稲田大学	○中 西 良 文 大 道 一 弘
PC038	学級規模の大小とフィードバックの実施状況 —小学校第3・4学年国語の場合—	国立教育政策研究所	山 森 光 陽
PC039	学習回数と学習タイミングが四字熟語の習得に及ぼす影響 —連続学習事態における学習効果の縦断的評価—	名古屋大学 岡山大学 関西大学 関西大学初等部	○西 山 めぐみ 寺 澤 孝 文 三 宅 貴久子 古 本 温 久
PC040	学習の継続性に関する学習動機と授業に対する意識 —履修科目全体に関する授業満足度と満足授業率との相違—	文教大学	鈴 木 賢 男
PC041	議論力育成を組み込んだ理科授業に対する大学生の評価 —質問紙調査による分析1—	大阪市立大学 神戸大学 神戸大学 神戸大学	○西 垣 順 子 坂 本 美 紀 山 口 悦 司 # 稲 垣 成 哲 #
PC042	協調的な学びを取り入れた授業の実践を支える教師の信念	追手門学院大学 静岡大学大学院	○河 崎 美 保 益 川 弘 如
PC043	協同的な学びによる聞き取り力向上についての考察 —話し合い活動の指導による聞き取り力育成の試み—	所沢市立並木小学校	嶋 崎 栄 一
PC044	協同的な学習に対する動機づけの年度内変化	香川大学	岡 田 涼
PC045	教育実習生の授業実践過程における感情の生起と機能	福岡教育大学	松 尾 剛
PC046	教育用パンフレット「知っていますか？男性のからだのこと，女性のからだのこと」に対する大学生の意識調査	金沢大学 金沢大学 岐阜大学 岐阜大学 常葉大学 岐阜大学	○吉 川 弘 明 足 立 由 美 山 本 眞由美 # 西 尾 彰 泰 # 佐 渡 忠 洋 # 堀 田 亮 #
PC047	教員研修でのワールドカフェ体験に対する参加者の評価	兵庫教育大学	尾之上 高 哉
PC048	教員免許取得を目指す学生の教育実習に対するイメージ —実習経験，教職志望度に着目したメタファ法による検討—	岡山大学 新潟大学 星城大学	○三 島 知 剛 一 柳 智 紀 坂 本 篤 史
PC049	教科教育・教育方法学の基礎としての教育心理学の発展過程 —教科の教育・学習過程の教育心理学的研究を例に—	埼玉大学	坂 西 友 秀
PC050	教具による学習効果の違いに関する研究 —板書・実物投影機・デジタルペンの活用に関する検討—	國學院大學 津田塾大学 広島大学附属東雲小学校	○寺 本 貴 啓 高 垣 マユミ 福 地 孝 倫 #

PC051	教師は協同学習のグラウンド・ルールをどのように共有するか — 4 月における 2 人の小学校教師の比較を通して —	東京大学大学院	児 玉 佳 一
PC052	教室における教師の感情経験と感情表出 — 教室内・外の感情経験の差異と連関に着目した検討 —	東京大学大学院・ 日本学術振興会	利根川 明 子
PC053	胸腔持続吸引システムの理解を妨げる要因に関する考察 — 陰圧の力の性質と力のつり合いに着目して —	福岡女学院看護大学 福岡女学院看護大学 福岡女学院看護大学 福岡女学院看護大学	○青 木 久 恵 門 司 真由美 # 青 木 奈緒子 # 窪 田 恵 子 #
PC054	現職保育者の学び：保幼小の連携に向けた研修	帝塚山大学	清 水 益 治
PC055	現役教師および教育実習経験者における学ぶ動機 の比較 — 教科指導に着目して —	筑波大学大学院 筑波大学	○三 和 秀 平 外 山 美 樹
PC056	古典授業における対話型両義的発話の機能 — 授業文脈をずらす効果に注目して —	東京大学大学院	石 島 照 代
PC057	考古学的鑑識技能の学習プログラム開発	徳山大学	時 津 裕 子
PC058	知的好奇心と批判的思考態度との関連	慶應義塾大学	齋 藤 央 典
PC059	他者との相互作用場面における学習者の目標設定 と関連要因 — 学習動機と学習観に着目した検討 —	日本大学	篠ヶ谷 圭 太

社会

PC060	教職に関する社会的能力についての自己評価 — 教職志望学生と教員との比較検討 —	福岡教育大学 梅光学院大学 福岡教育大学	○小 泉 令 三 山 田 洋 平 高 松 勝 也
PC061	女子大学生における死別経験とライフスキル	金城学院大学	増 田 公 男
PC062	就業力育成のためのループリックの開発と試行	くらしき作陽大学	芝 崎 良 典
PC063	女子大学生はどんなときに援助方法がわからない と感じるのか？ — 自由記述法による検討 —	大阪大学	山 村 麻 予
PC064	高齢者の移動支援機器に対する心理的抵抗感 — 生活機能得点の高低による違い —	目白大学 筑波大学 筑波大学 富山大学 東京未来大学 子ども支援研究所 筑波大学大学院	○安心院 朗 子 徳 田 克 己 水 野 智 美 西 館 有 沙 村 西 実 穂 大 村 和 美 枝 越 和 美 野 裕 子
PC065	教師と児童の“授業ルール”認識のズレの特徴と その解消（1） — 授業ルール設定の目的の認識に着目して —	東京大学大学院 東京大学大学院 東京大学大学院	○笹 屋 孝 允 見 玉 佳 一 川 島 哲
PC066	教師と児童の“授業ルール”認識のズレの特徴と その解消（2） — 授業ルールに関わる相互行為に着目して —	東京大学大学院 東京大学大学院 東京大学大学院	○川 島 哲 笹 屋 孝 允 見 玉 佳 一

PC067	協調性と友人関係が授業外学習時間に与える影響	大手前大学 追手門学院大学	○寺 田 未 来 浦 光 博
PC068	充実した余暇活動とその終結に伴う行動の類型化	筑波学院大学	佐 野 司
PC069	大学生は誰を尊敬してきたのか？ —対象人物との現実的な交流の有無に着目した探索的検討—	東京大学・ 日本学術振興会特別研究員	武 藤 世 良
PC070	共働きの台湾社会における母親の養育態度の類型	同志社大学大学院	黄 ワン茜
501			
PC071	大学生の集団活動における役割体験と社会人基礎力の関連	早稲田大学 早稲田大学	○井 芹 ま い 河 村 茂 雄
PC072	クライシス・カウンセリングの研究 —消防職員のカウンセリング希求性について—	聖徳大学 環太平洋大学	○菅 沼 憲 治 吉 澤 英 里
PC073	大学・短期大学・高等専門学校・専門学校におけるキャリアガイダンスと就職支援の方法 —就職課・キャリアセンターの現在の取組みと課題—	(独) 労働政策研究・ 研修機構 (独) 労働政策研究・ 研修機構	○室 山 晴 美 深 町 珠 由#
PC074	大学生の進路意思決定における教職に関わる阻害的要素への対処	滋賀大学	若 松 養 亮
PC075	Coparentingの勢力基盤が子どもの愛着に及ぼす効果に関する発達の差異	専修大学	下斗米 淳
PC076	親の自己愛傾向が子育て葛藤に及ぼす影響について —中学生の父母の自己愛傾向が子育て葛藤に及ぼす影響について—	梅花女子大学 梅花女子大学	○太 田 仁 阿 部 晋 吾
PC077	ほめられた経験が自尊感情に及ぼす効果	十文字学園女子大学	風 間 文 明
PC078	リーダーシップと性格特性との関連	神戸大学	伊 藤 俊 樹
PC079	学校教育への研究的介入とその継続性についての分析 —交渉のフィールドとしての地震防災学習カリキュラム—	東京都市大学	中 村 雅 子
PC080	直接的な支援でない場面における感謝感情	学習院大学	伊 藤 忠 弘
PC081	大学生用トラブルチェックリスト開発の試み	静岡大学	橋 本 剛
PC082	学級の課題性と課題共有度が学級集団構造に及ぼす影響 —教師—児童関係にみる集団構造からの検討—	愛知教育大学	弓 削 洋 子
PC083	鉄道従業員向けアナウンス訓練の転移促進手法に関する実験的検討(2) —目標行動の実践率に着目して—	(公財) 鉄道総合技術研究所 (公財) 鉄道総合技術研究所	○山 内 香 奈 菊 地 史 倫#
PC084	小学生用拒絶感受性尺度の作成	中部大学	三 島 浩 路
PC085	学校における様々なリスク事象に対する認知 —社会人を対象としたWEB調査データからの検討—	福岡教育大学 福岡教育大学	○植 村 善太郎 河 内 祥 子#

PC086	規範逸脱行動の拡散過程モデルに対する妥当性検討 —「隣に座っている他者」を考慮する方法に着目して—	奈良教育大学	出 口 拓 彦
PC087	教師の競争に対する指導態度に関する研究（３）	中部大学	太 田 伸 幸
PC088	成人男性の性的欲求に関する研究（３） —男性用性的欲求認知尺度の妥当性・関連要因の検討—	四国大学	下 坂 剛
PC089	成人前期の女子大学卒業者の自尊感情に対する年齢・仕事・子どもの影響	東京家政大学大学院 東京家政大学大学院 東京家政大学大学院 東京家政大学大学院	○西 村 純 一 細 木 俊 明# 渡 辺 里 絵# 高 橋 佑 来#
PC090	防災教育に対する教師の認知 —防災教育の内容と教師の理解度—	関西大学	元 吉 忠 寛
PC091	S N S への態度と批判的思考態度および熟慮性との関係性	大阪音楽大学短期大学部 京都大学	○平 山 る み 楠 見 孝
PC092	被災地支援ボランティア体験の語りの継時的変化 —共有と個別化のプロセス—	文京学院大学	文 野 洋
PC093	子ども達の被災地での活動体験による意識の変化 2	北陸学院大学	岡 本 弘 子
PC094	教育実習前後の教育実習に対する心理の変化	津田塾大学 津田塾大学	○吉 村 麻奈美 高 垣 マユミ
PC095	もったいない情動喚起場面における児童の反応パターンの変遷	愛知教育大学	黒 川 雅 幸
PC096	体罰経験が自己肯定意識に及ぼす影響 —体験の捉え方に注目して—	九州共立大学	高 橋 佳 代
PC097	援助動機と援助行動の影響要因についての研究 —大学生を対象として—	聖泉大学	李 艶
PC098	大学生のグループ活動における Transactive Memory の変化に関する検討	三重大学	中 島 誠

ポスター発表D

11月8日(土) ポスター掲示時間 10:00~12:00
 在席責任時間 奇数番号10:00~11:00 偶数番号11:00~12:00

5階ラウンジ

社会

PD001	社会化エージェントの多層的影響に関する研究 (8) —親・友人・教師エージェントが中学生時の適応的・不適応的社会化指標に及ぼす個別的影響—	岐阜大学大学院 東海学院大学 名城大学 浜松医科大学 名古屋大学 岐阜聖徳学園大学	○吉澤寛之 吉田琢哉 原知佳 浅野良輔 玉井颯一 吉田俊和
PD002	社会化エージェントの多層的影響に関する研究 (9) —中学3年間における親・友人・教師エージェントが自己制御に及ぼす影響の変化—	名城大学 岐阜大学大学院 東海学院大学 浜松医科大学 名古屋大学 岐阜聖徳学園大学	○原田知佳 吉澤寛之 吉田琢哉 浅野良輔 玉井颯一 吉田俊和
PD003	社会化エージェントの多層的影響に関する研究 (10) —養育認知と居住地の移動が中学生の社会化に与える影響—	浜松医科大学 岐阜大学大学院 東海学院大学 名城大学 名古屋大学 岐阜聖徳学園大学	○浅野良輔 吉澤寛之 吉田琢哉 原知佳 玉井颯一 吉田俊和
PD004	社会化エージェントの多層的影響に関する研究 (11) —友人関係と教師のエージェント機能における交互作用的影響の検討—	名古屋大学 岐阜大学大学院 東海学院大学 名城大学 浜松医科大学 岐阜聖徳学園大学	○玉井颯一 吉澤寛之 吉田琢哉 原知佳 浅野良輔 吉田俊和
PD005	キャリア発達・教育に関する研究 (15) —大学生の進路選択における保護者の関わり—	東北公益文科大学 金沢大学 金沢大学	○国松眞理子 眼下美知子 苗田敏美
PD006	キャリア発達・教育に関する研究 (16) —進路決定における重要な他者およびその影響—	金沢大学 東北公益文科大学 金沢大学	○松田美知子 国眼眞理子 苗田敏美
PD007	キャリア発達・教育に関する研究 (17) —職業志望動機と専門性・コミュニケーションとの関係—	金沢大学 金沢大学 東北公益文科大学	○苗田敏美 松下美知子 国眼眞理子
PD008	国立教員養成系大学生の教師特有のピリーフに関する検討 —学生の志望学校種による差異に着目して—	早稲田大学 早稲田大学	○高野七良見 河村茂雄
PD009	生徒と教師の人間関係の親密度と生徒のいじめ介入の関係の研究	東京学芸大学	元 笑 予
PD010	サークル集団への態度が問題状況の認知に与える影響	筑波大学	高 田 治 樹
PD011	インターネットを介した出会いを求める心理的過程 —出会いに対する態度に着目して—	筑波大学 東京大学大学院・ 日本学術振興会 筑波大学	○藤西桂 村多 上久 達磨 也

PD012	感謝の社会的認知モデルにおける「状況要因」の検討	筑波大学大学院 筑波大学	○吉相	野川	優香	充
PD013	いじり・からかい・いじめの差異について（２） —行動的特徴に関する分析—	環太平洋大学 日本大学 東京大学大学院 ノースアジア大学	○吉望 澤海 瀧	澤月 崇	英正 文純	里哉#
PD014	大学生の就職活動に対する非機能的認知の探索的検討 —大学生の就職活動非機能的認知の尺度開発—	筑波大学大学院 埼玉学園大学	○原小	瑞玉	穂正	博#
PD015	中学生における社会的効力感 —尺度の信頼性・妥当性の検討—	大阪府立吹田支援学校 大阪教育大学	○井戸本 牧	陽子 郁		
PD016	やりたいこと探しの動機と期待価値、就業観の関連について —自己決定性に注目して—	法政大学	飯塚	亮輔		
PD017	友人からの言葉かけが自己効力感に及ぼす効果 —友人の親密度に着目して—	広島大学大学院 広島大学	○吉森	岡敏	真梨子 昭	
PD018	遊びが子どもの社会行動に与える影響 —プレイフルネスと衝動性コントロールに着目して—	甲南大学 甲南大学	○木大	下西	雅彩	博子
PD019	学問に対する課題価値が質問力とクリティカルシンキング志向性に与える影響	愛知淑徳大学大学院 愛知淑徳大学	○松小	本川	明日香 一美	
PD020	職場における関係性攻撃と社会的情報処理の関連	早稲田大学大学院 早稲田大学 早稲田大学大学院	○中鈴 巢	尾木 山	政伸 晴	子一# 菜#
PD021	働く女性の職場ストレスの構造とキャリア動機に関する研究	早稲田大学大学院 早稲田大学	○川向	上後	知千	子春
PD022	戴帽式における看護教育的意義	大阪信愛女学院短期大学 大阪信愛女学院短期大学 大阪信愛女学院短期大学	○藤石 徳	田井 珍	和加子 あゆみ 温子	
PD023	看護学生の戴帽式前後の気持ちの変化	大阪信愛女学院短期大学 大阪信愛女学院短期大学 大阪信愛女学院短期大学	○石藤 徳	井田 珍	あゆみ 和加子 温子	
PD024	児童・生徒におけるサポートと対人ストレス（３） —小学生を対象にした検討—	長崎大学 静岡大学 広島文化学園大学	○谷橋 田	口本 中	弘宏	一剛二
PD025	看護学生のコミュニケーション能力における自己評価と他者評価	長野県看護大学	松本	淳子		
PD026	仲間はづれによるネットいじめに関する考察 —噂情報の違いは人物評価や行動に影響を与えるのか—	山形大学	加納	寛子		
PD027	自己開示の効用とリスクに関する研究（２）	鹿児島大学	有倉	巳幸		
PD028	大学生が過去に出会った教師の好悪に関する研究 —特性形容詞尺度と自尊感情尺度の結果から—	東日本国際大学	伊尻	正一		
PD029	教育相談定着化に向けた担当者の影響方略と校長のリーダーシップに関する研究Ⅰ	就実短期大学 福岡教育大学 東亜大学	○鎌西 迫	田山 田	雅久 裕	史子

PD030	教育相談定着化に向けた担当者のミドルリーダーシップに関する検討	福岡教育大学 東亜大学 就実短期大学	○西迫鎌	山田雅	久裕史	子史
PD031	食スタイルに関する心理および行動パターン分析（1） —想起された共食と一人での食事場面の比較検討—	島根県立大学短期大学部	飯塚由美			
PD032	若年不就労者の就労意欲を抑制する要因 —自由記述データからの予備的検討—	山梨英和大学 山梨英和大学 山梨英和大学 山梨英和大学 山梨英和大学	○佐宮中清	柳崎山古水	信汐辰須美明	男莉則日子#
PD033	キャリア意識，社会的比較の方向と自己評価・行動との関連	東北学院大学 東北学院大学	○萩國	原井友希	俊彦	
PD034	大学生の社会的スキルと認知的統制がストレス反応に及ぼす影響	北海道医療大学 北海道医療大学大学院 北海道医療大学	○新西富	川塚家直	広拓海	樹明
PD035	大学生のチームワークに関するスキルを向上させるトレーニングの有効性（3） —スキルの持続性の検討—	常磐大学	太幡直也			
PD036	アサーションスキルの低さに関連する認知要因の検討 —アサーション権の認識不足に着目して—	北海道医療大学 早稲田大学 早稲田大学大学院	○荒本塚	井田原	穂菜恵子	美望

人格

PD037	青年期女子における「居場所」（安心できる人）の 評定 —抑うつに耐える力との関連—	奈良学園大学	岡村季光			
PD038	大学生の性格傾向や他者意識とバウムテストとの 関連	東京慈恵会医科大学	斉藤和恵			
PD039	児童生徒の生活不安に関する国際比較研究（1） —日本とデンマークの比較—	岩手大学	藤井義久			
PD040	聴覚障害者のS-HTPについての一考察	関西福祉科学大学	粟村昭子			
PD041	いじめ場面での対処行動についての検討 —共感喚起を媒介として—	早稲田大学	藤野京子			
PD042	親密な友人関係における性格の認知（4） —3種の評定の差からみる友人間の類似性—	甲南女子大学 大阪教育大学 大阪工業大学 京都ノートルダム女子大学	○西小酒向	岡松井山	美孝恵子	和至子代
PD043	教員養成課程学生における自律的な学習動機づけ 像の再検討 —課題価値と自己決定理論（有機的統合理論）の 関係から—	静岡大学	伊田勝憲			
PD044	賞賛獲得欲求および拒否回避欲求が過剰適応に及 ぼす影響	信州大学 広島大学大学院	○清水清	水健司	司代	
PD045	自己肯定感尺度の検討（3） —自己肯定感尺度ver.2の説明変数を探る—	埼玉学園大学	田中道弘			

PD046	DES-C日本語版の検討（２） —日常的解離尺度などとの関連—	高松大学	向 居 暁
PD047	青年の恋愛関係における嫉妬と自己愛の関連について	神戸大学大学院	神 野 雄
PD048	大学生における自己表現方略と性役割観との関連	四国大学	安 藤 有 美
PD049	５因子性格特性とプロアクティブ・コーピングの関連	東海学園大学 三重大学 名古屋市立大学	○谷 川 伊 織 島 一 晃 天 谷 祐 子
PD050	新入社員の自我同一性と職務満足感との関連	徳島大学大学院	原 田 新

特別支援

PD051	学習障害の高校生・大学生の教室におけるノート テイク支援の事例検討 —ノートテイク支援を契機とした自尊心の向上と クラスワイド支援への展開の可能性—	長崎大学	吉 田 ゆ り
PD052	インクルーシブ教育の視点を活かした特別支援教育 —特別支援学級在籍児童を対象とした包括的支援—	大阪府立吹田支援学校	藤 城 光 好
PD053	AD/HD児童とASD児童のかけ算習得時に見られる誤り —WISC-IVにおける認知熟達度指標（CPI）との 関連から—	神戸市青陽西養護学校	高 畑 英 樹
PD054	児童精神科クリニックと学校との連携の試み —発達障害の理解と対応を中心とした学校連携—	医療法人義朋会 なかなみメンタルクリニック	坂 本 恵 子
PD055	キャリア教育に対する知的障害特別支援学校小・ 中学部教員の意識調査に関する一考察 —子どもに必要な能力と教員の課題意識との関連 について—	和歌山県立 和歌山さくら支援学校	藤 澤 憲
PD057	インクルーシブ教育に対する知的障害を主とした 特別支援学校教師の意識調査 —SACIE質問紙とTEIP質問紙を用いて—	福島大学 福島大学	○高 橋 純 一 鶴 巻 正 子
PD058	イギリスにおける算数困難児への指導 —Wave3教材を中心に—	早稲田大学大学院	池 田 康 子
PD059	障がい児保育の経験と保育士が持つ保育環境に対 する意識の関係について —保育士の持つ負担感に対する支援のありかたを 考える—	武庫川女子大学附属保育園	実 本 牧 子
PD060	発達障害のある子どもの小学校通常学級での「す ごしやすさ」に担任教師・クラス雰囲気及ぼす 影響 —保護者への質問紙とインタビューから—	放送大学大学院	今 福 多香子
PD061	小中学校における気になる子への対応に関する実 態調査（２） —特別支援教育の負担感と実施状況の関連—	日本福祉大学 東海学園大学 岐阜聖徳学園大学	○田 倉 さやか 谷 伊 織 吉 橋 由 香

PD062	乳幼児支援システム先進地における特別な教育的ニーズのある子どもへの小学校移行支援に関する研究 ―「移行支援シート」の開発・活用を通して―	糸島市立怡土小学校 福岡教育大学大学院	○重 富 紀 子 納 富 恵 子
PD063	聴覚障害生徒における読書力と学びの力との関連 ―標準読書力診断テストにおける下位検査間の偏りに着目して―	北海道高等聾学校	桑 原 一 哲
PD064	教師の通常学級内の発達障害傾向の児童理解に関する研究	名古屋大学大学院 名古屋大学	○浦 田 有 香 永 田 雅 子
PD065	タブレットPCを用いた書字困難生徒に対する通常学級での特別支援教育	川口市立芝東中学校 早稲田大学	○高 木 友 子 佐々木 和 義
PD066	学び合う学習環境の調査（１） ―小学校中学年を対象とする尺度の検討―	名護市教育委員会 名護市教育委員会	○岸 本 琴 恵 村 瀬 公 胤
PD067	重度・重複障がい児における発信行動の分化を促す試み ―係り手の対応に視点を当てて―	福島県立郡山養護学校 宮城教育大学	○佐 藤 智 菅 井 裕 行
PD068	視覚障害等に関連する認知機能の障害に応じた行動支援の在り方 ―プランニング，同時処理，継時処理の観点での発達障害等を持つ児童生徒の支援―	岡山東支援学校	刀 瀬 豊

発達

PD069	自閉症傾向が認められる幼児の行動類型と社会的コンピテンスとの関連性の検討 ―養育者への質問紙調査にもとづいて―	県立広島大学	細 羽 竜 也
PD070	実験前後における「物の浮き沈み」説明の変化 ―材質の異なる物体の浮き沈みについて―	早稲田大学	阪 脇 孝 子

501

PD071	子ども期の社会性の発達に関する縦断研究プロジェクト（６） ―コンピテンスの発達に影響を及ぼす養育態度ときょうだい環境―	清泉女学院大学 甲南女子大学 金沢学院大学 和歌山大学 佐賀大学 神戸医療福祉大学 山梨大学	○眞榮城 和 美 梅 崎 高 行 前 川 浩 子 則 定 百合子 上 長 然 田 仲 由 佳 酒 井 厚
PD072	子ども期の社会性の発達に関する縦断研究プロジェクト（７） ―子どもはいかにして習い事に出会いコンピテンスを育むのか―	甲南女子大学 清泉女学院大学 金沢学院大学 和歌山大学 佐賀大学 神戸医療福祉大学 お茶の水女子大学大学院 山梨大学	○梅 崎 高 行 眞榮城 和 美 前 川 浩 子 則 定 百合子 上 長 然 田 仲 由 佳 酒 井 彩 子 [#] 酒 井 厚
PD073	子ども期の社会性の発達に関する縦断研究プロジェクト（８）教師の保護者・地域への信頼 ―連携を支えるアンカーポイント行動への積極性の観点から―	山梨大学 清泉女学院大学 甲南女子大学 金沢学院大学 和歌山大学 佐賀大学 神戸医療福祉大学	○酒 井 厚 眞榮城 和 美 梅 崎 高 行 前 川 浩 子 則 定 百合子 上 長 然 田 仲 由 佳

PD074	思春期の思考の発達が自己の発達パターンに与える影響 ー批判的思考態度と自尊心の関係を中心にー	北海道大学 常葉大学 静岡大学附属島田中学校 静岡大学附属浜松中学校	○加藤 弘通 太田 正義 松 下 真実子# 三 井 由 里#
PD075	児童の自己効力感と職業観形成の関連について	西原町立坂田小学校 沖縄大学	○玉那覇 瑞乃 松 尾 理 沙
PD076	児童間の葛藤状況での話し合いにおけるネガティブ感情を含む意見表明 ー5年生グループ及び2年生ペアのやりとりに着目してー	千葉大学 千葉大学教育学部附属小 千葉大学教育学部附属小	○岩田 美保 古 重 央# 鶴 島 規 晃#
PD077	児童期の友人関係における受容性に関する研究 ー友人グループの排他性・他者との関わり経験・性格特性との関連ー	東北大学大学院	松 本 恵 美
PD078	小学校への適応に向けて ー小学1年生の保護者の意識ー	東京成徳大学	富 山 尚 子
PD079	小学生・中学生の放課後の生活 ー放課後生活空間尺度を活用してー	川村学園女子大学 川村学園女子大学 東海学院大学 川村学園女子大学 川村学園女子大学	○蓮見 元子 北 原 靖子 川 嶋 健太郎 佐 藤 哲 康 生 駒 忍
PD080	小学生における他者軽視の発達の検討の試み	常葉大学 世田谷区立東深沢小	○吉田 哲也 矢 野 佳 奈#
PD081	小中一貫校・非一貫校における子どもの適応・発達(1) ー学校適応感・精神的健康に注目してー	和光大学 中央大学 高千穂大学	○高坂 康雅 都 筑 学 岡 田 有 司
PD082	小中一貫校・非一貫校における子どもの適応・発達(2) ーコンピテンスに着目してー	中央大学 高千穂大学 和光大学	○都筑 学 岡 田 有 司 高 坂 康 雅
PD083	小中一貫校・非一貫校における子どもの適応・発達(3) ー独立性・協調性に注目してー	高千穂大学 和光大学 中央大学	○岡田 有司 高 坂 康 雅 都 筑 学
PD084	小学生のいじめ場面における罪悪感と共感性の関連	宇都宮大学	石 川 隆 行
PD085	新設四年制大学における学生生活とキャリア発達およびメンタルヘルスとの関連(3)	福山市立大学 福山市立大学	○高澤 健司 播 磨 俊 子
PD086	新任・若手小学校教師を支える学校のあり方とは ー新任・若手教師と周囲のズレに着目してー	東京大学	曾 山 いづみ
PD087	親の職業による青年期の子どもの心理的経験の差異	筑波大学	佐 藤 有 耕
PD088	進路選択時の自己決定と女子大生の大学適応感、親子関係について	広島大学大学院 唐津市立大志小学校	○青木 多寿子 森 田 愛 望#
PD089	震災映像の視聴時間と母親の養育行動が児童のストレスに及ぼす影響	東洋学園大学	福 田 佳 織
PD090	数式表記と数操作の発達 (2) ー5, 6歳児における演算記号の理解ー	京都ノートルダム女子大学 京都女子大学	○山形 恭子 古 池 若 葉

PD091	子どもの嫌いな食物の克服への支援 —大学生の回想法による調査研究から—	文教大学 目黒区立田道保育園	○藤 原 正 光 番 場 梨 彩 #
PD092	子どもの発達に影響を及ぼす諸要因の検討 その1 —東アジアこども発達スケールを用いて—	首都大学東京 田中教育研究所 甲南女子大学 常葉大学 東京拘置所 田中教育研究所 田中教育研究所	○山 際 勇一郎 # 小 湊 真 衣 # 梅 崎 高 行 高 向 山 佐 藤 真理恵 # 青 柳 肇 # 中 村 淳 子
PD093	放射線下における幼稚園の戸外活動再開後の課題 (その2) —新入園児の園生活への適応から観る震災の影響—	岩手県立大学 群馬大学	○井 上 孝 之 音 山 若 穂
PD095	生涯発達におけるクオリティ・オブ・ライフと精神的健康 (1) —家庭の社会経済的状況と子どもの発達との関連—	お茶の水女子大学大学院 お茶の水女子大学	○菅 原 ますみ 松 本 聡 子 #
PD096	生涯発達におけるクオリティ・オブ・ライフと精神的健康 (6) —保育の質を測定する—	東京福祉大学 お茶の水女子大学大学院 お茶の水女子大学	○川 島 亜紀子 菅 原 ますみ 松 本 聡 子 #
PD097	青年期における過去の親子関係と恋愛依存との関連性 —共分散構造分析から—	帝京大学 発達カウンセリングポップ ショップ	○新 谷 和 代 那須田 祐 未 #
PD098	大学生の生と死に対する態度とゲーム体験の関連	武庫川女子大学 湘南美容外科クリニック	○小花和ライト 尚子 中 谷 有 里 #

人格

PD099	顕在・潜在的内的作業モデルが対人ストレス・コーピングに及ぼす影響 —潜在連合テスト (Implicit Association Test) を用いた検討—	甲南大学大学院 甲南大学	○大 浦 真 一 福 井 義 一
-------	--	-----------------	---------------------

ポスター発表E

11月8日(土) ポスター掲示時間 13:30~15:30
在席責任時間 奇数番号13:30~14:30 偶数番号14:30~15:30

学校心理学

5階ラウンジ

PE001	チーム援助の実践が学校全体の適応援助体制に及ぼす効果の検討	宗像市立河東小学校 福岡教育大学	○井内昭子 西山久子
PE002	韓国人大学生における暗黙の知能観と達成目標志向性 —試験成績との関連も含めて—	Sungshin Women's University	藤井勉
PE003	児童のいざこざにおける教員の介入解決方略について	広島市立比治山小学校	山崎彩加
PE004	児童を対象とした社会的能力の向上と学習への取組促進の効果 —SEL-8Sプログラムを活用して—	福岡市立那珂小学校 福岡教育大学	○香川尚代 小泉令三
PE005	大学生による教養教育の理解	帝京科学大学	樽木靖夫
PE006	クラス会議が学級のルールとリレーションの確立に与える影響について	倉敷市立倉敷東小学校	伊住継行
PE007	医療系大学生における教員からの注意指導に対する感情的・認知的・行動的反応	茨城県立医療大学 茨城県立医療大学 茨城県立医療大学	○佐藤純 福井龍太# 中村勇#
PE008	過剰適応傾向と不登校傾向との関連 —顕在・潜在意識に着目して—	旭川圭泉会病院 北星学園大学	○野谷祐佳 西山薫
PE009	海外研修旅行が国際理解の向上に及ぼす影響(1) —高校における実践—	筑波大学 筑波大学 筑波大学 筑波大学 筑波大学附属高等学校 筑波大学附属学校教育局 筑波大学	○飯田順子 石隈利紀 甲斐雄一郎# 松本末男# 筑波大学附属高等学校 筑波大学附属学校教育局 筑波大学 鈴木公昭# 藤原健志
PE010	学級集団及び仲間集団アイデンティティが学級内の向社会的行動に与える影響	上越教育大学	堀井和朗
PE011	学校統廃合による心理的影響からの回復過程に関する研究 —レジリエンスと学校享受感・ストレス反応との関連から—	青森市立横内小学校	田中文夫
PE012	感謝の教わり方 —大学生を対象とした回顧法による検討—	就実短期大学	蔵永瞳
PE013	教育実習を充実させるための実習生の心理的基盤 —居場所感を規定する場所・時間・人間関係の探索的な検討—	敬和学園大学	益谷真
PE014	教員・保育者をめざす大学生に他者との関わりを促進する試み —グループワークトレーニング(GWT)を活用した実践—	桜花学園大学 桜花学園大学	○河内晴美 小嶋玲子

PE015	教師から見た児童生徒の適応を損なう人間関係の実際	上越教育大学 岡山大学	○越 良 子 安 藤 美華代
PE016	教師は実践からいかにして学ぶのか —自他の実践の省察が授業の変革に結びつく過程—	福井大学大学院	岸 野 麻 衣
PE017	教室内での関係性を考慮に入れたいじめ問題の検討 —いじめ問題と傍観者およびスクールカーストとの関連—	福井大学	岸 俊 行
PE018	教職員が経験した児童生徒の心の健康問題について	山梨大学 神奈川大学	○伊 藤 美 佳 杉 山 崇 #
PE019	教職科目での施設見学で変化した障害イメージの検討 —S D法による要素の検討と学生の易変性について—	学泉舎	今 野 博 信
PE020	保育士養成機関における模擬ケース会議の可能性 —IPE (多職種連携教育) の構築にむけて—	兵庫教育大学連合大学院 大阪教育大学	○荊 木 まき子 森 田 英 嗣
PE021	継続的巡回相談を通した学童保育指導員への支援	香蘭女子短期大学	遠 矢 幸 子
PE022	小学生の友人に対する被援助志向性と学校適応の関連 —ソーシャルスキル, スクールモラル, 被援助志向性に焦点をあてて—	大阪教育大学 大阪教育大学	○水 野 治 久 戸 田 有 一

教授・学習・認知

PE023	ダイナミック・アセスメントを導入した教授方略が言語による科学的概念の獲得に及ぼす効果	津田塾大学 國學院大學 京都教育大学 名古屋大学大学院 京都教育大学	○高 垣 マユミ 寺 本 貴 啓 田 爪 宏 二 中 谷 素 之 伊 藤 崇 達
PE024	やる気がない他者に課題を取り組ませる方略の分類	中村学園大学	野 上 俊 一
PE025	児童の積極的授業参加に関する研究 (20) —公的・私的自己意識との関連—	日本福祉大学 明星大学 岐阜聖徳学園大学	○小 平 英 志 布 施 光 代 安 藤 史 高
PE026	児童の積極的授業参加に関する研究 (21) —ソーシャル・サポートとの関連—	岐阜聖徳学園大学 明星大学 日本福祉大学	○安 藤 史 高 布 施 光 代 小 平 英 志
PE027	中学生の規範意識向上をめざした映像教材の効果の検証 —映像教材作成に生徒会活動を関連させた取組を通して—	遠賀町立遠賀南中学校 福岡教育大学	○奥 村 龍 也 高 松 勝 也
PE028	メタ認知的活動の活性化を促す授業実践の試み	宝塚市立西山小学校	岩 崎 純 子
PE029	教員の自己形成を支援する熟達化モデルの開発 (4)	大手前大学	石 上 浩 美
PE030	教職課程における学生主体の授業の実践と評価	東洋大学大学院	攪 上 哲 夫

PE031	大学教職課程の授業における被教育経験の省察 —ワークシートと授業記録による質的事例分析—	星城大学 星城大学	○坂 本 篤 史 深 谷 孟 延 #
PE032	高機能自閉症の理解を支援する教材の開発と評価	富山大学	小 川 亮
PE033	高校出前授業による批判的思考イメージの変化 —批判的思考態度と探究学習スキルに及ぼす影響—	京都大学	楠 見 孝
PE034	高校生・大学生はテストの目的をどのように認識しているか	早稲田大学	大 道 一 弘
PE035	作文と目標設定を取り入れた障がい理解教育の成果に関わる実証的研究（１） —児童が書いた作文内容の分析に基づく検討—	立川市立第六小学校 東京学芸大学	○金 谷 行 恵 梶 井 芳 明
PE036	算数のバグを初めて知る大学生の反応 —学習のとらえ直し—	桐朋学園大学	鈴 木 敦 子
PE037	算数グループ学習における相互教授法の介入効果（４） —学習場面における援助提供行動の促進効果—	大田区立東調布第一小学校 名古屋大学大学院	○町 中 谷 岳 中 谷 素 之
PE038	算数学力評価ルーブリックの妥当性検討の試み —面積学習領域を例として—	石巻専修大学 東北大学大学院	○佐 藤 誠 子 柴 山 直
PE039	算数文章題における二量の関係への意識が立式の誤りへの気づきに及ぼす影響 —小４児童へのインタビューから—	聖徳大学 聖徳大学大学院	○東 原 文 子 櫻 井 憲 子
PE040	算数問題解決におけるメタ認知方略の評価（２）	神戸親和女子大学	多 鹿 秀 継
PE041	数学授業での協同過程における個人の数学的な説明構築が高校生の数列についての理解に及ぼす効果	東京大学	小田切 歩
PE042	子どもの論理を反映した教授介入 —割合の認知的障害に及ぼす効果—	愛知教育大学 立命館大学 名古屋大学大学院	○栗 山 和 広 吉 田 甫 中 島 淑 子
PE043	指揮者による学生オーケストラ指導プロセスの質的検討 —指導内容と練習時期の関連から—	筑波大学大学院	新 原 将 義
PE044	試験でヤマが当たるのは運が良いからなのか？ （その３）	学習院大学 聖学院大学 学習院大学 学習院大学大学院 学習院大学	○竹 綱 誠一郎 鎌 原 雅 彦 山 本 政 人 小 菅 清 香 鈴 木 遼 子
PE045	実用的価値認知への介入が授業に対する興味に及ぼす影響	名古屋大学大学院 名古屋大学 名古屋大学 名古屋大学大学院	○中 谷 素 之 梅 本 貴 豊 解 良 優 基 中 西 満 悠
PE046	実用的利用価値の教授が学習者の動機づけ・パフォーマンスに及ぼす影響	名古屋大学 名古屋大学大学院	○解 良 優 基 中 谷 素 之
PE047	情動制御の個人差と偶発記憶における分散効果の関係	奈良教育大学	豊 田 弘 司
PE048	情動知能の個人差と無意図的に想起される自伝的記憶との関連性	大阪産業大学	山 本 晃 輔

PE049	情動的標識化による読み手の理解促進に関する検討 —医療場面における注意喚起文章の効果とは—	小樽商科大学	辻	義人
発達				
PE050	初任保育者が行う保護者支援の実態に関する検討	岡山大学大学院	片山	美香
PE051	幼児の粘土作品と創造性との関連について	園田学園女子大学短期大学部 関西学院大学	○中桂	見仁美 田恵美子
PE052	幼児は水平の障害物をいかに回避するか —「またぐ・くぐる」の選択に及ぼす環境要因の検討—	茨城キリスト教大学 茨城キリスト教大学	○江天	尻桂子 野秀哉#
PE053	「気になる」子どもの運動発達と有能感に関する研究3 —自己評価と有能感の関連に着目して—	東北大学 東北大学大学院 東北大学大学院 東北大学 東北大学 宮城県サッカー協会 宮城県サッカー協会	○本進 郷藤 一将 敏美 正美 守藍# 大渕 田藍# 武井 貞井# 確百 確合#	
PE054	1-2歳児における語彙カテゴリ構成の発達的変遷 —大規模横断データを用いた検討—	日本電信電話株式会社 日本電信電話株式会社	○小南	林哲生 泰浩#
PE055	4～6歳児のスク립ト知識の発達過程 —ナラティブ発達評価指標作成に向けての基礎研究—	帝京平成大学 白百合女子大学	○瀬戸 秦野	淳子 悦子
PE056	大学における発達支援の必要性和その方法の検討(7) —大学生は自身の置かれている現状をどのように捉えているか—	人間総合科学大学 武蔵野大学	○村山	上崎 香浩 奈一#
PE057	大学生の健康な食生活を送る動機づけとソーシャル・サポートとの関連	神戸大学 山口大学	○加西	藤佳子 敦子
PE058	大学生の健康な食生活を送る動機づけと首尾一貫感覚(SOC)との関連	山口大学 神戸大学	○西加	敦佳子 藤佳子
PE059	大学生と社会人の職場適応基礎力自己評価	広島文教女子大学	新見	直子
PE060	大学生における就職活動維持過程尺度作成の試み(2) —就職活動経験者の2時点からの回顧による妥当性の検討—	筑波大学大学院 茨城県立医療大学 筑波大学	○輕部 佐藤 杉江	雄輝 純征
PE061	大学生の次世代育成に関する意識と時間的展望の関連	日本橋学館大学 日本橋学館大学	○寺柴	本妙子 原宜幸
PE062	青年期のかわいそう感と共感性 —「かわいそう」はよくないのか—	石川県立保育専門学園	加藤	礼子
PE063	葛藤抑制の発達とその機能 —“思いやりの嘘”に着目して—	鹿児島大学	島	義弘
PE064	仲間志向性尺度の開発および因子構造の検討 —仲間助言希求・過剰仲間志向の観点を取り入れた尺度の開発—	関東学院大学 関東学院大学	○鈴鈴	木公基 木みゆき

PE065	動物との暮らしがヒトに与える教育的効果 [1] —保育者の視点から捉える園内飼育動物とのかかわりを通した幼児の発達—	ヤマザキ学園大学 (株) ブライトケア	○西村信子 栗田薫平
PE066	入学当初の大学生活への期待感 —面接法による大学新入生の4年間の調査研究—	日本福祉大学	胡琴菊
PE067	菱形および五角形の一筆描き課題における描線動作の発達 —日本の幼児・児童を対象とした分析—	獨協大学	田口雅徳
PE068	過去に生じた母親罪障感と母親の子育て意識および子どものQOL —第6回及び第7回「愛知の子ども縦断調査」より—	島根大学 元愛知県立大学	○石野陽子 神田直子
PE069	対人援助職における共感性 (7) —保育者養成課程卒業時WEB調査における自己評価と理想像—	宮城学院女子大学 福岡女子大学 共栄大学	○木野和代 鈴木有美 内田千春
PE070	父親の抑うつと未就学期の子どもの社会情緒的問題傾向 —家族システムを媒介因として—	お茶の水女子大学大学院	岐部智恵子

501

PE071	探求力・活用力と授業での経験との関連についての検討	お茶の水女子大学 お茶の水女子大学大学院	○松浦素子 菅原ますみ
PE072	被援助志向性による育児中の母親への支援の検討 —幼児をもつ母親を対象にして—	神戸大学大学院 神戸大学	○状家莉保 鳥居深雪
PE073	仲間の中で育つ向社会性 —幼児の向社会的判断における他者の役割とは—	宮城教育大学	伊藤順子

臨床

PE074	非行少年及び大学生の喜び・悲しみ・怒り感情の抑制の比較 —表示規則に着目して—	学習院大学大学院 神戸家庭裁判所	○平井花一 新堂研
PE075	E-S理論からみた大学生の愛着スタイルとその関連要因 (1) —E-S5類型による愛着スタイルと共感性の差異—	順天堂大学 順天堂大学 順天堂大学	○田中純夫 佐渡幹也 西田敬志
PE076	E-S理論からみた大学生の愛着スタイルとその関連要因 (2) —ストレッサーの差異に着目して—	順天堂大学 順天堂大学	○西田敬志 田中純夫
PE077	I P V加害行為の認識と自尊感情及び共感性との関係 —中・高生を対象として—	琉球大学	田中寛二
PE078	ウェブサイト上における学生相談機関の情報発信に関する研究 —日本・アメリカ・イギリス・台湾の比較研究 (その2) —	明治大学	伊藤直樹
PE079	コスタリカにおける「人生紙芝居」の実践可能性 —ストリートチルドレンの事例から—	九州ルーテル学院大学	糟谷知香江

PE080	コンパッションに基づく学級集団SSTの効果の検討 —コンパッションが学級満足度、社会的スキルに及ぼす影響—	関西大学大学院 琉球大学 琉球大学 関西大学	○仲 嶺 実甫子 甲 田 宗 良# 伊 藤 義 徳 佐 藤 寛
PE081	不登校経験のある高校生の学校適応とパフォーマンス活動の関連について —通信制K高校の実践から—	甲南女子大学大学院 埼玉純真短期大学 奈良女子大学	○大 橋 節 子 金 子 恵美子 伊 藤 美奈子
PE082	パフォーマンス活動が高校生の学校生活への適応に及ぼす影響 —通信制K高校の実践から—	埼玉純真短期大学 甲南女子大学大学院 奈良女子大学	○金 子 恵美子 大 橋 節 子 伊 藤 美奈子
PE083	ひきこもり支援プログラムの開発とその効果 —プログラムに対する大学生の自由記述からの分析—	埼玉県立大学 聖徳大学	○飛 高 和 浩 鈴 木 由 美
PE084	学生のポジティブな自己評価が授業理解度に与える影響 —高等教育におけるWOWWプログラムの効果—	金沢工業大学	石 丸 雅 貴
PE085	気になる子どもの保護者支援を難しくする要因 —巡回相談での保育者支援及び保護者支援を通して—	浦和大学	藤 井 和 枝
PE086	気遣いと対人ストレスおよび友人関係満足感との関連 —友人関係の親密度に注目して—	昭和女子大学 昭和女子大学大学院	○満 野 史 子 今 城 周 造
PE087	教師の要因によってソーシャルスキル・トレーニングの効果に違いが出るのか？（2） —SST後の教師の関わりが生徒のソーシャルスキルの変容に与える影響—	静岡大学 法政大学	○小 林 朋 子 渡 辺 弥 生
PE088	高校生のLINE使用と、いじめ、友人関係、心理面との関連 —仲がよい3人の友人とのコミュニケーションに着目して—	鹿児島純心女子大学	若 本 純 子
PE089	高校生の睡眠に関する研究 —スリープマネジメントの視点から—	学校法人嶺南学園 敦賀気比高等学校	坂 本 理 香
PE090	「クロスロード 教育相談編」開発の試み —教育相談における教師の葛藤の分析—	佐賀大学	網 谷 綾 香
PE091	思春期の物質使用、抑うつ、パーソナリティ特性との関連 —相関因子モデルによる行動遺伝学的検討—	千葉大学 慶應義塾大学 東京大学大学院	○田 中 麻 未 藤 澤 啓 子 出 野 美那子#
PE092	5歳児運動健診における地域援助ネットワークの意義 —地域における行政機関の橋渡しとしての役割—	日本体育大学 育英短期大学 日本大学文理学部 心理臨床センター 日本体育大学 群馬大学大学院	○宇 部 弘 子 星 野 真由美# 加 藤 弘 美# 三 宅 良 輔# 藤 平 和 吉#
PE093	児童自立支援施設収容児童の加害性への対応	東京女子大学	田 中 健 夫
PE094	自傷行為に関する認識とその対応に伴う感情 —教員への質問紙調査から—	東京大学大学院	坂 口 由 佳

PE095 「大切な物」の意味と働き

筑波大学 ○庄 司 一 子
Acer Incorporated 簡 井 凌 祐#
筑波大学大学院 新 山 田 雅
筑波大学大学院 山 田 有 芸
筑波大学大学院 江 角 周 子
関東学園大学 崔 玉 芬

PE096 本物のカウンセリングはもっと派手で気楽で献身的？
—福祉系大学生における「カウンセリング」のイメージ調査—

川村学園女子大学 生 駒 忍

学校心理学

PE097 中学校への進学時不適應の予防に必要な能力(1)
—学校不適應に着目して—

金沢大学 ○原 田 克 己
甲南大学 大 西 彩 子
福岡教育大学 中 島 義 実

PE098 中学校への進学時不適應の予防に必要な能力(2)
—友人不適應に着目して—

甲南大学 ○大 西 彩 子
福岡教育大学 中 島 義 実
金沢大学 原 田 克 己

PE099 中学校への進学時不適應の予防に必要な能力(3)
—尺度項目の検討—

福岡教育大学 ○中 島 義 実
金沢大学 原 田 克 己
甲南大学 大 西 彩 子

ポスター発表F

11月8日(土) ポスター掲示時間 16:00~18:00
在席責任時間 奇数番号16:00~17:00 偶数番号17:00~18:00

教授・学習・認知

5階ラウンジ

PF001	「やる気」はどのような行動から評価されるのか —少年サッカーを題材にした他者評定の比較検討—	いわき明星大学	名 取 洋 典
PF002	「違和感の喚起」が割合の加法操作の修正に及ぼす影響	仙台白百合女子大学	蛭 名 正 司
PF003	「良い参考書」という評判は学習者にどのような影響を及ぼすか	北海道教育大学	宮 崎 拓 弥
PF004	5歳児による絵本の内容理解と下位技能の体制化 —類推と誤信念理解の寄与—	聖霊女子短期大学	光 田 基 郎
PF005	チャレンジスクールにおける学力向上戦略の検証 (2) —達成感・自己効力感・自発学習意欲を高め学力は伸びたか—	東京都立椏ヶ丘高等学校	山 崎 茂 雄
PF006	テキスト理解時の思考過程 —文章の面白さとマインドワンダリングの生起の関係—	理化学研究所 川村学園女子大学	○井 関 龍 太 川 崎 恵 里 子
PF007	ピアプレッシャーによってル・バーへの確信度を意図的に高める操作が概念学習に及ぼす効果	東北生活文化大学	植 松 公 威
PF008	メダカを用いた実験室外オペラント条件づけ教材開発の試み	北海道教育大学函館校	林 美都子
PF009	メタ認知的な意識づけによる批判的思考への効果 —文献講読演習の場合—	北海道教育大学 北海道教育大学 北海学園大学 北海道教育大学	○懸 田 孝 一 宮 崎 拓 弥 浅 村 亮 彦 吉 野 巖 蔵
PF010	リーディング・リテラシーと読書態度との関係	東北大学 石巻専修大学 東北大学	○中 野 友香子 佐 藤 誠 子 深 谷 優 子
PF011	異種の量への変換を促す教示が力のモデル図理解に及ぼす効果	東北大学大学院	宮 田 佳緒里
PF012	学習事例の提示順序が素朴概念の修正に及ぼす効果 —属性間の関数関係を扱う科学的概念(浮力, 大気圧)の場合—	北海道教育大学 北海道教育大学	○吉 野 巖 蔵 大佐賀 諒 #
PF013	教員養成課程における大学学習法履修者の教師イメージ	新潟大学 新潟大学 新潟大学	○小 堀 彩 子 一 柳 智 紀 杉 澤 武 俊
PF014	繰り下がりのない一桁ひき算における反応時間のサイズ効果	北海学園大学	後 藤 聡
PF015	検索経験の有効性を学習者は認識しているのか —学習判断の観点から—	東北大学大学院 東北大学	○齋 藤 玲 邑 本 俊 亮

PF016	児童および成人による善悪判断における特性と意図の効果	京都大学 京都大学 京都大学大学院 電気通信大学 京都大学 京都大学 福井大学	○米田英嗣 小山内秀和 柳岡開地 猪原敬介 子安増生 楠見孝隆 小坂浩#
PF017	児童のほめられるまでの文脈のとらえ方 —課題の好みとほめられる頻度が異なる場合—	藤女子大学	青木直子
PF018	児童の絵に対する言葉掛けの研究Ⅰ —教員養成系大学の学生に対する質問紙調査の分析を基にして—	東京学芸大学大学院 埼玉大学	○八桁健子 萩生田伸
PF019	児童一人一人に居心地のよさを感じさせる学級経営支援の実践的研究 —コンサルテーションとSSTの導入を通して—	福岡教育大学大学院 福岡教育大学	○江頭雄一郎 高松勝也
PF020	自閉症スペクトラム傾向と傷つきやすさ及びレジリエンスの関係	早稲田大学 早稲田大学	○土田弥生 佐々木和義
PF021	自閉症への働きかけ —折り紙の分解・統合を中継ぎにした関係づけ操作の促進—	大妻女子大学	向井敦子
PF022	質問方略の使用を促す授業実践の効果 —自発的に問いを立て学ぶ学習者の育成—	千葉大学	小山義徳
PF023	自己決定理論に基づく学習動機づけと学業成績との関連(1) —クロスラグモデルによる検討—	国立情報学研究所 東京大学大学院・ 日本学術振興会 国立情報学研究所	○鈴木雅之 西村多久磨 孫媛
PF024	自己決定理論に基づく学習動機づけと学業成績との関連(2) —潜在曲線モデルによる検討—	東京大学大学院・ 日本学術振興会 国立情報学研究所 国立情報学研究所	○西村多久磨 鈴木雅之 孫媛
PF025	実践的批判的思考態度尺度作成の試み	東亜大学 大阪産業大学	○鍋田智広 山本晃輔
PF026	社会的プレッシャーが日中大学生の学習方略に与える影響	新潟大学	周子康
PF027	手順構成学習における連続・複合条件	大同大学	浅井淳
PF028	種子植物の特徴に関する誤概念の修正教授法の効果の検証 —先行オーガナイザー教授法との比較による検討—	法政大学大学院	鈴木洋介
PF029	授業に参加する児童の身体リズム —「ビジネス顕微鏡」を用いた授業研究の試み(1) —	北海道大学	伊藤崇
PF030	授業形式の違いによる学生の参加と授業評価 —埋め込み型スライド授業に焦点を当てて—	立正大学	永井智
PF031	習熟度の低い学習者の内発的動機づけと学習への取り組みを高める研究	広島国際大学	田中博晃

PF032	集団内での相互作用が集団への態度・課題達成に及ぼす影響	学習院大学	小 方 涼 子
PF033	書かれた論争の理解 —大学生に見られる複数テキスト読解の問題—	静岡大学	小 林 敬 一
PF034	小学校での集団宿泊の行事における個人的能力と社会的能力の変容について	東京学芸大学 世田谷区立塚戸小学校	○梶 井 芳 明 仕 道 祐 紀 #
PF035	小学校高学年における「得意なこと」と学力	聖徳大学 聖徳大学	○相 良 順 子 宮 本 友 弘
PF036	小学校高学年における学習方略と知能及び動機づけの関連	聖徳大学 聖徳大学	○宮 本 友 弘 相 良 順 子
PF037	小学校高学年における児童向け科学教育プログラムGEMSを用いた科学的な思考力の育成に関する実践研究	公益社団法人 日本環境教育フォーラム	鴨 川 光
PF038	小学校算数における乗法の導入問題に関する研究	武蔵野大学	上 岡 学
PF039	状況説明文の記述における影響要因の検討 —読み手意識の観点から—	東京学芸大学大学院 東京学芸大学	○古 屋 由貴子 岸 学
PF040	状況的興味の維持に影響する要因の検討 —小学生の課外活動の文脈において—	筑波大学大学院 筑波大学大学院 NPO法人 幼児教育従事者研究開発機構 筑波大学	○湯 有 立 富 公 教 奥 園 淳 子 # 外 山 美 樹
PF041	植物栽培や昆虫飼育による中学生の意識変容についての一考察 —ミニトマト・ペチュニア栽培とモンシロチョウ飼育を通して—	神戸市立大原中学校	関 谷 善 行
PF042	心理系グループワークと食育を用いたグループワークの教育効果と可能性 —対人関係能力を高める授業を行うには—	金沢大学 金沢大学	○足 立 由 美 吉 川 弘 明
PF043	森・川・海と人とのつながりを重視した魚食普及プログラム開発における地域協働取組の意義と課題	東京海洋大学	佐々木 剛
PF044	親と進路に関する自伝的記憶を想起したときの感情変化について	中央大学	兵 藤 宗 吉
PF045	生活的概念から科学的概念へ：「のだ」の概念発達 —国語科授業を通して—	中国学園大学大学院	千 種 彰 典
PF046	説明文産出における振り返りの効果III —自己・他者評価における気づきが説明文産出に及ぼす影響—	法政大学 群馬大学	○藤 田 哲 也 深 谷 達 史
PF047	高校における教えあい講座の実践（3） —教えあいの質における効果—	群馬大学 東京大学 東京大学	○深 谷 達 史 植 阪 友 理 和 田 果 樹
PF048	高校における教えあい講座の実践（4） —教えあいのタイプとその変化—	東京大学 東京大学 群馬大学	○植 阪 友 理 和 田 果 樹 深 谷 達 史

PF049	青年群、中年群、高齢者群の生涯発達過程における発達特性の認知	金城大学	奥 田 裕 紀
PF050	説明者による聞き手の理解の推測は正確か？	東京学芸大学	関 口 貴 裕
PF051	想起を通じた集団の維持過程に関する研究（１） —変化のマネジメントとしての『成員の変化の隠蔽』—	青山学院大学	阿 部 廣 二
PF052	挿絵の効果：小学3-6年生の減法の理解	関西学院大学	金 田 茂 裕
PF053	挿絵を含む教材の読解初期の動機づけ向上プロセス —視線計測による検討—	信州大学	島 田 英 昭
PF054	即興演劇の自己表現活動としての可能性 —応用演劇(Applied Theater)実践からの考察—	立教大学 The City University of New York	○石 黒 広 昭 石 川 純 子 #
PF055	総合評価ツールを用いた中高生の学習の縦断的検討（１） —自律的動機づけと動機づけ方略の相互関係—	京都大学 株式会社 ワオ・コーポレーション 京都大学 京都大学 京都大学	○後 藤 崇 志 川 口 秀 樹 市 村 賢士郎 楠 見 孝 生
PF056	総合評価ツールを用いた中高生の学習の縦断的検討（２） —テスト成績に及ぼす学習方略と学習志向性の影響—	株式会社 ワオ・コーポレーション 京都大学 京都大学 京都大学 京都大学	○川 口 秀 樹 後 藤 崇 志 市 村 賢士郎 楠 見 孝 生
PF057	他者との協同と思考の言語化が洞察問題解決に及ぼす影響	群馬大学 奈良市立平城小学校	○佐 藤 浩 一 大 川 愛 #
PF058	他者との相互作用を通じた質問態度の向上（４）	琉球大学	道 田 泰 司
PF059	多様な考え方の比較検討方法の違いが課題解決に及ぼす影響（１） —児童による外れ値があるときの判断—	東京大学	鈴 木 豪
PF060	体験的な学びによる学生の変化 —peace poem projectを通じて—	目白大学	渡 邊 はるか
PF061	対象とのかかわりを深める思考のモデル化 —生活科ハムスター発見カードの質的分析による認知の分類を通して—	横浜国立大岡小学校 和歌山大学	○前 園 兼 作 米 澤 好 史
PF062	大学における導入教育を学生はどう見ているのか（１）	東京電機大学	黒 沢 学
PF064	大学教育の研究意欲に影響を及ぼす要因（Ⅰ） —地方小規模私立大学における調査を対象として—	尚絅学院大学 尚絅学院大学 尚絅学院大学 尚絅学院大学	○小 泉 嘉 子 川 端 壮 康 # 桂 重 樹 # 田 村 嘉 勝 #
PF065	大学進学動機別工科系大学新入生の入学から3ヵ月後の比較について —学業状態・友人関係・満足感および適応感の比較—	東京電機大学 目白大学	○石 田 拓 矢 庄 司 正 実 #

PF066	大学生における講義内容に関する問題発見の独創性(希少性)の変化 —客観的指標に基づく変化の分析—	九州大学	向井隆久
PF067	大学生における動機づけ調整プロフィールとエンゲージメントの関連	名古屋大学 京都教育大学 名古屋大学・日本学術振興会	○梅本貴豊 伊藤崇達 田中健史朗#
PF068	中学生の自己調整学習力を育てる教育プログラムの開発 —記憶の精緻化方略と教訓帰納方略の自発的利用の促進—	日本女子大学 会津美里町立新鶴中学校	○瀬尾美紀子 石崎毅

測定・評価・研究法

PF069	指尖脈波は心の指標となりうるか —生体信号のカオス探究—	山梨大学	岡林春雄
PF070	局所依存データに対するテスト情報量の推定	国立情報学研究所	登藤直弥

501

PF071	多面的学校不適応予防チェックリストの作成の試み(1)	広島大学大学院 広島大学大学院 広島大学	○森村惠梨菜 栗原慎二
PF072	多面的学校不適応予防チェックリストの作成の試み(2)	広島大学大学院 広島大学大学院 広島大学	○中村孝 森原惠梨菜 栗原慎二
PF073	マルチメディア絵本の作成について	長岡技術科学大学 東京未来大学 山陽学園短期大学	○伴浩美 阿部亜弥華# 皆川順
PF074	心理学のレポート作成において学生は何を重視するのか	上智大学 上智大学	○伊藤慎悟 廣瀬英子
PF075	項目間に依存性があるときのニューラルテスト理論の適用可能性について	名古屋大学	安井彩乃
PF076	地域在住高齢者の達成動機が与える作業参加の状況や健康関連QOLへの影響の検討	吉備国際大学	佐野伸之
PF077	中学生・高校生の自己評価のあり方とキャリア意識との関連 —特別支援教育からのアプローチ—	川崎市立御幸中学校	佐々木貴美
PF078	個人内共変と個人間相関の乖離を規定する要因 —回帰係数に焦点をあてて—	東京大学大学院	北原瑞穂
PF079	精神科職員に対する効果的な研修プログラム作成の試み(1) —プログラム評価研究を援用した研修項目の策定—	久喜すずのき病院 久喜すずのき病院	○和田剛宗 濱口絵倫子
PF080	精神科職員に対する効果的な研修プログラム作成の試み(2) —2013年度に実施した講義と受講者満足度について—	久喜すずのき病院 久喜すずのき病院	○濱口絵倫子 和田剛宗
PF081	カリキュラムに基づいたテストの計量的分析の試み	東北大学大学院 東北大学大学院	○坂本佑太朗 柴山直

PF082	ループリックとIRT尺度値との関係 —理科の電力に関するパフォーマンス課題を例に—	東北大学大学院 東北大学大学院	○千 葉 陽 子 柴 山 直
PF083	日本版新個人的神話尺度の作成と信頼性・妥当性の検討	龍谷大学大学院	室 屋 賢 士
PF084	大学生のコミュニケーションに向けた動機づけ	北海道情報大学	蔵 本 信比古

発達

PF085	小学生における対人的感謝の研究（6） —抑うつに対する保護要因としての感謝感情に注目して—	筑波大学 筑波大学 筑波大学 筑波大学	○藤 原 健 志 村 上 達 也 濱 口 佳 和 櫻 井 茂 男
PF086	小学生における対人的感謝の研究（7） —対人的感謝の1年間の変化—	筑波大学 筑波大学 筑波大学 筑波大学	○村 上 達 也 藤 原 健 志 濱 口 佳 和 櫻 井 茂 男
PF087	児童の学校不適応感とself-control・情緒性との関連性	北星学園大学 しらかば台小学校	○柴 田 利 男 久保井 健 #
PF088	高校生のキャリア教育に必要とされるソーシャルスキルのニーズ調査	明星大学通信制大学院 法政大学大学院	○鈴 木 和 也 星 雄一郎
PF089	大学生による他者の心の理解 —人・ロボットを主人公とした物語形式の課題によって—	尚絅大学	小 沢 日美子
PF090	学生は「将来について考えること」をどう評価しているのか —「将来について考えること」の認知的評価尺度の構成—	鹿児島県立短期大学	石 川 満佐育
PF091	3つの気質次元に関する横断データを用いた擬似的な発達軌跡の検討	京都大学	高 橋 雄 介
PF092	学生を対象とした保育者省察尺度の構造的妥当性の検討（2）	群馬大学 東北福祉大学 東北生活文化大学短期大学部 聖霊女子短期大学 岩手県立大学	○音 山 若 穂 利根川 智 子 三 浦 主 博 織 田 栄 子 井 上 孝 之
PF093	中学生の社会的行動についての研究（97） —問題行動に親や友人との関係のとらえ方やレジリエンスは関連するのか—	福島大学 名古屋大学 愛知学院大学 千葉県立保健医療大学 名古屋文理大学短期大学部	○五十嵐 敦 氏 家 達 夫 二 宮 克 美 井 上 裕 光 山 本 ち か
PF094	中学生の社会的行動についての研究（98） —全体的自己価値と向社会的行動の共時的因果関係の検討—	名古屋文理大学短期大学部 名古屋大学 愛知学院大学 福島大学 千葉県立保健医療大学	○山 本 ち か 氏 家 達 夫 二 宮 克 美 五十嵐 敦 井 上 裕 光
PF095	中学生の社会的行動についての研究（99） —問題行動のパターンの縦断的推移—	千葉県立保健医療大学 名古屋大学 愛知学院大学 福島大学 名古屋文理大学短期大学部	○井 上 裕 光 氏 家 達 夫 二 宮 克 美 五十嵐 敦 山 本 ち か

PF096	中学生の時間的展望と進路選択自己効力 —進路成熟度別比較—	弘前大学	○吉矢	中田	淳智美#
PF097	中学生向け将来志向性尺度の検討	聖徳大学大学院 聖徳大学	○山相	上良	寛順子
PF098	思春期の心性 —親から友人へと変化していく関係性—	神戸大学大学院 神戸大学	○西鳥	尾居	祐美子 深雪
PF099	工学部大学生の職業観とキャリア成熟との関連性 —職業観に関する自由記述データの探索的検討を 通して—	久留米工業大学	堀	憲一郎	

ポスター発表G

11月9日(日) ポスター掲示時間 10:00~12:00
在席責任時間 奇数番号10:00~11:00 偶数番号11:00~12:00

学校心理学

5階ラウンジ

PG001	学級風土に対する認知の差異がスクール・モラールに与える影響 —児童の認知とそれを推察する教師の認知の差異に注目して—	高岡市立能町小学校	砂 田 真樹子
PG002	教師による「気になる児童・生徒」への評価と個人的効力感の検討 —危機体験のある教師に着目して—	東京大学教育学部 附属中等教育学校	石 橋 太加志
PG003	小学6年生を対象とした思考力トレーニングとその効果に関する探索的検討(1) —情報を分析する力を伸ばすプログラム作り—	早稲田大学大学院 早稲田大学	○塚 原 望 遠 田 将 大
PG004	小学6年生を対象とした思考力トレーニングとその効果に関する探索的検討(2) —情報を分析し表現する力が学習意欲にもたらす効果—	早稲田大学 早稲田大学大学院	○遠 田 将 大 塚 原 大 望
PG005	「スクールカースト」とコミュニケーション・スキル、学校適応感との関連	北海道大学	水 野 君 平
PG006	「新入生歓迎会」の準備過程における“オリター”の意識変化 —情報共有意識、目標設定および満足度の経時的推移—	北星学園大学	後 藤 靖 宏
PG007	キャリア教育で育成される諸能力と中学生の主体的進路選択との関連	鹿児島市立紫原中学校 鹿児島大学	○辻 俊 之 大 坪 治 彦
PG008	教授活動の反復経験が教職課程大学生に与える影響(2) —同一内容の模擬授業の繰り返しによるリフレクションの変化—	新潟医療福祉大学 新潟医療福祉大学 新潟医療福祉大学 早稲田大学	○遠 山 孝 司 吉 田 重 和 # 西 原 康 行 # 浅 田 匡
PG009	教育現場におけるQOLと教師が求める援助(1) —小学校における教師QOLの尺度構成—	八戸学院短期大学 文京学院大学	○佐 藤 広 崇 金 子 智 栄 子
PG010	教育現場におけるQOLと教師が求める援助(2) —教師QOLと被援助志向性、情緒的消耗感との関連—	文京学院大学 八戸学院短期大学	○金 子 智 栄 子 佐 藤 広 崇
PG011	剣道が中学生の学習規律と学校適応感の形成に及ぼす影響に関する学校心理学的研究	加東市立社中学校 兵庫教育大学 加美町立中新田中学校	○井 上 聡 浅 川 潔 司 佐 藤 美 保
PG012	中学の学校行事における教師の関わり方の質的検討 —J. R. Harrisの集団社会化理論の視座から—	東京大学大学院	河 本 愛 子
PG013	中学校生活に関する期待感について —小学6年生を対象とした質問紙調査から—	鳴門教育大学 鳴門教育大学	○小 倉 正 義 和 田 邦 美

PG014	中学校入学後の定期テストの結果評価が学業動機づけに及ぼす影響 —目標点との比較と平均点との比較—	愛知教育大学 愛知教育大学	○石 田 靖 彦 神 谷 紗由美
PG018	中学校でのアサーション・トレーニング導入に関する実践研究 —社会科における表現力の向上の実践といじめ防止の実践を通して—	加古川市立山手中学校	黒 木 幸 敏
PG019	中学校教師が抱く信頼感と生徒への指導行動との関連	磐田市立豊岡中学校 愛知教育大学	○古 田 伸 子 五十嵐 哲 也
PG020	中学校教師のユーモア態度尺度の作成	早稲田大学大学院 早稲田大学	○河 村 昭 博 河 村 茂 雄
PG021	中学生の学級編成前後における学級生活満足感の変化と不登校傾向	愛知教育大学	五十嵐 哲 也
PG022	担任教師の働きかけが学級雰囲気と生徒のクラスメート受容に及ぼす影響	たつの市立新宮中学校 兵庫教育大学	○是 常 美 穂 秋 光 恵 子
PG023	高校生におけるインターネット利用と仮想的有感情の関連 —ネットいじめとネット依存の視点から—	東京福祉大学 東京福祉大学	○青 山 郁 子 高 橋 舞 #
PG024	高校生におけるソーシャルスキル教育がメンタルヘル스에及ぼす効果	東京都立新宿山吹高等学校 明治大学	○茅 野 眞起子 岡 安 孝 弘
PG025	高校生に対する予防的心理支援としてのレジリエンス教育の実践と効果 —スクールカウンセラー、教師、研究者の協働を通して—	郁文館夢学園 お茶の水女子大学大学院 東京大学大学院 お茶の水女子大学大学院	○鈴 木 水 季 岐 部 智恵子 平 野 真 理 中 根 由香子
PG026	高校生の自己愛が居場所の選択と居心地に与える影響	宝塚市立光が丘中学校 兵庫県立加古川西高等学校 松蔭中学校・高等学校 大阪市立新高小学校 兵庫教育大学	○南 雅 則 檜 皮 万里子 佐々木 聡 真 田 穰 人 浅 川 潔 司
PG027	高等教育における学生の就職意識・準備行動の規定因 —学生・学校双方の要因を考慮して—	慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学	○玉 田 圭 作 齋 藤 央 典 安 藤 寿 康
PG028	困り感の強い学生の学校適応について —援助要請スタイルからの検討—	大正大学 カウンセリング研究所 大正大学 大正大学	○坂 本 佑 馬 森 岡 由起子 # 柴 田 康 順
PG029	罪悪感と共感性が中学生のいじめ場面への関わり方に与える影響	都島区保健福祉センター 神戸女学院大学	○浜 本 瑞 小 林 哲 郎
PG030	子どもに肯定的変化を促す小学校教師の関わりと子どもの変容に関する検討 —子どもの視点による質的分析—	鳥取大学	角 南 なおみ
PG031	指導者からの体罰を肯定する若者たち —部活にとどまらない体罰の「効果」—	山梨大学	尾 見 康 博
PG032	資格取得を目指す学生の精神的健康度 —保育・看護・スポーツ専攻生の場合—	小田原短期大学 甲南女子大学	○上 野 奈初美 上 原 明 子
PG033	児童虐待事例の検証報告書からみた保育所等における児童虐待防止活動の協働上の課題	中村学園大学	笠 原 正 洋

PG034	児童生徒の学校満足感に関する研究 —所属感と自己肯定感との関連から—	鹿児島県総合教育センター	猿 渡 功
PG035	自己決定理論における心理的欲求充足と学校適応 感の関連について	弘前大学	吉 崎 聡 子
PG036	実習生が保育士に求める援助について —保育実習における援助特性—	日本体育大学	斉 藤 崇
PG037	主体的で自律的な学級集団を作る教師の発話の研 究	西宮市教育委員会 兵庫教育大学	○藤 田 暁 子 秋 光 恵 子
PG038	女子中学校における新入生宿泊行事の実践研究 —期待と予期不安に注目して—	松蔭中学校・高等学校	佐々木 聡
PG039	中学校教師の生徒に対してませた時の認知の高 低が感情・行動・経験した結果に与える影響の比 較	山形県スクールカウンセラー 筑波大学	○板 垣 市 子 石 隈 利 紀
PG040	こだわり行動の自我発達の意義と教育的支援の在 り方に関する研究（2）	城星学園小学校	矢 野 正
PG041	養護教諭の自己効力感とリフレクションの関連 —量的および質的な検討—	宮城県子ども総合センター 兵庫教育大学	○松 村 環 秋 光 恵 子

教授・学習・認知

PG042	教員採用試験における教育心理学 —2013年実施問題の分析を通して見えるもの—	福島学院大学大学院	竹 内 利 光
PG043	他者軽視傾向や自尊心は観察学習の効果にどの ように影響するか	摂南大学 鳴門教育大学大学院	○富 岡 直 美 皆 川 直 凡
PG044	オノマトペを活用した鑑賞シートによる鑑賞文作 成の効果	大分県立芸術文化短期大学	関 口 洋 美
PG045	ベイズ的確率推論課題での準抽象化教示の効果	青山学院大学 青山学院大学	○鈴 木 宏 昭 寺 尾 敦 敦
PG046	教育ディベートにおける学習者の論理的思考 —工学系学生に必要とされる能力育成の観点より —	国立明石工業高等専門学校 大阪大学大学院	○飯 島 睦 美 三 宮 真智子
PG047	大学生における複数領域に対する動機づけ状態の 測定および学習動機づけとの葛藤の検討	筑波大学大学院 筑波大学	○倉 住 友 恵 櫻 井 茂 男
PG048	大学生における方略使用と有効性の認知の教科横 断的検討 —心理学, 統計学, 外国語, 学習一般を対象にし て—	法政大学大学院	押 尾 恵 吾
PG049	大学生の学びの質と自己効力感との関係の検討 —学びの質に関する探索的研究（1）—	鳴門教育大学大学院	皆 川 直 凡
PG050	大学生の学習に対する自己効力感・将来展望が学 業的満足遅延に及ぼす影響の検討	名古屋大学大学院 名古屋大学大学院	○中 西 満 悠 中 谷 素 之
PG051	大学生の学部選択における専門性の考慮と学習動 機との関連について	早稲田大学 早稲田大学	○等々力 裕 介 河 村 茂 雄

PG052	大学生の質問行動を促進するための質問生成過程 への介入 —質問の型リストを用いた高次な質問の促進—	立命館大学 立命館大学	○尾山	坂本	柚博	稀樹
PG053	大学生の読書実態と読書教育の可能性 —「特技としての読書」という観点から—	東京家政大学	平山	祐一郎		
PG054	大学生の非科学的現象に対する認識に影響する体験の効果 —血液型性格判断を用いて—	西日本工業大学	山縣	宏美		
PG055	大学生はどのようなノートをとろうとしているのか —有効性認知やこれまでに受けた指導との関係—	玉川大学	魚崎	祐子		
PG056	大学生を対象とした反転授業の効果検証に関する研究	島根大学 関西大学 京都大学	○本森	田周 友朋 溝上	二子 一慎	
PG057	短期的—長期的×継続的—適宜的な有効性の認知 —メタ認知の方略使用に対する影響—	法政大学・日本学術振興会	山口	剛		
PG058	中学「歴史」教科書の読解を促すための挿入質問のあり方 —読み飛ばし問題の解消に向けて—	立命館大学大学院 立命館大学	○小山	島本	淳博	一樹
PG059	中学・高校生の学習に対する態度の差異 —認知・行動・情緒の3側面からの検討—	こども鎌倉臨床教育研究所 筑波大学	○児石	玉限	裕利	巳紀
PG060	中学校1学年時の運動頻度が2学年時の学業成績に与える影響	北海道科学大学 佐賀大学 北海道教育大学	○中山	島津 森田	寿幸 憲輝	宏司
PG061	中学校における「Can-Doリスト」作成のための実践的な調査及び研究	仙台市教育委員会	齋藤	嘉則		
PG062	中学校社会科における授業経験の有無が学びに与える影響 —共通の学習内容による異学年間の理解度の比較—	東京学芸大学附属 世田谷中学校 東京学芸大学附属 世田谷中学校	○石浦	本達	貞志	衡#
PG063	中国語・英語を母語とする中級日本語学習者のPCによる作文過程	国際教養大学	石毛	順子		
PG064	中国人は「稲むらの火」をどのように理解するのか	東北大学	○邑崔	本俊 長英	亮英	#
PG065	電子メール自動返信機能を用いたメールマナー改善の試み	岐阜聖徳学園大学	阿部	慶賀		
PG066	討論活動における児童の聴き方の偏りと発話傾向との関連 —聴き方のマイサイドバイアスに着目して—	東京大学大学院・ 日本学術振興会	小野田	亮介		
PG067	道徳授業を通じた児童の価値観の変化 —「社会貢献」をテーマとした授業に着目して—	東京大学大学院	三輪	聡子		
PG068	特別支援学級における数概念形成を目指した学びの過程 —語り合いから納得を生み出す—	吹田市立千里第三小学校	大西	理加		

PG069	日本人小学生における読書量, 読書に関する意識, および言語力の関連 (1) —読書量質問項目の妥当性の検討—	日本心理学諸学会連合 関西大学 京都大学 電気通信大学	○上田紋佳 塩谷京子 小山内秀和 猪原敬介
PG070	日本人小学生における読書量, 読書に関する意識, および言語力の関連 (2) —読書への動機づけに関する検討—	京都大学 関西大学 日本心理学諸学会連合 電気通信大学	○小山内秀和 塩谷京子 上田紋佳 猪原敬介
501			
PG071	日本語文の読みにおける読点の役割	東北大学 東北大学	○新国佳祐 邑本俊亮
PG072	認知スタイルの違いが感情的情報処理に与える影 響の検討 —感情的修飾句付加名詞の偶発再生課題を用いて —	北海道教育大学大学院旭川校 北海道教育大学	○新田寛子 宮崎拓弥
PG073	批判的思考と英語版論理的思考能力テストの関連 性	信州大学 東京工業大学 教育測定研究所	○菊池聡 吉川厚 藤田元
PG074	批判的思考に対する志向性・態度と自尊心の関連	安田女子大学	池田智子
PG075	非連続型テキストを含む文書の読解の様相 —小学3年生について—	熊本学園大学 東京学芸大学	○中村光伴 岸学
PG076	福祉系大学生へのアクティブ・ラーニング手法を 用いたキャリア教育の効果	独立行政法人高齢・障害・ 求職者雇用支援機構	清野絵
PG077	物語文の冒頭部におけるタイトルの影響	恵泉女学園大学	伊藤尚枝
PG078	連想方略と記憶の保存性 —概念地図法を参考にして—	山陽学園短期大学 長岡技術科学大学	○皆川順 伴浩美
PG079	文法の教授が読解方略の獲得に及ぼす効果の検討 —大学生を対象とした教育実践の予備的研究—	東京大学大学院 東京情報大学	○福田麻莉 原田恵理子
PG080	保育学生の授業規範と保育観の関連性	元白鳳女子短期大学	園田雪恵
PG081	保育所実習において学生が抱く感情についての調 査研究Ⅰ —保育実習Ⅰを中心に—	和光学園 四天王寺大学	○鎌田陽世 小川圭子
PG082	保育所実習において学生が抱く感情についての調 査研究Ⅱ —保育実習ⅠとⅡの比較から—	四天王寺大学 和光学園	○小川圭子 鎌田陽世
PG083	保育実習生の熟達化過程測定の予備的検討 —実習経験の有無による保育環境知識の比較—	和洋女子大学	大神優子
PG084	保育者が研究者との実践研究に継続参加する要因 の検討	広島大学大学院 広島大学大学院 広島大学大学院 広島大学大学院	○上山瑠津子 境伊愛一郎 藤上優 浦萌
PG085	保育職の職場体験学習の特徴 —職場体験時の活動内容に着目して—	常葉大学	山本睦

発達

PG086	養育者の情動表現と幼児のエフォートフルコントロールとの関連性について	明治学院大学大学院	小川和美
PG087	保育の質が幼児の発達に与える影響（１） — ４歳から５歳の言語発達に関する縦断的検討と コーホート間比較—	十文字学園女子大学 川村学園女子大学 筑波大学 名古屋市立大学 東京大学 白梅学園大学 聖徳大学 広島大学 兵庫県立大学 兵庫教育大学 西南学院大学 香蘭女子短期大学	○野口隆子 箕輪子慧 宇佐美丈 上田敏 秋田喜代美 無藤隆 小田豊 中坪史典 芦田宏 鈴木正敏 門田理世 森暢子
PG088	保育の質が幼児の発達に与える影響（２） — ４歳から小１までの科学的思考の発達に関する 縦断的検討—	川村学園女子大学 十文字学園女子大学 東京大学 兵庫教育大学 白梅学園大学 名古屋市立大学 聖徳大学 西南学院大学 香蘭短期大学 広島大学 兵庫県立大学 筑波大学	○箕輪子 野口隆子 秋田喜代美 鈴木正敏 無藤隆 上田敏 小田田豊 門理世 森暢子 坪史典 芦田宏 宇佐美慧
PG089	保育専攻学生のジェンダー別保育への態度	四天王寺大学	上野淳子
PG090	母親の音声・言語模倣と子どもの言語発達の関係	帝塚山大学 帝塚山大学 帝塚山大学 現在所属なし	○小平椋 井田純 増珠 浜直 たみ子 子 已 子
PG091	子どもの気質と遊び	國學院大学北海道短期大学部 札幌大谷大学短期大学部 北海道大学 光塩学園女子短期大学 奈良女子大学	○草薨恵美子 星信子 安達真由美 陳省仁 高村仁知
PG092	母親の気質と子育て	札幌大谷大学短期大学部 國學院大学北海道短期大学部 光塩学園女子短期大学 北海道大学 奈良女子大学	○星信子 草薨恵美子 陳省仁 安達真由美 高村仁知
PG093	母親の乳幼児に対するミラーリングの横断的検討	名古屋大学大学院	井手裕子
PG094	母親の養育態度に関する研究 6 — 大学生の被養育経験における父親と母親の関わり の比較—	代々木の森相談センター	○田中穂 三浦香苗
PG095	世代性関心の発達の变化についての検討 — 青年期・成人期前期・中年期の横断調査から—	神戸大学 神戸大学	○田中帆 齊藤誠一
PG096	未就学児を育てる共働き夫婦の家庭生活満足度 — 育児及び配偶者要因による分析—	元智大学	糠明珊

PG097 遊び場面における幼児の欲求と母親の行動
—attachmentとbondingの視点から—

跡見学園女子大学大学院 ○金子靖子
跡見学園女子大学 藤澤伸介

ポスター発表H

11月9日(日) ポスター掲示時間 13:30~15:30
在席責任時間 奇数番号13:30~14:30 偶数番号14:30~15:30

学校心理学

5階ラウンジ

PH001	大学の心理教育相談室における学習支援に関する研究(8) —集団を対象とした学習支援—	広島大学大学院 広島大学	○岡 直 樹 児 玉 真樹子
PH002	養護教諭のコーディネーションに関する研究 —コーディネーションと学校組織に関するインタビュー調査より—	就実大学	鈴 木 薫
PH003	小学校教師における教育実践語の意味理解の多様性	兵庫県明石市立林小学校 兵庫教育大学	○石 井 真 理 秋 光 恵 子
PH004	小学生版友人グループ尺度の作成	盛岡大学 早稲田大学	○武 蔵 由 佳 河 村 茂 雄
PH005	道徳授業を利用した社会的スキル教育の実践 —小学1年生を対象として—	神戸市立長尾小学校	吉 田 和 樹
PH006	教師の学習の契機としての校種間連携(2) —組織の安定と理解深化を基盤とした実践の創出と成員性の獲得—	東京大学大学院	藤 江 康 彦
PH007	小学校における環境教育の実践と評価 —ライフサイクル思考を取り入れた定量的環境教育の実践—	福井工業大学 福井工業大学	○荒 木 史 代 笠 井 利 浩#
PH008	小学校における呼名と学級経営(1)	日本女子大学大学院 日本女子大学	○今 井 寛 子 請 川 滋 大
PH009	心の減災教育プログラムの効果測定に関する研究(5) —プログラム実施による児童の認知・行動の変化—	名古屋大学 名古屋大学大学院 金城学院大学 人間環境大学 名古屋大学 名古屋大学	○窪 田 由 紀 吉 武 久 美 鈴 木 美樹江 坪 井 裕 子 松 本 真理子 森 田 美弥子
PH010	心の減災教育プログラムの効果測定に関する研究(6) —呼吸法の利用頻度による検討—	名古屋大学大学院 名古屋大学 金城学院大学 人間環境大学 名古屋大学 名古屋大学	○吉 武 久 美 窪 田 由 紀 鈴 木 美樹江 坪 井 裕 子 松 本 真理子 森 田 美弥子
PH011	東日本大震災において学校が担う役割と学校支援(1) —養護教諭が行った活動と専門性に関する調査より—	東北福祉大学 東北福祉大学 東北福祉大学 山形県立米沢女子短期大学 聖和学園短期大学	○西 野 美佐子 平 川 昌 宏 内 藤 裕 子 沼 山 博 荒 井 美智子
PH012	東日本大震災において学校が担う役割と学校支援(2) —養護教諭が得られた支援と支援ニーズ—	東北福祉大学 東北福祉大学 東北福祉大学 聖和学園短期大学 山形県立米沢女子短期大学	○平 川 昌 宏 内 藤 裕 子 西 野 美佐子 荒 井 美智子 沼 山 博

PH013	東日本大震災において学校が担う役割と学校支援 (3) —避難所運営に関する養護教諭の意見調査より—	東北福祉大学 東北福祉大学 東北福祉大学 聖和学園短期大学 山形県立米沢女子短期大学	○内 藤 裕 子 西 野 美佐子 平 川 昌 宏 荒 井 美智子 沼 山 博
PH014	大学2年生に対するキャリア教育科目の効果測定 V —CAVTプロット分析による検討—	駿河台大学 駿河台大学	○永 作 稔 縷 坂 英 子#
PH015	大学の教員—学生関係のあり方についての検討	九州産業大学	久木山 健 一
PH016	被災経験と養護教諭の資質の関係に関する研究	加美町立中新田中学校 加東市立社中学校 亘理町立吉田中学校 姫路市立山陽中学校 兵庫教育大学	○佐 藤 美 保 井 上 聡 小松代 明 子# 山 形 弥壽子 浅 川 潔 司
PH017	不登校を激減させた方法(2) —中学校での激減と、小学校での激減の方法の共通性から—	安曇野市立三郷小学校	工 藤 弘
PH018	不登校期に起こる心理的・行動的変容 —不登校の子を持つ母親のインタビューから—	金沢大学大学院 金沢大学	○中 村 泉 原 田 克 己
PH019	友人関係と生徒-教師関係が学校適応に与える影響(1) —中国の高校生を対象として—	関西学院大学 立命館大学 近大姫路大学	○王 松 石 本 雄 真 日 潟 淳 子
PH020	友人関係と生徒-教師関係が学校適応に与える影響(2) —日本の高校生を対象として—	近大姫路大学 立命館大学 関西学院大学	○日 潟 淳 子 石 本 雄 真 王 松
PH021	友人関係と生徒-教師関係が学校適応に与える影響(3) —日本と中国における高校生の比較—	立命館大学 関西学院大学 近大姫路大学	○石 本 雄 真 王 松 日 潟 淳 子
PH022	美術科教員の職業適応(2) —若手教員のポジティブ・ネガティブイベント分析—	金沢美術工芸大学	荷 方 邦 夫
PH023	大学入試試験における受験生の緊張についての研究 —進学校の現場より生徒アンケートからわかること—	長野県長野高等学校	大 石 超
PH024	心理行動上の問題を予防する心理教育“サクセスフル・セルフ”の実践と保健室来室数の変化	倉敷市立倉敷東小学校 岡山大学	○岡 崎 由美子 安 藤 美華代
PH025	対話的な支援セッション後に生じた新任教員の授業実践上の変化	九州大学大学院 九州大学	○田 中 あかり 當 真 千賀子

教授・学習・認知

PH026	読解内容を他者に伝える意識が文章読解後の作文に及ぼす影響 —読解前の紹介文・要約文作成教示を用いた検討—	実践女子大学 広島大学 広島大学	○柏 崎 秀 子 費 曉 東 松 見 法 男
PH027	放物運動における水平方向の慣性の理解の促進	早稲田大学	安 永 正 夫

PH028	野外の体験学習での中学生の学びを支援する「大学生ファシリテーター」の意識の変容	東京海洋大学 東京海洋大学 東京海洋大学	○和 木 美 玲 佐々木 剛 大 島 弥 生 #
PH029	幼児が古美術と出会うとき ー能動的鑑賞態度を支える場づくりに向けてー	香川大学 香川大学 香川短期大学	○松 本 博 雄 松 井 剛 太 # 常 田 美 穂 #
PH030	幼児の引き算ー求差型ー数操作に関する教授学習的考察	新潟県立大学 吉田乳児保育園	○斎 藤 裕 熊 谷 香 奈 #
PH031	幼児教育学生の保育指導観 ー子どもの特性に応じた保育ー	岡山県立大学	樟 本 千 里
PH032	理科教員志望学生における説明文読解方略の使用 ー図やグラフを伴う説明文を素材としてー	広島大学大学院 広島大学大学院 広島大学大学院 広島大学大学院 近畿大学	○中 條 和 光 山 根 嵩 史 福 屋 い ず み 田 中 光 # 有 馬 比呂志
PH033	理科授業における教師の授業スタイルが生徒の学習方略と興味に与える影響	東京大学大学院	田 中 瑛津子
PH034	教師の過度な支援なく解法を対話検討することによる未来の学びへの接続	静岡大学大学院 追手門学院大学 伊東市立対島中学校	○益 川 弘 如 河 崎 美 保 遠 藤 育 男 #
PH035	理学療法士学生の国家試験対策における学習動機づけ ー最終学年を対象とした時系列調査よりー	白鳳女子短期大学	成 田 亜 希
PH036	臨床実習を経験した医療系専門学校の生の動機づけの変化 ー他者志向的動機と「人に関わりたい」気持ちに着目してー	多摩リハビリテーション学院	西 片 裕
PH037	話し上手・聞き上手に至る発達の予測的知見（４） ー教師の指導目標と指導との関連、及び児童の学習目標と学習の実際の時期的な変容についてー	新潟市立巻北小学校 東京学芸大学	○阿 彦 翔 大 梶 井 芳 明
PH038	話し上手・聞き上手に至る発達の予測的知見（５） ー児童の話す・聞く能力と授業観との関連からー	東京学芸大学大学院 東京学芸大学	○山 崎 加 奈 梶 井 芳 明
PH039	総合的な学習の時間を活用した視覚障害理解教育の実践３ ー小学５年生を対象にー	富山大学 目白大学 東京未来大学 子ども支援研究所 筑波大学 筑波大学	○西 館 有 沙 安心院 朗 子 西 村 実 穂 大 越 和 美 水 野 智 美 徳 田 克 己

社会

PH040	現代の子どもをめぐる言説の検証 ー教師を対象とした調査からー	香川大学 引田小学校	○大久保 智 生 中 川 大 暉 #
PH041	幼児の共同注視傾向は、相手が母親か他人かで異なるか	関西学院大学 関西学院大学	○安 田 傑 桂 田 恵美子
PH042	小学校・中学校の教師を対象とした子どもの感謝行動に関する実態調査	埼玉学園大学 筑波大学	○藤 枝 静 暁 相 川 充

PH043	子どもの手本としての大人の機能の変化1 —2013年と2001年における手本にならない保護者の言動の比較—	筑波大学 筑波大学大学院 筑波大学 子ども支援研究所 東京未来大学 目白大学 富山大学	○水枝徳 野田越 智裕克 美子己 美穂子 沙
PH044	子どもの手本としての大人の機能の変化2 —2013年時点における子どもの手本にならない言動に関する保護者の認識—	筑波大学大学院 筑波大学 筑波大学 富山大学 東京未来大学 目白大学 子ども支援研究所	○枝水徳 野田館 裕智克 子美己 沙穂子 美
PH045	子どもの手本としての大人の機能の変化3 —2013年と2001年における手本にならない保育者の言動の比較—	子ども支援研究所 富山大学 東京未来大学 目白大学 筑波大学大学院 筑波大学 筑波大学	○大西村 越館有 和美朗 美沙穂子 子美己
PH046	子どもの手本としての大人の機能の変化4 —2013年時点における保護者と保育者の言動および手本になることに関する認識の比較—	筑波大学 筑波大学 筑波大学大学院 富山大学 東京未来大学 目白大学 子ども支援研究所	○徳水枝 田野野 克智裕 己美子 沙穂子 美
PH047	大学生の世代間コミュニケーションに関する研究 —コミュニケーションの自信との関係に着目して—	吉備国際大学	渡辺由己
PH048	集団宿泊的体験活動における児童・生徒のソーシャル・サポートと遊び仲間の選択率の変化 —平成25年度「生活体験学校」を实践事例として—	駒沢女子短期大学 東京学芸大学	○古屋 杉森伸 真吉
PH049	僻地における保健・医療・福祉の連携教育の検討	東洋大学大学院	新山真奈美

人格

PH050	大学生の自己意識に関する研究II —改訂版自己意識尺度における精神的健康との関連性—	名古屋大学 慶應義塾大学	○金子功 金子智昭
PH051	大学生の自己意識に関する研究III —アイデンティティ形成過程および自尊感情との関連性—	慶應義塾大学 早稲田大学	○金子智昭 河村茂雄
PH052	アイデンティティの感覚における構造の検討 —両因子モデルを用いた検討—	日本学術振興会 広島大学	○畑野 杉村和 快美
PH053	看護学生のコミュニケーション技術の変化の検討 (2) —自己効力感、看護における個人目標の影響—	大阪信愛女学院短期大学 大阪信愛女学院短期大学 同志社大学	○井内伸栄 籾内順子 田中あゆみ
PH054	日本語版Profile of Emotional Competence作成の試み (2) —基準関連妥当性と増分妥当性の検証—	京都大学・日本学術振興会 京都大学	○野崎優樹 子安増生

PH055	青年期における仮想的有能感と自他への攻撃性の関連	学習院大学	佐々木 麻 実
PH056	日本語版強みの自覚尺度の作成の試み	東京学芸大学大学院 明星大学	○高 橋 誠 森 本 哲 介
PH058	社会的クリティカルシンキングと首尾一貫感覚の関連 ーコミュニケーションスキルの視点からー	三重大学大学院 三重大学	○磯 和 壮太郎 南 学
PH059	外向性・内向性の性格特性が競争状況に与える影響について	上智大学 上智大学	○山 下 竜 一 横 山 恭 子
PH060	キー・コンピテンシーとレジリエンスの関連について ー熟慮性に注目してー	東京学芸大学大学院 東京学芸大学 明治学院大学	○菊 池 夢 二 岸 学 藤 崎 真知代
PH061	コミュニケーション能力の自己評価と主観的幸福感との関連についての考察	早稲田大学大学院 早稲田大学	○百 瀬 知 輝 河 村 茂 雄
PH062	「よりどころ」と「自己対象」の心理学的考察2 ーアタッチメント、および自己対象欲求・否認との関係ー	学校法人啓明学院	白 井 大 介

発達

PH063	幼児における触覚による異方向の長さ知覚の検討 ー奥行き方向の触知覚を中心にー	山陽学園短期大学	大 橋 康 宏
PH064	幼児における数表記の理解と産出の発達（6） ー1対1対応の原理と数字の読み書きの関連ー	京都女子大学 京都ノートルダム女子大学	○古 池 若 葉 山 形 恭 子
PH065	幼児における描画構成の発達2 ー認知的要因との因果性についてー	東北大学大学院	進 藤 将 敏
PH066	幼児による複数の空間的手がかりに基づく対象定位の検討	山梨県立大学	多 田 幸 子
PH067	幼児の「計算活動」の個人差に対する保育者の実践知 ー幼稚園教諭へのインタビューの事例からー	京都教育大学 津田塾大学	○田 爪 宏 二 高 垣 マユミ
PH068	幼児のiPad利用が親の意識と親子相互作用に与える影響 ー幼児の活用事例と親質問紙の分析からー	十文字学園女子大学 十文字学園女子大学	○大 宮 明 子 石 田 有 理
PH069	幼児のリテラシーの発達と学習に対する視座の変遷 ー書きを中心にー	立教大学	石 本 啓一郎
PH070	幼児の自称詞の使用（1） ー2001年と2013年の調査結果を比較してー	桜花学園大学	小 嶋 玲 子

501

PH071	幼児の折り紙技術の発達 ー折りの正確性とセミ作りに着目してー	滋賀大学 平野小学校	○細 谷 里 香 松 井 あずさ#
PH072	幼児をもつ親の子育て意識と社会的関係	名城大学 名城大学 名城大学	○大 西 美香子 加 藤 幸 久# 伊 藤 康 児

PH073	幼児期における行動抑制の発達的变化（４） —５歳の観察室実験結果と５・６歳の母・先生による行動評価との関連—	武庫川女子大学 武庫川女子大学 武庫川女子大学 国立病院機構 三重中央医療センター 国立病院機構 三重中央医療センター	○難波久美子 河合優年 佐々木恵子 山川紀子 山本初実
PH074	幼児期の唾液中 α -アミラーゼ活性に関する基礎研究III —幼稚園場面での縦断データを用いた検討—	関西福祉科学大学 武庫川女子大学 子ども発達科学研究センター	○西山直美 山本正顕
PH075	幼児期の対人場面での自己制御行動 —発達初期の気質との関連—	中京大学 中京大学大学院	○水野里恵 一木恒佑
PH076	幼児期の発達障害特性による就学後６年間の心理社会的不適応の縦断的予測	浜松医科大学 浜松医科大学 浜松医科大学	○伊藤幸 村大恭 中島朗思
PH077	幼稚園での里山自然活動を保護者はどうとらえているか？ —B幼稚園の分析から—	金沢大学	滝口圭子
PH078	幼稚園教育実習による学生の保育者効力感の変化 —領域「人間関係」に焦点を当てて—	富山大学	小林真
PH079	幼稚園教諭志望学生の被援助志向性への介入の試み —附属幼稚園におけるおはなし会の実践とフィードバックの効果—	北海道教育大学	本田真大
PH080	院内保育所保育士の勤務に伴う疲労に関する研究	東京未来大学 目白大学 子ども支援研究所 富山大学 筑波大学 筑波大学	○西村実穂 安心院朗子 大越和美 西館有沙 水野智美 徳田克己

臨床

PH081	大学生の相談行動に関する研究（３） —入学半年後の大学生の悩みと実際の相談行動—	摂南大学	牧野幸志
PH082	児童養護施設の「外国とつながる子ども」に関する研究 —文化移行に伴う主観的体験と心理的プロセスに注目して—	明治学院大学	鈴木ゆみ
PH083	初任者保育士の保育上のつまずく要因 —精神的回復力と自尊感情との関連について—	聖徳大学短期大学部 聖徳大学	○小原貴恵子 鈴木由美
PH084	職業訓練校における自己PR支援プログラムの効果	明星大学 東京学芸大学大学院	○森本哲介 高橋誠
PH085	大学生のふれ合い恐怖における芸術療法の効果 —グループでのアプローチ作りを通して—	聖徳大学	鈴木由美
PH086	大学生の経験する発達障害に類似した困難への有効な支援方法の検討 —被援助志向性の観点からの一考察—	新潟障害者職業センター 早稲田大学	○高林大輝 菅野純

PH087	地域スポーツにおける指導者・仲間・親の関わり (2) ーチームを支える保護者同士の人間関係に影響する要因についての探索的検討ー	東京未来大学 東京未来大学 東京未来大学	○大井藤	橋梅後	恵由美子# 悦子
PH088	地域スポーツにおける指導者・仲間・親の関わり (3) ースポーツハラスメントが選手のバーンアウトに及ぼす影響ー	東京未来大学 東京未来大学 東京未来大学	○藤大井	後橋梅	悦子 恵由美子#
PH089	中学生に対するメンタルヘルス尺度(こころとからだの健康気づきシート)作成の試み	東京学芸大学 東京学芸大学 大正大学 東京学芸大学	○田橋三熊	口本浦谷	禎創巧 子一也 亮
PH090	中学生のいじめ認識に関する研究 ー要因を操作した場合の認識の差異に関する検討ー	富山大学	下田芳幸		
PH091	中学生のための怒りスマート対応プログラム作成の試み ー青少年ポジティブ発達促進プログラムの一環としてー	国士舘大学	桜井美加		
PH092	乳幼児の自己調整行動を誘導する方略の試み ー母親の「言葉かけ」を通してー	母と子のオムニパーク	福岡潤子		
PH093	東日本大震災後に福島県内の仮設住宅で生活する子どものメンタルヘルス(4) ー小学生における遊びおよび学習の状況ー	銀座山崎メンタルクリニック 明治大学 東京家政大学	○三岡三	浦安正	文孝弘 華江
PH094	東日本大震災後に福島県内の仮設住宅で生活する子どものメンタルヘルス(5) ー中学生における睡眠, 食事, 遊び, および学習の状況ー	東京家政大学 銀座山崎メンタルクリニック 明治大学	○三岡三	浦安正	文孝弘 華江
PH095	対人不安の高い人はネガティブ感情をiPadアプリに打ち明けるとポジティブになれるのか	金沢大学	荒木友希子		
PH096	発達凸凹支援におけるカウンセラーの役割	(株)青山学芸心理 (株)青山学芸心理	○高山口	山智 隼ノ介	
PH097	精神的困難状態からの回復過程と友達の役割	四国学院大学 早稲田大学	○山菅	口野	孔丹子 純
PH098	不登校生徒を取りまく女子中学生の心理理解と変化に関する集団コラージュ作成からの検討	白百合女子大学	中島千加子		
PH099	保育士の母親への指示的・受容的な関わり方が母親の受けとめや育児ストレスに与える影響	城西国際大学 立正大学 国立教育政策研究所	○大野萩	内澤原	善義康 広隆仁
PH100	関係機関と連携した発達障害のある生徒への支援	神戸大学大学院 神戸大学	○水鳥	越居	香奈子 深雪

教授・学習・認知

PH101	大学英語教育における協同学習の実践研究(2)	北海道薬科大学	大野拓恵		
-------	------------------------	---------	------	--	--

発表者索引

注) 準企基：準備委員会企画基調講演，準企シ：準備委員会企画シンポジウム，準企チ：準備委員会企画チュートリアルセミナー，準企パ：準備委員会企画公開パネルディスカッション，研企シ：研究委員会企画シンポジウム，研企チ：研究委員会企画チュートリアルセミナー，ハ防企：ハラスメント防止委員会企画講演，J：自主企画シンポジウム，P：ポスター発表，を指す。なお，ポスター発表の太字は責任発表者を表す。#印は会員以外の登壇者，連名発表者を示す。

— あ —		安 達 真由美#	PG091,PG092	井 内 昭 子	PE001	
		足 立 由 美	PC046,PF042	井 内 伸 栄	PH053	
相 川 充	PD012,PH042	東 優 子#	研シ2	井 梅 由美子#	PH087,PH088	
相 澤 直 樹	準企シ4	阿 彦 翔 大	PH037	家 近 早 苗	JC05	
合 澤 菜穂子#	JD05	阿 部 亜弥華#	PF073	伊 賀 憲 子	PB025	
相 澤 雅 文	PB052	阿 部 慶 賀	PG065	五十嵐 敦	PF093,PF094,PF095	
會 津 律 治	PC004	阿 部 廣 二	PF051	五十嵐 哲 也	PG019,PG021	
青 木 幸 子	PC018	阿 部 晋 吾	PC076	五十嵐 素 子	PB075,PB076	
青 木 多寿子	JH05,PD088	天 野 秀 哉#	PE052	井 川 啓#	PA048	
青 木 直 子	PF017	天 谷 祐 子	PD049	伊 川 美 保	PA035	
青 木 奈緒子#	PC053	網 谷 綾 香	PE090	生 嶋 英 明	PA003	
青 木 久 恵	PC053	綾 田 栞	PC019	生 田 淳 一	JC08	
青 木 由美子#	JH03	新 井 肇	JD05,JG03	井 口 彰 子#	PA074	
青 柳 肇#	PD092	荒 井 穂菜美	PD036	井 口 あずさ	PA027	
青 山 郁 子	PG023	新 井 雅	PA015,PA016,PB004,PE095	池 島 徳 大	JE07,PA004	
青 山 眞 二#	PB023	荒 井 美智子	PH011,PH012,PH013	池 田 智 子	PG074	
赤 坂 真 二	JH05	荒 尾 真 一	PB031	池 田 康 子	PD058	
赤 澤 大 史#	JD05	荒 木 史 代	PH007	池 田 幸 恭	PB080	
赤 津 純 子	PB069	荒 木 友希子	PH095	生 駒 忍	JH08,PB024,PD079,PE096	
秋 田 喜代美	JC01,PG087,PG088	有 富 公 教	PB061,PF040	猪 澤 歩	PA046	
秋 光 恵 子	PA019,PG022,PG037,PG041,PH003	有 馬 比呂志	PH032	石 井 あゆみ	PD022,PD023	
浅 井 淳	PF027	有 元 典 文	PC004,PC005,PC006	石 井 真 理	PH003	
浅 川 潔 司	PA080,PG011,PG026,PH016	栗 村 昭 子	PD040	石 井 僚	PB084	
浅 田 匡	JC03,PG008	安 藤 寿 康	PG027	石 上 浩 美	JH07,PE029	
浅 野 良 輔	JE03,PD001,PD002,PD003,PD004	安 藤 壽 子	PB047	石 川 勝 規	JF07	
朝 日 真 奈	JA06	安 藤 史 高	PE025,PE026	石 川 健 介	JD04,PA074	
浅 村 亮 彦	PF009	安 藤 美華代	PE015,PH024	石 川 純 子#	JH04,PF054	
芹 田 卓 身#	JD06	安 藤 有 美	PD048	石 川 隆 行	PD084	
芦 田 宏#	PG087,PG088	— い —			石 川 満佐育	PF090
芦 高 勇 気	PC015	飯 島 睦 美	PG046	石 川 雅 健	PB005,PB006,PB007	
安心院 朗 子	PC064,PH039,PH043,PH044,PH045,PH046,PH080	飯 田 順 子	PE009	石 川 道 子#	PB050	
足 達 昇#	JC04	飯 塚 由 美	PD031	石 川 美智子	JD06	
足 立 法 子	PB098	飯 塚 亮 輔	PD016	石 隈 利 紀	PA015,PA016,PH023,PE009,PG039,PG059	
		飯 村 周 平	PB094	石 黒 広 昭	JH04,PF054	
				石 毛 順 子	PG063	

石 崎 毅	PF068	伊 藤 美 佳	PE018	植 村 善太郎	PC085
石 島 照 代	PC056	伊 藤 美奈子	JH03,PA023,	上 山 瑠津子	PG084
石 田 拓 矢	PF065		PA024,PE081,PE082	魚 崎 祐 子	PG055
石 田 靖 彦	PG014	伊 藤 優	PG084	請 川 滋 大	PH008
石 田 有 理	PH068	伊 藤 義 徳	PE080	宇佐美 慧	JE03,PG087,PG088
石 野 陽 子	PE068	井戸本 陽	PD015	氏 家 達 夫	準企バ,PF093,PF094,PF095
石 橋 太加志	PG002	稲 垣 成 哲#	PC041	碓 井 貞 治#	PE053
石 橋 裕 子	PB041,PB042	乾 井 智 彦#	JH03	碓 井 百 合#	PE053
石 橋 優 美	PA070	犬 塚 美 輪	JB03,JF02	宇田川 詩 帆	PA089,PA095
石 橋 玲 子	PC009	井 上 聡	PG011,PH016	宇田川 順 子	PA042
石 原 一 彦#	JC04	井 上 孝 之	PD093,PF092	内 田 香奈子	JD04,PB010,PB037
石 丸 雅 貴	PE084	井 上 毅	JB01		
石 本 啓一郎	PH069	井 上 裕 光	PF093,PF094,PF095	内 田 千 春	PE069
石 本 貞 衡	PG062		準企シ3	内 田 照 久	PB028
石 本 雄 真	JD07,JF06,	井 上 雅 彦#		宇 野 宏 幸#	JC06
	PA014,PH019,PH020,PH021	猪 原 敬 介	JE06,PF016,PG069,PG070	宇 部 弘 子	PE092
伊 尻 正 一	PD028			梅 垣 佑 介	JD08
伊 住 継 行	PE006	井 原 啓 裕	PA010	梅 川 康 治#	JA06
井 関 龍 太	JH01,PF006	荊 木 まき子	JA06,PE020	梅 崎 高 行	PD071,PD072,PD073,PD092
井 芹 ま い	PC071	今 井 寛 子	PH008	梅 本 貴 豊	PE045,PF067
磯 貝 順 子	JB06	今 井 裕 之#	JA07	浦 達 志#	PG062
磯 山 恭 子#	JD02	今 川 峰 子	JC05	浦 光 博	PC067
磯 和 壮太郎	PH058	今 城 周 造	PB059,PE086	浦 上 萌	PA076,PG084
伊 田 勝 憲	JH08,PD043	今 田 純 雄#	JH02	浦 崎 寛 泰#	JD03
板 垣 市 子	PG039	今 西 一 仁	JG03	浦 田 悠	JA08
一 門 惠 子	PA096	今 林 俊 一	PB041,PB042	浦 田 有 香	PD064
市 川 伸 一	JB01,JE01	今 福 多香子	PD060	浦 野 裕 司	JF08
市 川 洋 子	PB018	井 邑 智 哉#	PB014		
市 村 賢士郎	PA031,PF055,PF056	井 森 澄 江	PB077,PB078,PB079		
一 柳 智 紀	JC01,PC048,PF013	岩 井 佳 子	PA061		
一 木 恒 佑#	PH075	岩 崎 純 子	PE028		
井 手 茜	PC025	岩 治 まとか	PB077,PB078,PB079		
井 手 裕 子	PG093				
糸 井 尚 子	JE04,PA009	岩 田 美 保	PD076		
伊 藤 篤	準企シ1	岩 立 志津夫	JF03		
伊 藤 康 児	PH072				
伊 藤 順 子	JF03,PE073				
伊 藤 慎 悟	PF074				
伊 藤 貴 昭	JC02				
伊 藤 崇	JB04,PF029				
伊 藤 崇 達	JD01,JG04,				
	PA012,PB091,PB092,				
	PE023,PF067				
伊 藤 忠 弘	PC080				
伊 藤 俊 樹	準企バ,PC078				
伊 藤 朋 子	PC007				
伊 藤 直 樹	JD08,PE078				
伊 藤 尚 枝	PG077				
伊 藤 大 幸	PH076				

大内善広 PH099
 大浦真一 PD099
 大神優子 PG083
 大川愛# PF057
 大久保智生
 JC07, PA050, PH040
 大越和美 JG07, PC064,
 PH039, PH043, PH044,
 PH045, PH046, PH080
 大佐賀諒# PF012
 大島純 準企チ
 大島秀子# JA07
 大島弥生# PH028
 太田礼穂 PC014
 太田仁 PC076
 太田伸幸 PC087
 太田はるよ# JG02
 太田正義 PD074
 太田裕生# PB041, PB042
 大谷和大 PA012, PA037
 大谷宗啓 PA039
 大津嘉代子 PC036
 大対香奈子 PA020, PA046
 大塚雄作 ハ防企
 大坪治彦 PG007
 大西彩子
 PD018, PE097, PE098, PE099
 大西将史 PA018
 大西美香子 PH072
 大西理加 PG068
 大野精一 JG03
 大野拓恵 PH101
 大野久 準企シ4
 大橋節子 PE081, PE082
 大橋正人# JC04
 大橋恵 PH087, PH088
 大橋康宏 PH063
 大淵守正# PE053
 大宮明子 PH068
 大山智子 JA08, PB072
 岡直樹
 JB06, JE04, PH001
 岡崎由美子 PH024
 岡崎善弘 PB014
 岡澤慎一 JH09
 尾形和男 PA057, PA058
 岡田今日子 PC024
 岡田修一# 準企シ1
 岡田猛 PC013
 岡田努 JH02

岡田有司 JC07, PD081, PD082, PD083
 岡田涼 JE03, PA012, PC044
 小方涼子 PF032
 岡林春雄 PF069
 岡村季光 PD037
 岡本恵太 JA07
 岡本英生 PA091
 岡本弘子 PC093
 岡本真彦 JF02
 岡安孝弘
 PA083, PG024, PH093, PH094
 小川一美 PD019
 小川和美 PG086
 小川圭子 PG081, PG082
 小川詩乃# JE06
 小川翔大 PB057
 小川亮 PE032
 沖林洋平 JF01
 澳塩渚# JD04
 奥園淳子# PB061, PF040
 奥田亮# PA005
 奥田裕紀 PF049
 奥野晃司 PB031
 奥野隆之# JF05
 奥村龍也 PE027
 奥村智人# PB089, PB090
 小椋たみ子 PG090
 小倉正義 JD03, PG013
 纒坂英子# PH014
 尾坂柚稀 PG052
 尾崎仁美 PA055, PA056
 小山内秀和
 PF016, PG069, PG070
 小沢一仁 PB062
 小沢日美子 PF089
 押尾恵吾 PG048
 小嶋玲子 PE014, PH070
 織田栄子 PF092
 小田豊# PG087, PG088
 小田切歩 JF02, PE041
 落合洋子# PB096
 音山若穂 PD093, PF092
 小野純平 PB023
 尾之上高哉 PC047
 小野瀬雅人 JD01
 小野田亮介 JC01, PG066
 小花和ライト 尚子 PD098
 小原貴恵子 PH083
 尾見康博 JH06, PG031

小山義徳 JG06, PF022
 織田涼 PA033, PA034
 — か —
 甲斐雄一郎# PE009
 海津亜希子 準企シ3
 香川尚代 PE004
 攪上哲夫 PE030
 角田豊 JF07
 角藤翔太郎# JA01
 鹿毛雅治 JD01
 懸田孝一 PF009
 笠井利浩# PH007
 笠原正洋 PG033
 風間文明 PC077
 梶井芳明 JE02, PA040,
 PE035, PF034, PH037, PH038
 梶田叡一 JC03
 梶田正巳 JA04, JC05
 鹿嶋真弓 JG05
 柏崎秀子 PH026
 糟谷知香江 PE079
 片山美香 PE050
 勝野美江 PC031
 桂重樹# PF064
 桂川泰典 JA02, PB044
 桂田恵美子 PE051, PH041
 加藤陽子 JA02
 加藤知佳子 PB021
 加藤弘美# PE092
 加藤弘通 PD074
 加藤みずき PC025
 加藤靖佳 PB039
 加藤幸久# PH072
 加藤佳子 PE057, PE058
 加藤義信 JG08
 加藤礼子 PE062
 門田理世# PG087, PG088
 門脇千恵 PB044
 金沢緑 PB089, PB090
 金谷京子
 JB08, PA065, PA066
 金谷有子 PB058
 金谷行恵 PE035
 金山健一 JG03
 金子恵美子 PE081, PE082
 金子功一 PH050
 金子智栄子 PG009, PG010
 金子智昭 PH050, PH051
 金子雅臣# ハ防企

金子靖子 PG097
 金網知征 JC04, PA008
 加納寛子 JC04, PD026
 蒲谷楨介 PA079
 鎌田陽世 PG081, PG082
 鎌田雅史 PB031, PD029, PD030
 上長然 PD071, PD072, PD073
 上村友里恵 PC024
 神谷紗由美 PG014
 亀岡正睦 PA037
 亀谷和史# JG08
 亀山洋光 PA099, PB041, PB042
 鴨川光 PF037
 賀屋育子 PB011
 茅島路子# PC010
 輕部雄輝 PE060
 河合輝久 JD08
 河合優年 PH073
 川上知子 PD021
 川上正浩 PA005
 川口秀樹 PF055, PF056
 川越杏梨 PA089, PA095
 川崎恵里子 PF006
 河崎美保 PC042, PH034
 河崎佳子 準企シ3
 川島亜紀子 PD096
 川島一晃 PA087, PD049
 川嶋健太郎 PB024, PD079
 川島哲 PC065, PC066
 河住有希子 JG06
 河内祥子# PC085
 川那部隆司 JC02
 川端壮康# PF064
 河村昭博 PG020
 河村暁 研シ1
 河村茂雄 JA06, JG05, PB009, PC071, PD008, PG020, PG051, PH004, PH051, PH061
 河村壮一郎 PA026
 川本哲也# JA03
 川元佳子 JF08
 簡浚祐# PE095
 姜信善 PA060
 神崎真実 PA021
 神田直子 PE068
 菅野純 JA02, JB05, PH086, PH097
 神野雄 PD047

鎌原雅彦 PE044
 — き —
 菊池聡 PG073
 菊地史倫# PC083
 菊池夢二 PH060
 木澤利英子 PC029
 岸俊行 PE017
 岸学 PC022, PC024, PF039, PG075, PH060
 岸野麻衣 PE016
 岸本琴恵 JE05, PD066
 北原瑞穂 PF078
 北原靖子 PB024, PD079
 木野和代 PE069
 木下直子 JF04
 木下雅博 PD018
 岐部智恵子 PE070, PG025
 木村真人 JD08
 木邨真美# JD06
 清河幸子 JB03
 金明ブン PA032
 金田茂裕 PF052
 — く —
 久木山健一 PB091, PB092, PH015
 日下部公昭# PE009
 草薙恵美子 PG091, PG092
 楠見潔# JB05
 楠見孝 JC01, PA031, PA035, PC091, PE033, PF016, PF055, PF056
 樟本千里 JD02, PH031
 工藤弘 PH017
 工藤与志文 研シ3, PC035
 國井友希# PD033
 久保沙織 PB026
 久保井健# PF087
 窪田恵子# PC053
 窪田由紀 JB02, JD06, PB005, PB006, PB007, PB016, PH009, PH010
 熊谷香奈# PH030
 熊谷恵子 PB023
 熊谷亮 JC06, PB054, PB055, PH089
 熊野道子 JA08
 久米稔 PB025

倉石哲也# PB050
 倉住友恵 PG047
 蔵永瞳 PE012
 倉橋徒夢# JD04
 蔵本信比古 PF084
 倉盛美穂子 JF03
 栗田薫平# PE065
 栗原慎二 JB07, JD05, PF071, PF072
 栗山和広 PE042
 黒石憲洋 PC011
 黒岩誠 PB025
 黒川雅幸 PC095
 黒川光流 JC08
 黒木幸敏 PG018
 黒沢学 PF062
 黒田真由美 PA047
 黒田祐二 PA098
 桑原一哲 PD063
 桑原敏典# JD02
 郡司菜津美 PC003
 — け —
 解良優基 PE045, PE046
 元笑予 PD009
 — こ —
 胡琴菊 PE066
 古池若葉 PD090, PH064
 小石寛文 PB091, PB092
 小泉嘉子 PF064
 小泉令三 JB02, JF06, PA017, PA025, PC060, PE004
 高向山 PD092
 糠明珊 PG096
 黄ワン茜 PC070
 向後千春 JH05, PA069, PD021
 高坂康雅 JB09, PD081, PD082, PD083
 甲田宗良# PE080
 河内晴美 PE014
 河本愛子 PG012
 国眼眞理子 PD005, PD006, PD007
 小坂浩隆# PF016
 越良子 PE015
 小柴孝子 JE05
 小島淳一 PG058

小 島 道 生 JC06
 小 菅 清 香 **PB066**, PE044
 小 関 俊 祐 JB05
 小 関 真 実 JB05
 小 平 英 志 **PE025**, PE026
 児 玉 佳 一 **PC051**, PC065, PC066
 児 玉 裕 巳 **PG059**
 児 玉 真 樹 子 **PB064**, PH001
 小 玉 正 博 # PD014
 後 藤 綾 文 **PA087**
 後 藤 颯 一 # JG01
 後 藤 聡 **PF014**
 後 藤 崇 志 **PF055**, PF056
 後 藤 靖 宏 **PG006**
 小 浜 駿 **PC030**
 小 林 敬 一 **PF033**
 小 林 小 夜 子 **PA003**, **PA013**, PA042
 小 林 哲 生 **PE054**
 小 林 哲 郎 PG029
 小 林 朋 子 **PE087**
 小 林 寛 子 JF02
 小 林 真 **PH078**
 小 林 幹 子 JG03
 小 林 祐 子 # PB045
 小 林 由 美 子 JD06
 小 堀 彩 子 **PF013**
 小 松 孝 至 PD042
 小 松 代 明 子 # PH016
 小 湊 真 衣 # PD092
 米 田 英 嗣 **PF016**
 古 本 温 久 PA037, PC039
 子 安 増 生 **PF016**, PF055, PF056, PH054
 是 常 美 穂 **PG022**
 近 藤 綾 子 JA05, **PB095**
 近 藤 美 紗 子 **PA051**
 今 野 紀 子 **PB032**, PC020, **PC023**
 今 野 博 信 **PE019**
 — さ —
 ザ イ 宇 華 **PA023**, **PA024**
 崔 長 英 # PG064
 崔 玉 芬 PE095
 齊 藤 彩 **PA094**
 齊 藤 和 恵 **PD038**
 齊 藤 智 研 シ 1

齊 藤 誠 一 準 企 パ, PA091, PB067, PG095
 齊 藤 崇 **PG036**
 齋 藤 央 典 **PC058**, PG027
 齋 藤 富 由 起 JE08, JE08
 齋 藤 裕 **PH030**
 齋 藤 嘉 則 **PG061**
 齋 藤 玲 **PF015**
 佐 伯 胖 # 準 企 基 2, 準 企 シ 2
 境 愛 一 郎 # PG084
 酒 井 厚 **PD071**, PD072, **PD073**
 酒 井 彩 子 # PD072
 酒 井 恵 子 PD042
 坂 口 由 佳 **PE094**
 坂 田 浩 之 # PA005
 坂 爪 一 幸 # JA05
 坂 野 雄 二 # 準 企 パ
 坂 本 篤 史 **JF05**, PC048, **PE031**
 坂 本 恵 子 **PD054**
 坂 本 美 紀 準 企 チ, PB015, PC041
 坂 本 佑 太 朗 **PF081**
 坂 本 佑 馬 **PG028**
 坂 本 裕 **PA096**
 坂 本 理 香 **PE089**
 相 良 順 子 **PF035**, PF036, PF097
 阪 脇 孝 子 **PD070**
 崎 濱 秀 行 **PA041**
 佐 久 田 祐 子 # PA005
 櫻 井 茂 男 **PF085**, PF086, PG047
 櫻 井 登 世 子 **PB056**
 櫻 井 憲 子 PE039
 桜 井 美 加 **PH091**
 迫 田 裕 子 PD029, PD030
 佐 々 木 麻 実 **PH055**
 佐 々 木 和 義 **PB044**, PD065, PF020
 佐 々 木 聡 PG026, **PG038**
 佐 々 木 貴 美 **PF077**
 佐 々 木 剛 **PF043**, PH028
 佐 々 木 ま り あ **PC005**
 佐 々 木 恵 子 PH073
 笹 原 未 来 JH09, PA018
 笹 屋 孝 允 **PC065**, PC066
 佐 渡 忠 洋 # PC046
 佐 渡 幹 也 # PE075
 佐 藤 昭 宏 **PA002**

佐 藤 克 敏 準 企 シ 3
 佐 藤 浩 一 JB01, **PF057**
 佐 藤 康 一 郎 # JH02
 佐 藤 智 **PD067**
 佐 藤 純 **PE007**, PE060
 佐 藤 誠 子 **PE038**, PF010
 佐 藤 哲 康 JH08, PB024, PD079
 佐 藤 典 子 JH08
 佐 藤 寛 PE080
 佐 藤 広 崇 **PG009**, PG010
 佐 藤 真 理 恵 # PD092
 佐 藤 美 保 **PG011**, **PH016**
 真 藤 有 耕 **PD087**
 真 田 稜 人 PG026
 佐 野 江 里 子 **PA077**
 佐 野 司 **PC068**
 佐 野 伸 之 **PF076**
 佐 野 秀 樹 JE04
 鮫 島 輝 美 **PA048**
 佐 柳 信 男 **PD032**
 猿 渡 功 **PG034**
 澤 海 崇 文 # PD013
 沢 崎 達 夫 JE05
 沢 崎 真 史 PA061
 澤 田 真 弓 # JH07
 澤 山 郁 夫 **PC008**
 三 野 宮 春 子 # JA07
 三 宮 真 智 子 **PA044**, PA045, PA052, PC008, PG046
 — し —
 椎 名 乾 平 **PB026**
 シェパード クリス # JF04
 塩 見 守 # JF07
 塩 谷 京 子 # PG069, PG070
 敷 島 千 鶴 # JA03
 重 富 紀 子 JE07, **PD062**
 司 城 紀 代 美 **PB053**
 実 本 牧 子 **PD059**
 仕 道 祐 紀 # PF034
 篠 ヶ 谷 圭 太 JE01, **PC059**
 芝 崎 美 和 **PB093**
 芝 崎 良 典 **PC062**
 柴 田 康 順 PG028
 柴 田 利 男 **PF087**
 柴 原 通 裕 # JB02
 柴 原 宜 幸 PE061
 柴 山 直 **PE038**, PF081, PF082

島 義 弘 **PE063**
 嶋 崎 栄 一 **PC043**
 嶋 崎 和 代# **PA093**
 嶋 崎 政 男# **JE05**
 島 田 英 昭 **PF053**
 嶋 田 洋 徳 **JB05,PA089,PA095**
 嶋 田 博 行 **PA026,PC015**
 島 並 友 香# **JD07**
 清 水 明 子# **PD032**
 清 水 健 司 **PA078,PD044**
 清 水 大 地 **PC013**
 清 水 寿 代 **PA078,PD044**
 清 水 益 治 **JF01,PC054**
 下 坂 剛 **PC088**
 霜 田 浩 信 **JA05**
 下 田 芳 幸 **PA075,PH090**
 下 斗 米 淳 **PC075**
 周 子 康 **PF026**
 首 藤 敏 元 **PB072**
 城 仁 士 **準企基2,準企シ1**
 庄 司 一 子 **PA015,PA016,PB004,PE095**
 庄 司 正 実# **PF065**
 東海林 麗 香 **JC07,JH06**
 荘 島 宏二郎 **JE03**
 状 家 莉 保 **PE072**
 白 井 大 介 **PH062**
 白 井 利 明 **準企シ4**
 白 石 京 子 **PA065,PA066**
 白 川 佳 子 **PB089,PB090**
 白 水 始 **JC01,JG01**
 城 間 祥 子 **PC034**
 新 川 広 樹 **PD034**
 新 谷 和 代 **PD097**
 神 長 伸 幸 **PC026**
 新 堂 研 一 **PE074**
 神 藤 貴 昭 **PB091,PB092**
 進 藤 聡 彦 **PC033**
 進 藤 将 敏 **PE053,PH065**
 新 原 将 義 **PE043**

— す —

菅 井 裕 行 **JH09,PD067**
 菅 沼 憲 治 **PC072**
 菅 沼 彩 桃 **PA011**
 菅 原 ますみ **PD095,PD096,PE071**
 杉 江 征 **PE060**
 杉 澤 武 俊 **JH01,PF013**

杉 村 和 美 **PH052**
 杉 村 伸一郎 **JA04,JB04,PA076**
 杉 本 英 晴 **PB063,PB075,PB076**
 杉 本 浩 美# **JD07**
 杉 森 伸 吉 **PH048**
 杉 山 佳菜子 **PB065**
 杉 山 崇# **PE018**
 杉 山 ひとみ **JH06**
 鈴 川 由 美 **JE03**
 鈴 木 敦 子 **PE036**
 鈴 木 薫 **PH002**
 鈴 木 和 也 **PF088**
 鈴 木 豪 **PF059**
 鈴 木 公 基 **JH08,PE064**
 鈴 木 伸 一# **PD020**
 鈴 木 亨# **PE009**
 鈴 木 規 夫# **PB028**
 鈴 木 宏 昭 **JB03,PG045**
 鈴 木 賢 男 **PC040**
 鈴 木 正 敏 **PG087,PG088**
 鈴 木 雅 之 **PF023,PF024**
 鈴 木 水 季 **PG025**
 鈴 木 美樹江 **PH009,PH010**
 鈴 木 みゆき **PE064**
 鈴 木 悠 介 **PA015,PA016**
 鈴 木 ゆ み **PH082**
 鈴 木 有 美 **PE069**
 鈴 木 由 美 **PE083,PH083,PH085**
 鈴 木 洋 介 **PC025,PF028**
 鈴 木 遼 子 **PE044**
 砂 田 真樹子 **PG001**
 角 南 なおみ **PG030**
 須 本 良 夫# **JD02**
 巢 山 晴 菜# **PD020**
 孫 媛 **PF023,PF024**

— せ —

清 野 絵 **PG076**
 瀬 尾 美紀子 **JG04,PF068**
 関 陽 子 **PB027**
 関 口 貴 裕 **PF050**
 関 口 洋 美 **PG044**
 関 口 雄 一 **PA071**
 関 谷 善 行 **PF041**
 世 古 須美日# **PD032**
 瀬 戸 淳 子 **PE055**
 瀬戸口 裕 二# **PB047**

— そ —

相 馬 誠 一# **JH03**
 宗 村 広 昭# **PA043**
 園 田 雪 恵 **PG080**
 曾 山 いづみ **PD086**

— た —

大 道 一 弘 **PC037,PE034**
 大 六 一 志 **PB035**
 高 井 範 子 **PA059**
 高 岡 し の **PA046**
 高 垣 マユミ **JD01,PC050,PC094,PE023,PH067**
 高 木 友 子 **PD065**
 高 澤 健 司 **PD085**
 高 下 梓 **PB025**
 高 田 治 樹 **PD010**
 高 野 辰 之# **PC020**
 高 野 七良見 **PD008**
 高 野 隆 一 **PB025**
 高 橋 彩# **JB09**
 高 橋 佳 代 **PC096**
 高 橋 恵 子 **研シ2**
 高 橋 純 一 **PD057**
 高 橋 知 音 **研企チ2**
 高 橋 舞# **PG023**
 高 橋 誠 **PH056,PH084**
 高 橋 美 保 **研企チ2**
 高 橋 佑 来# **PC089**
 高 橋 雄 介 **JA03,PF091**
 高 畑 英 樹 **PD053**
 高 畑 芳 美 **PB045**
 高 林 大 輝 **PH086**
 高 松 昭 彦 **JF05**
 高 松 勝 也 **JB02,JE07,PC060,PE027,PF019**
 高 村 仁 知# **PG091,PG092**
 高 村 真 広# **PB014**
 高 本 真 寛 **PB036**
 高 山 智 **PH096**
 瀧 香央季 **PC006**
 滝 口 圭 子 **JB04,JF03,PH077**
 瀧 澤 純 **PD013**
 宅 香菜子# **準企パ**
 田 口 禎 子 **PB054,PB055,PH089**
 田 口 雅 徳 **PE067**
 田 倉 さやか **PD061**

竹内和雄	JG02	田村修一	PB003	寺本妙子	PE061
竹内利光	PG042	田村隆宏	PA092	寺本貴啓	
竹内伸宜	PA073	多村真由美#	JD04		JE02,PC050,PE023
竹内謙彰	JA04	田村嘉勝#	PF064	照本寿和#	JF07
武田藍#	PE053	樽木靖夫	PE005		
武田明典	JE05				
竹田レイ子#	PA006				
竹綱誠一郎	PE044				
竹中美香	PA062	千種彰典	PF045	土井真一#	JD02
田澤実	PC002	千島雄太	PB087	湯立	PB061,PF040
多鹿秀継	PA038,PE040	千野直仁	JH01	藤後悦子	PH087,PH088
田実潔#	JE08	茅野眞起子	PG024	堂坂更夜香	JH05,PA069
田島充士		中葉陽子	PF082	登藤直弥	PF070
	研シ3,準企シ2,JB03	中條和光	PH032	堂野恵子	PB081
多田幸子	PH066	中條信裕	JB05	堂野佐俊	PB081
田爪宏二		長大介	PC016	堂野麻衣#	PB081
	JB04,PE023,PH067	陳省仁	PG091,PG092	當眞千賀子	準企基1,PH025
楯誠	PB097			東山薫	PA082
舘岡洋子	JH04			遠矢幸子	PE021
田中あかり	PH025			遠山孝司	JC03,PG008
田中あゆみ	PH053	塚田良子#	JF07	時津裕子	PC057
田中瑛津子	PH033	塚野州一	JG04	徳岡大	PA036
田中寛二	PE077	塚原望		徳田克己	JG07,PC064,
田中健史朗#	PF067		PD036,PG003,PG004		PH039,PH043,PH044,
田中宏二	PD024	塚本恵信	PC032		PH045,PH046,PH080
田中純夫	PE075,PE076	辻俊之	PG007	徳珍温子	PD022,PD023
田中健夫	PE093	辻義人	PE049	徳永智子#	PB014
田中千穂	PG094	土田弥生	PF020	戸田有一	
田中輝彦#	JD06	土屋由美#	JH04		JC04,JG02,PE022
田中俊也	JD01,PA032	土谷良巳	JH09	等々力裕介	PG051
田中光#	PH032	都筑学		轟木義一	PB018
田中博晃	PF031		PD081,PD082,PD083	刀禰豊	PD068
田中文夫	PE011	常田美穂#	PH029	利根川明子	JA01,PC052
田中麻未	PE091	常深浩平	JE06	利根川智子	PF092
田中道弘	PD045	椿田貴史	PA093	登張真稲	PB072
田中美帆	PG095	坪井裕子	PH009,PH010	土肥紳一	
田仲由佳		鶴島規晃#	PD076		PB032,PC020,PC023
	PD071,PD072,PD073	鶴巻正子	PD057	都丸けい子	JG03
たなかよしこ	JG06			富家直明	PD034
谷伊織				富岡直美	PG043
	PB075,PB076,PD049,PD061			富岡比呂子	PB013
谷冬彦	準企シ4	出口拓彦	PC086	富田英司	JB03,JE04
谷芳恵	PB051	出野美那子#	PE091	富永敦子	PC022
谷口弘一	PD024	寺井朋子	PB050	富山尚子	PD078
谷本薫彦	PB031	寺尾敦		塘利枝子	PB070
玉幡直也	PD035		JF02,JH01,PC007,PG045	友清由希子	JC08
玉井颯一		寺坂明子	PA075	外山紀子	JH02
	PD001,PD002,PD003,PD004	寺澤孝文	PC008,PC039	外山美樹	
玉田圭作	PG027	寺澤美彦	PB025		PB061,PC055,PF040
玉那覇瑞乃	PD075	寺田未来	PC067	豊田弘司	PE047
田村綾菜	JE06	寺見陽子	PA063	豊村和真	PB040

鳥 居 深 雪 準企シ3,JD07,
PE072,PF098,PH100
鳥 越 隆 士 準企シ3

— な —

内 藤 美智子 PB025
内 藤 裕 子
PH011,PH012,PH013
名 尾 典 子# PB072
永 井 智 PF030
中 井 大 介 JC07,PA007
中 尾 政 子 PD020
中 川 大 暉# PH040
永 作 稔 PH014
中 島 俊 思# PH076
中 島 千加子 PH098
中 島 寿 宏 PG060
中 島 奈保子 PB019,PB020
中 島 伸 子 JH02
中 島 範 子# JB06
中 島 誠 PC098
中 島 淑 子 PE042
中 島 義 実
PE097,PE098,PE099
中 谷 有 里# PD098
永 田 雅 子 PD064
長 谷 志津恵 PA015,PA016
中 坪 史 典# PG087,PG088
中 西 満 悠 PE045,PG050
中 西 良 文 PC037
中 根 由香子 PG025
中 野 真 也 PA001
中 野 友香子 PF010
中 野 瑠美子 PA052
中 原 朋 生# JD02
中 原 美 恵 JG03
中 見 仁 美 PE051
中 道 圭 人 PB068
仲 嶺 実甫子 PE080
中 村 綾 乃# PC022
中 村 勇# PE007
中 村 泉 PH018
中 村 和 夫 準企シ2
中 村 淳 子 PD092
中 村 孝
JB07,PF071,PF072
中 村 雅 子 PC079
中 村 光 伴 PG075
中 村 保 和 JH09
中 村 容 子 PA019

中 室 牧 子# JA03
中 谷 素 之 PA012,PE023,
PE037,PE045,PE046,PG050
長 谷 守 紘 JD06
中 山 辰 則# PD032
中 山 俊 昭 JF07
中 山 留美子 PA028
那須田 祐 未# PD097
名 取 洋 典 PF001
鍋 田 智 広 PF025
成 田 亜 希 PH035
成 田 絵 吏
PB005,PB006,PB007
成 瀬 智 仁 PB048
難 波 久美子 PH073

— に —

新 国 佳 祐 PG071
新 見 直 子 PE059
新 山 真奈美 PH049
二階堂 年 恵# JD02
荷 方 邦 夫 PH022
西 敦 子 PE057,PE058
西 尾 彰 泰# PC046
西 尾 祐美子 PF098
西 岡 美 和 PD042
西 垣 順 子 PC041
西 片 裕 PH036
西 口 利 文 JC05
西 田 公 昭# JH06
西 田 敬 志 PE075,PE076
西 田 千寿子# JF06
西 館 有 沙 JG07,PC064,
PH039,PH043,PH044,
PH045,PH046,PH080
西 塚 拓 海 PD034
西 中 華 子 PA014
西 野 真由美# JG01
西 野 美佐子
PH011,PH012,PH013
西 野 泰 代 PB012
西 原 康 行# PG008
西 村 純 一 PC089
西 村 多久磨
PD011,PF023,PF024
西 邑 翼 PA086
西 村 信 子 PE065
西 村 実 穂 JG07,PC064,
PH039,PH043,PH044,
PH045,PH046,PH080

西 元 直 美 PH074
西 山 薫 PE008
西 山 久 子 JE07,JG03,
PB002,PD029,PD030,PE001
西 山 めぐみ PC039
新 田 寛 子 PG072
二 宮 克 美
JD02,PF093,PF094,PF095

— ぬ —

沼 田 潤 PB070
沼 山 博
PH011,PH012,PH013

— ね —

根 本 信 義# JD02

— の —

納 富 恵 子
JE07,JF08,PD062
野 上 俊 一 PE024
野 口 隆 子 PG087,PG088
野 崎 浩 成 JG06
野 崎 優 樹 JE03,PH054
野 澤 義 隆 PH099
苗 田 敏 美
PD005,PD006,PD007
野 田 満 PB096
野 谷 祐 佳 PE008
野 村 晴 夫 準企シ2
則 定 百合子
PA091,PD071,PD072,PD073

— は —

萩生田 伸 子 PB029,PF018
萩 原 俊 彦 PD033
萩 原 康 仁 PB030,PH099
橋 詰 啓 子# PB050
橋 村 晴 美 PC032
橋 本 巖 PB088
橋 本 創 一 JA05,JB06,
PB054,PB055,PH089
橋 本 貴 充 PB028
橋 本 剛 PC081,PD024
橋 本 康 弘# JD02
蓮 見 絵 里 PC012
蓮 見 元 子 PB024,PD079

長谷川 和 代# JA07
 長谷川 智 子 JH02
 畠 山 孝 男 PB083
 畠 山 寛 PA029
 秦 野 悦 子 PE055
 畑 野 快 JB09, PH052
 服 部 環 PB023
 塙 万里奈 PA040
 馬 場 久 志 JC07
 濱 口 絵倫子 PF079, PF080
 濱 口 佳 和 PA071, PF085, PF086
 濱 田 尚 志 JC08
 濱 野 佐代子 JA08
 浜 辺 直 子# PG090
 浜 本 瑞 PG029
 林 亜希恵 PB005, PB006, PB007
 林 安紀子 JA05, PB054, PB095
 林 敬 子 PA046
 林 照 子 PA073
 林 美都子 PF008
 林 雄 介# PC010
 林 幸 範 PB041, PB042
 原 孝 成 PB089, PB090
 原 瑞 穂 PD014
 原 田 恵理子 PB017, PG079
 原 田 克 己 PA074, PE097, PE098, PE099, PH018
 原 田 新 準企シ4, PD050
 原 田 知 佳 PD001, PD002, PD003, PD004
 播 磨 俊 子 PD085
 伴 浩 美 PF073, PG078
 坂 西 友 秀 PA057, PA058, PC049
 半 澤 礼 之 JC07
 番 場 梨 彩# PD091

— ひ —

費 暁 東 PH026
 東 俊 一 PB046
 東 原 文 子 PE039
 日 潟 淳 子 PH019, PH020, PH021
 久 坂 哲 也 PA037
 菱 田 陽 子 PB086
 菱 谷 晋 介# JA04
 飛 高 和 浩 PE083

日 高 茂 暢 JB07
 兵 藤 宗 吉 PF044
 平 井 純 子 PG090
 平 井 花 PE074
 平 岡 清 志 PA006
 平 川 昌 宏 PH011, PH012, PH013
 平 嶋 宗 PC010
 平 野 真 理 PG025
 平 山 祐一郎 PG053
 平 山 る み PC091
 廣 木 道 心# JE08
 廣 瀬 英 子 PF074
 檜 皮 万里子 PG026

— ふ —

深 町 珠 由# PC073
 深 谷 孟 延# PE031
 深 谷 達 史 JE01, PF046, PF047, PF048
 深 谷 優 子 JC02, PF010
 福 井 義 一 PA084, PD099
 福 井 龍 太# PE007
 福 岡 潤 子 PH092
 福 島 豊# JB08
 福 田 佳 織 PA057, PA058, PD089
 福 田 圭帆理 PA009
 福 田 麻 莉 PG079
 福 田 由 紀 JE06
 福 地 孝 倫# PC050
 福 本 徹# JG01
 福 屋 いずみ PH032
 藤 桂 PD011
 藤 井 和 枝 JB08, PE085
 藤 井 和 郎# JD05
 藤 井 恭 子 JB09
 藤 井 勉 PE002
 藤 井 基 貴# PB068
 藤 井 靖 JA02
 藤 井 義 久 PD039
 藤 生 英 行 PC031
 藤 江 康 彦 JE02, JF05, PH006
 藤 枝 静 暁 PH042
 藤 岡 秀 樹 JE04
 藤 木 大 介# JF01
 藤 崎 眞知代 PH060
 藤 澤 啓 子 JA03, PE091
 藤 澤 憲 PD055

藤 澤 伸 介 JE01, PG097
 藤 澤 信 義# JG04
 藤 城 光 好 PD052
 藤 田 暁 子 PG037
 藤 田 恵津子 PA067
 藤 田 和 弘# PB023
 藤 田 元# PG073
 藤 田 哲 也 PC025, PF046
 藤 田 昌 也# PA046
 藤 田 裕 一# PA006
 藤 田 和加子 PD022, PD023
 藤 谷 智 子 PA053
 藤 塚 岳 子 PB074
 藤 野 京 子 PD041
 藤 野 光 裕# JC06
 藤 原 正 光 PD091
 藤 原 祐 喜 JG05
 藤 平 和 吉# PE092
 伏 見 友 里 PB077, PB078, PB079
 藤 村 宣 之 研シ3, JC02
 藤 本 浩 一 PA073
 藤 本 (谷口) 麻起子# PA008
 藤 森 千 尋 PC028
 藤 原 和 政 JE05, JG05, PB009
 藤 原 健 志 PE009, PF085, PF086
 藤 原 忠 雄 JG03
 藤 原 由香里 JA07
 布 施 光 代 PB082, PE025, PE026
 文 野 洋 PC092
 古 市 貴 弘 PB002
 古 重 奈 央# PD076
 古 庄 高# JH05
 古 田 伸 子 PG019
 古 屋 真 PH048
 古 屋 由貴子 PF039

— ほ —

星 信 子 PG091, PG092
 星 雄一郎 PF088
 星 野 崇 宏 研企テ1, JH01
 星 野 真由美# PE092
 細 木 俊 明# PC089
 細 谷 里 香 PH071
 細 羽 竜 也 PD069
 堀 田 千 絵 PA038
 堀 憲一郎 PF099

堀井和朗 PE010
堀江まゆみ JD03
堀田亮# PC046
本郷一夫 PE053
本田英理# JG02
本田恵子 PD036
本田周二 PA043, PG056
本田真大 JA06, PH079

— ま —

前川浩子 PD071, PD072, PD073
眞榮城和美 PD071, PD072, PD073
前園兼作 PF061
前田健一 PA036
前田由貴子# JD08
麻柄啓一 PC033
牧郁子 PA010, PA090, PD015
牧野幸志 PH081
真下知子 PA045
益川弘如 JG01, PC042, PH034
増田公男 PC061
増田健太郎 JC08
増田珠巳# PG090
増田みちよ JA02
増田優子 PB073
益谷真 PE013
升野邦江 PA017
増淵裕子 PB059
町岳 PE037
松井あずき# PH071
松井剛太# PH029
松浦葵# PA080
松浦素子 PE071
松尾剛 JA01, PC045
松尾理沙 PD075
松岡陽子 PB071
馬塚れい子# PC026
松木健一 PA018
松木太郎 PA091, PB067
松下佳代# JG01
松下真実子# PD074
松下美知子 PD005, PD006, PD007
松嶋秀明 JH06, PA097
松島るみ PA055, PA056
松並知子 研シ2

松原憲治# JG01, PB030
松見法男 PH026
松村茂治 JF08
松村環 PG041
松本亜紀# JB02
松本明日香 PD019
松本恵美 PD077, PE053
松本聡子# PD095, PD096
松本淳子 PD025
松本末男# PE009
松本博雄 PH029
松本麻友子 PB019, PB020
松本真理子 PH009, PH010
松本有貴 JF06
松山康成 PA004
眞鍋一水 PA081
マナロエマニュエル JF04
間宮正幸 JG08
丸山真名美 JA04, PC001

— み —

三浦文華 PH093, PH094
三浦香苗 PG094
三浦主博 PF092
三浦巧也 PB054, PB055, PH089
三浦正江 PH093, PH094
三川俊樹 JG03
御興久美子# ハ防企
三島浩路 JD05, PC084
三島知剛 JF01, PC048
三島正英 PB025
水越香奈子 PH100
水谷明弘 JG05
水野君平 PG005
水野智美 JG07, PC064, PH039, PH043, PH044, PH045, PH046, PH080
水野治久 JA06, JD08, PE022
水野里恵 PH075
溝上慎一 準企シ2, JB03, PA043, PG056
三田村仰# PA046
道田泰司 PF058
三井由里# PD074
光田基郎 PF004
光浪睦美 PB033, PB091, PB092
満野史子 PE086

皆川順 PF073, PG078
皆川直凡 PG043, PG049
皆川英明# JC03
南朱里 PA060
南雅則 PA080, PG026
南学 PB085, PH058
南泰浩# PE054
養崎浩史 JB05, PA089, PA095
箕輪潤子 PG087, PG088
三刈剛 JB02, PA025
宮川治 PB032, PC020, PC023
三宅貴久子 PC039
三宅理抄子# JD05
三宅良輔# PE092
宮崎清孝 研シ3, 準企シ2, JH04
宮崎沙莉# PD032
宮崎拓弥 PF003, PF009, PG072
宮崎豊# JB08
宮田佳緒里 PF011
宮田里枝# JG02
宮野祥雄 PB060
宮前桂子 JH07
宮本知子 PA080
宮本友弘 PF035, PF036
宮元博章 JA07
宮本正一 JC02
明旣光宜# JD04
三輪聡子 JC01, PG067
三和秀平 PC055

— む —

向居暁 PD046
向井敦子 PF021
向井隆久 PF066
向山泰代 PD042
武蔵博文 JD04, PB043
武蔵由佳 JG05, PH004
武藤世良 PC069
無藤隆 研シ1, JA01, PB089, PB090, PG087, PG088
村井潤一郎 JH01
村上香奈 PE056
村上達也 PB087, PD011, PF085, PF086
村上めぐみ PA080
村上祐介 PB008

村越真# PB068
 村瀬公胤 JE05,PD066
 邑本俊亮 PF015,PG064,PG071
 村山恭朗 PH076
 室屋賢士 PF083
 室山晴美 PC073

— も —

望月正哉# PD013
 本岡寛子 PA046
 元吉忠 PC090
 百瀬知輝 PH061
 森恵梨菜 PF071,PF072
 森さゆ里# JH04
 森敏昭 JB01,JE02,PD017
 森朋子 PA043,PG056
 森暢子# PG087
 森暢子# PG088
 森玲奈 PC021
 森岡正芳 準企基1,準企シ2,準企シ4
 森岡由起子# PG028
 森際孝司 PA046
 森下詩織 PB015
 森下正康 PA072
 森下葉子 PA057,PA058
 森田愛子 PC017
 森田英嗣 PE020
 森田憲輝 PG060
 森田愛望# PD088
 森田美弥子 PH009,PH010
 森野美央 JF01
 森本哲介 PH056,PH084
 守谷賢二 JE08
 森山雅子 PB075,PB076
 門司真由美# PC053
 門田幸太郎 PB091,PB092

— や —

八桁健 PB029,PF018
 安井彩乃 PF075
 安田節之 研企チ1
 安田傑 PH041
 安永悟 JC02
 安永正夫 PH027
 矢田智美# PF096
 柳岡開地 PA064,PF016

柳忠宏 PB044
 柳田竜一# JG02
 矢野佳奈# PD080
 矢野正 JH07,PG040
 簀内順子 PH053
 山内香奈 PC083
 山形恭子 PD090,PH064
 山縣宏美 PG054
 山形弥壽子 PH016
 山上寛子 PF097
 山川紀子# PH073
 山際勇一郎 PD092
 山口悦司# PC041
 山口孔丹子 PH097
 山口幸太# JG06
 山口隼ノ介 PH096
 山口剛 PG057
 山口豊一 JC05
 山口洋介 PA044
 山崎晃 JF03,PB093
 山崎彩加 PE003
 山崎勝之 PB010,PB011,PB037
 山崎加奈 PH038
 山崎浩一# PE056
 山崎茂雄 PF005
 山崎澄夫# JC04
 山下智也 JB07
 山下陽平 PB016
 山下竜一 PH059
 山田清輝 PB034
 山田達人 JA02
 山田剛史 JH01
 山田有芸 PE095
 山田洋平 JB02,PA017,PC060
 山田陽平 PA028
 山田嘉徳 PA049
 山津幸司 PG060
 山中大貴 PB005,PB006,PB007

山根嵩史 PH032
 山根隆宏 JD07
 山村麻予 PC063
 山本晃輔 PE048,PF025
 山本淳子# JH07
 山本ちか PF093,PF094,PF095
 山本睦 PG085
 山本利和 PA073
 山本初実 PH073

山本博樹 JC02,JD01,
 PA033,PA034,PG052,PG058
 山本正顕 PH074
 山本政人 PE044
 山本真由美# PC046
 山本ミカ PA080
 山本涉 PA085
 山森光陽 PC038
 矢守克也# 準企パ

— ゆ —

湯浅英幸 PA050
 有倉巳幸 PD027
 湯川隆子 研シ2
 弓削洋子 PC082
 湯澤正通 研シ1
 湯澤美紀 研シ1,JF03
 柚木さおり# JG02

— よ —

横嶋敬行 PB010
 横山恭子 PH059
 横山真貴子 PA068
 吉岡真梨子 PD017
 吉川厚# PG073
 吉川弘明 PC046,PF042
 吉國秀人 PC027
 吉崎聡子 PG035
 吉澤英里 PC072,PD013
 吉澤寛之 PD001,PD002,PD003,PD004
 吉田和樹 PH005
 吉田圭吾 準企パ
 吉田重和# PG008
 吉田琢哉 PD001,PD002,PD003,PD004
 吉田哲也 PD080
 吉田俊和 PD001,PD002,PD003,PD004
 吉田甫 JC02,PE042
 吉田ゆり PD051
 吉田梨乃 JE08
 吉武久美 PH009,PH010
 吉中淳 PF096
 吉野巖 PF009,PF012
 芳野道子 PB001
 吉野優香 PD012
 吉葉研司# JG08
 吉橋由香 PD061

吉 村 拓 馬	PB035
吉 村 麻奈美	PC094
吉 本 敏 子#	研シ2
吉 森 丹衣子	JE08
米 澤 好 史	PF061
米 山 祥 平	PA025

— り —

李 艷	PC097
-----	--------------

— れ —

蓮 行	PB022
-----	--------------

— わ —

若 畑 将 彦#	JG02
若 林 紀 乃	PB049
若 松 多 恵	PA054
若 松 養 亮	JE04, PC074
若 本 純 子	PE088
若 山 育 代	JB04, JE02
和 木 美 玲	PH028
和 田 邦 美	PG013
和 田 果 樹	JE01, PF047, PF048
和 田 剛 宗	PF079 , PF080
綿 井 雅 康	JA02
渡 部 竜 也#	JD02
渡 邊 はるか	PF060
渡 邊 雅 俊	JC06, PB038
渡 辺 弥 生	PB017, PE087
渡 辺 由 己	PH047
渡 辺 里 絵#	PC089
渡 部 雪 子	JH08
王 松	PB091, PB092, PH019 , PH020, PH021

— C —

Clark Chinn#	準企チ, JF04
--------------	-----------

— K —

Kenardy Justin#	JF06
-----------------	------

— L —

Le Brocque Robyne#	JF06
Lois Holzman#	準企基1

日本教育心理学会第56回総会
広告掲載・出展社ご芳名

明石書店	風間書房
金子書房	KEEPAD JAPAN
北大路書房	クロス・マーケティング
金剛出版	サン・エデュケーショナル
三京房	実務教育出版
新曜社	心理学書販売研究会
SAGE Publications	センゲージラーニング
創元社	テキスト
東京大学出版会	トーヨーフィジカル
トビー・テクノロジー	トロル
ナカニシヤ出版	日本文化科学社
ニホン・ミック	福村出版
ブックマン	保育出版社
放送大学教育振興会	北樹出版
丸善出版	ミネルヴァ書房
よしみ工産	楽天リサーチ
黎明書房	

(五十音順 敬称略)

本総会を開催するにあたり，上記各社より多大なご支援をいただきました。
心より感謝申し上げます。

2014年9月

日本教育心理学会

理事長 南風原 朝 和

第56回総会準備委員会

委員長 森 岡 正 芳

日本教育心理学会第56回総会準備委員会

委員長	森岡正芳					
副委員長	齊藤誠一	城 仁士				
事務局長	赤木和重					
副事務局長	林 創					
委員	相澤直樹	井倉未樹	石井敬子	伊藤 篤	伊藤俊樹	
	大坪庸介	加藤佳子	河崎佳子	木下孝司	坂本美紀	
	嶋田博行	谷 冬彦	鳥居深雪	吉田圭吾		
	(以下，神戸大学以外)					
	石本雄真	王 松	岡本英生	小花和ライト尚子		
	田仲由佳	中間玲子	則定百合子	日潟淳子		

日本教育心理学会第56回総会プログラム

発行日	2014年9月26日
発行者	一般社団法人 日本教育心理学会
印刷	よしみ工業株式会社